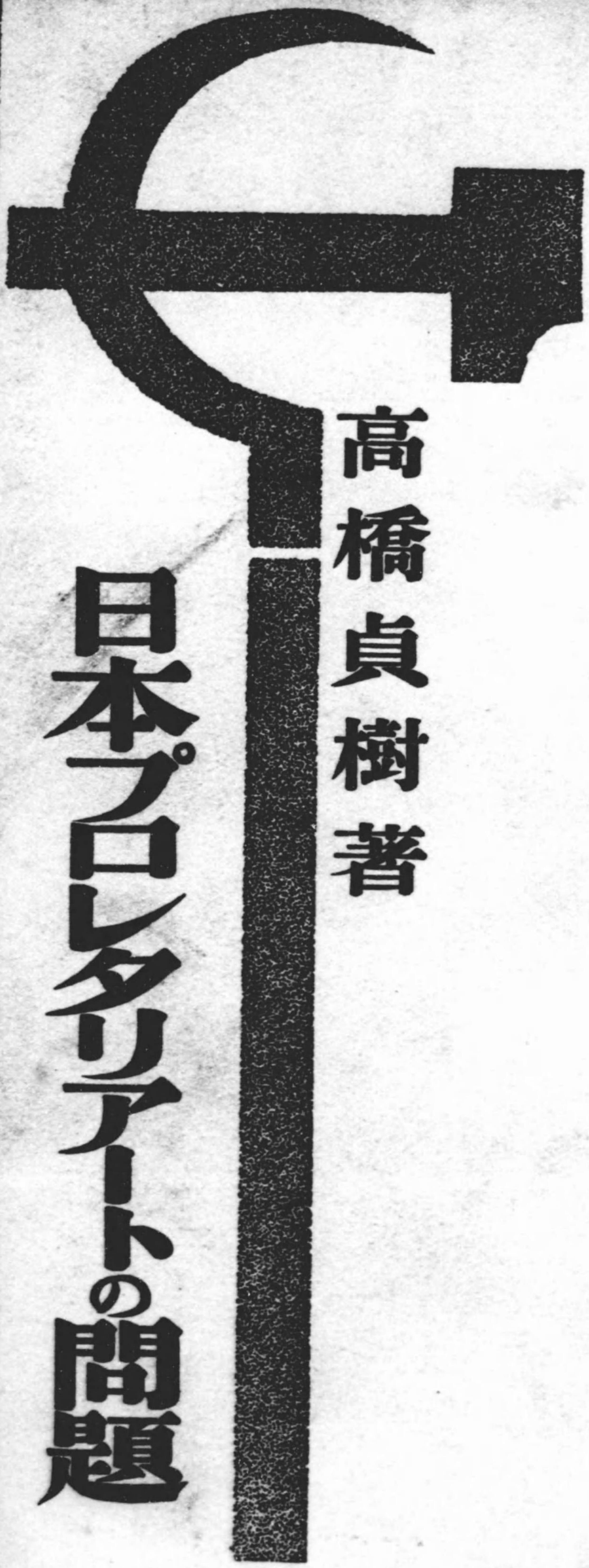


特500

139



高橋貞樹著

日本プロレタリアートの問題

日本共産党

昭和六年二月二十一日発行



\*0034781000\*

0034781-000

特500-139

日本プロレタリアートの問題

高橋貞樹・著

希望閣

昭和6. 2

AGC



333

函	安寧
號	312
永久保存	



特500-139  
~~禁~~ 1-217

高橋貞樹著



タリアートの問題



希望閣刊



## はしがき

- 一 本書は、高橋貞樹氏が、一九二九年二月から同年四月までのあいだ、いろんなペン・ネームで『マルクス主義』、『無産者新聞』、『労働新聞』に執筆した二十一の諸論文と、氏が滞外中にK・大村の署名で発表した三つの論文の翻譯とを、氏の意向に従つて、ほど發表順に編纂したものである。
- 二 二十一の諸論文のうち、『産業合理化と労働組合の任務』および『敗戦の跡』の二論文だけが、尻切れトンボに終つてゐる。これらの「つゞき」は、恐らく當時の彈壓のために、行方不明になつてしまつたのだらう。そして、前者の「つゞき」はそれ以後の『労働新聞』には現れず、『敗戦の跡』「その二」を『無新』で探し出すことは出来なかつた。
- 三 三つの翻譯のうち、著者が『ブラウダ』に投稿した『中國を壓殺しつゝある日本』は、かつて『マルクス主義』（一九二八年八月號）誌上に譯載されたことがある。本書では、その邦譯を、著者の注意により一二の訂正はしたが、そのまま再録してある。第二の『日本の支那干渉』は、二八年八月の『國際赤色労働組合』誌に現れたもの。第三の『植民地問題』は國際共產黨第六回世界大會における討論演説の速記で、當時『イムプレコール』（英文は一九二八・一〇・一一、獨文は同じく一〇・



二〇に公表されたもの。前者はその掲載誌によつて譯出し、後者は主として英文「イムプレコール」——著者は大會の席上、英語で演説した——により、「大會議事録」について補筆した（が、その個所は一々明示しなかつた）。譯文は、遺憾ながら、いづれも、著者の校閲をうる機会が與へられなかつたために、あるひは誤譯、曲解、その意を傳へてゐないところが多々あると考へる。この點、著者ならびに讀者諸君に陳謝する。

四 なほ各論文中にある統計數字は大體、そのオリヂナルによつて是正したつもりである。さらに引用文については、一應著者の内諾を得て、できるだけその出處を明らかにするやうに努めたが、その主要なものはずでに著者によつてなされてゐることで、ために冗長蛇足のそしりは免れないと思ふ。たと編者の仕事は、すべてこれを明記——編者、または記號「」を挿入——して、その責を明らかにしておいた。

五 最後に、本書の編纂に、色々な助力と配慮とを與へて下つた人々に深く感謝する。

一九三〇年

編

者

## 目次

はしがき

序文

- 一 中國を壓殺しつゝある日本……………一
- 二 日本の支那干涉……………一
- 三 植民地問題……………一
- 四 社會民主々義者の「統一」と舊勞農黨準備會の方向……………一
- 五 スローガン及び大衆動員について……………一
- 六 民主的スローガン、其他の問題……………一
- 七 わが國農業問題と農民運動の諸問題……………一
- 八 レーニン主義的勞働者教育へ……………一
- 九 社會主義建設途上のサヴェート同盟……………一
- 一〇 出版物とその書き方……………一

目次

一



一一	左翼社會民主主義者のデマゴグを駁す	一五
一二	産業合理化と労働組合の任務	一六
一三	支那革命の前途	一七
一四	左翼社會民主主義者の「横断左翼」	二〇
一五	民主XXのための闘争における議會解散運動の意義	二三
一六	工場内の組織及び大衆動員の諸問題	三九
一七	プロレタリア青年運動の急務	二六
一八	無産婦人運動の諸問題	二五
一九	労働者教育大綱	二九
二〇	朝鮮に於ける帝國主義的支配と民族解放運動	三三
二一	敗戦の跡	三三
二二	中國國民黨支配の動搖	三九
二三	日本の政治經濟に於ける半封建的關係の残存について	四五
二四	現時の運動に於ける緊急の必要について	三六

序 文

この論集に收めた拙稿は大部分、一九二八年末私が歸國して以來、翌年四月までに新聞雜誌に發表したものから成る。「無産者新聞」の「ブルジョア主義」の二つに發表したものが最も多いが、また別に小冊子として出版したものもある。發表に際しては、その都度、永田幸之助、内田隆吉等のペンネームを用ひたが、無署名のものも少くない。以上の他にサヴェート同盟滞在中の記念として一九二八年夏「プロウダ」紙に寄せた一文と、同年コミンテルン第六回世界大會席上植民地問題について私のこゝろみた討論演説の速記の二つを收めることにしたが、共に私の翻譯にかゝるものではなくまた私が眼を通す機會も無かつたものであることを断つておく。

所載の各論文に一々註解をつけることゝだらうし、且つ必要だと思はれるが、何しろ發表後一年半以上も再び之れを読み返す機會もなく、この論集の校正すらも自身でやつて居らぬ状態なので如何んともこれを果すことが出来ない。しかし、讀者は却つて發表當時そのままの文章に接することができその後の事實の推移と運動の経過とに照してこれ等を批判的に讀み且つ、何等かの教訓を汲み取ることも出来るであらう。

筆者はこゝでは、指導者として語つてゐない。たゞ運動における一員として、同僚の戦士——戦闘



的労働者に呼びかけたものに過ぎない。それも理論的な問題にはあまり觸れることがなく、運動の時々刻々の必要に應じて、戦術的な問題を取扱つたのであつた。

種々の理由から私が戦略に關して筆を執ることが出来るようになったのはズツト後であつた。私は之れを勞農派メンシエヴィキの日和見主義的戦略に對する駁撃の形で展開する豫定であり、最初のしがきを『マルクス主義』二九年四月號に發表することが出来た。これについて長文の本論を完成したのであつたが、その發表を見ないうちに筆者は四月の檢舉に遭遇した。實に四月の檢舉は勞農派メンシエヴィキをも救つたのであつた。

こゝに收めた諸論文では労働組合運動について述べる處が少い。その少いうちでも『産業合理化と労働組合の任務』と題する一文は、尻り切れとんぼに終つてゐる。この續稿は當時反動の嵐のために吹き搔らはれたものかどうか、兎に角新聞には現はれなかつた。この論文では相當重要な結論を與へて居り、その後一年有餘の間にこの問題は全面的意義を以つて、日本の労働者階級に當面するに至つた。惜しいことであるが仕方がない。

しかし、労働組合の問題については、既に我々の忘るべからざる労働者指導者渡邊政之輔の論集『左翼労働組合の組織と政策』があり、また同志鍋山貞親の論集も必ず出るであらう。讀者諸君が之れ等について學ばれんことを切望する。

『労働者教育大綱』といふ論文で参考書目が掲げられてないことを讀者諸君は飽き足らなく思ふに違ひない。之れは數年の間日本語の文献に離れて居り、歸國後も多忙な且つ不自由な状態にあつた私としては、匆卒の間に文献を蒐集して之れを批評することは全く不可能であつた。その後も約束を果さずにあることに對しては一言お詫しておく。

この論集の諸論文はもともと日本の戦闘的労働者のために書かれた。本論集もまた日本の労働者及び農民に捧げられる！

最後に本論集の編輯出版に盡力された人々に深く感謝の意を表する。

高橋貞樹



中國を壓殺しつつある日本



日本の反動政府は、新たなる數萬の軍隊を中國に派遣し、全山東省、青島、濟南鐵道及びその附近にある鑛山諸企業を占領した。

滿洲に駐屯してゐる軍隊は益々増大して居り、また朝鮮と滿洲との境界線には新たなる派兵がなされた。天津では、日本軍隊の大部隊が市街を「守護してゐる」。この目的からして、同市の極めて顯著な部分を占領してゐる。そして、北京では××軍事飛行機が首都に對する空中示威を行つてゐる。

これらは單なる侵略ではなくして、中國人民との公然なる××である。國民黨はといふに、この××的な日本帝國主義の侵入に反抗する鬭争をやらうなどとは考へてもゐない。

國民黨は、たちまちに帝國主義者等に服従して了ふたのだ。國民黨の「檄文」にしる、「反抗」にして、何等の意義も持たなかつた。現在の國民黨は、帝國主義者等にとつては、もはや、脅威に値しない。日本の侵略主義者等は他の侵略主義者と同じやうに、このことをよく知つてゐる。滿洲や北部中國の方々に自分の軍隊を強大にしながら、日本の侵略主義者等は曰く、「滿洲は日本の××たらねばなぬ。滿洲に於ける日本の支配を危くする奴があるなら、そいつらを全部××する必要がある」と。

これと同時に、○○の帝國主義者等は、ありとあらゆる奸計陰謀の限りをつくしてゐる。彼等は個



個の軍閥等を利用する手くばりをつけてゐるし、馮玉祥、閻錫山と結び始めてゐる。

## 二

議會開會に當りその演説の中で、日本の首相兼外相田中は、日本は極東の平和を維持するてふ「偉大なる使命」を持つてゐる。即ち、偉大なる中國革命を破砕し「赤色の危険」を殲滅して、中國に對する日本の支配を維持する使命を有すると述べた。そして田中の政府は、この「偉大なる使命」の遂行にとりついてゐるのである。

廣東軍の北伐時代の大革命が、重に英國の勢力の範圍に損害をかけた時に、日本は全力を傾注して當時の狀勢を利用し、以つて英國の地位を占め取らんとした。これは幣原外交時代であり、若しくは、所謂中國への經濟的喰ひ入り時代であつた。當時の日本は英國との共同進出に賛成しなかつた。當時政權にあつた憲政會（現時の民政黨）の政治的代理人である三菱コンツェルンは、英國との共同進出については、現在の政府黨政友會の主人たる三井ほどには利害關係をもたなかつた。また對支商業の一時的好況のおかげで儲けた中小商人等は、どちらかといへば、侵略には反對であつた。ところが、革命が揚子江流域に擴大し、上海が國民革命軍の掌中に陥るに至るや、中部中國にある日本の資本は救ひを求めて叫び出した。この時に、日本のあらゆる反動的勢力に支持されてゐる田中政府は、大び

らな侵略政策を提げて乗り出した。中國に向つて多數の軍隊が送られ、蔣介石は買収された。そして五大銀行の相談會議は、この「積極方針」を祝福した。

田中の政府が招集した所謂東方會議前までは、南滿洲の執行權力は三人の間に分割されてゐた。即ち、南滿鐵道の代表者と、奉天の總領事と關東洲總督との三人の間に。田中政府は南滿鐵道の代表者の椅子に三井コンツェルンの代理人山本を任命して、權力をこの代表者の掌中に集中した。

一九二七年の後半に、日本帝國主義は、張作霖と蔣介石との間に一時的媾和を結ばせやうとして成功した。この時期に日本は山東に新たに軍隊を派送し、滿洲における己が權力を強力にした。今や、その警察機關を通じて活動してゐる日本の領事等は、南滿洲の全市街、全地方の唯一の權力をなしてゐる。日本の鐵道敷設計畫は擴大された。且つ鐵道敷設に關して張作霖との交渉に際し、日本は終始侵略的に踏ん張つた。地方的意義の一つの鐵道——奉天、海龍間——しかもたぬ支那のブルジョアジ—は何事をもなし得なかつた。日本は滿洲における鐵道敷設の全部を己が手中に握らんと急いだ。特に日本は、戰略上重大にして、北朝鮮と吉林省の中心を結合してゐる長春——吉林——會寧——京城の貫通線の竣成を急いでゐる。

## 三

中國を歴殺しつゝある日本



滿洲は事實に日本の×××と化した。日本の小學校の地理教科書では南滿洲は日本の領土化されてゐる。日本の帝國主義者等もこれと相應して振舞つてゐる。「日本人のための滿洲」——これぞ永年に亘る日本帝國主義の唯一の政策である。滿洲にある十數億の日本の資本は（このうちの七割は南滿鐵道會社——三井、大倉、安田、三菱のコンツェルンその他のトラストに屬してゐる）、守護されねばならぬといふのだ。そして「帝國の權利と利益を維持し、國民の生命と財産を擁護する」ためには、「手強い方策」が必要であるのだ。

これらの「平和的な諸計畫」を實現しつつ、日本當局の計算によると五萬四千に達してゐる日本軍は北部中國のあらゆる方面を占領し、五十五艘の日本軍艦は中國の著名な全港を封鎖してゐる。

しかしながら、日本は氣儘にその腕を振はれない。アメリカの外務大臣ケローグは露骨な反對を控へてゐたものゝ、合衆國は滿洲における日本の如何なる特殊利益も認めてゐない、と豫見的に宣言した。一方では、日本とイギリスとの接近が最近に至り顯著になつてゐる。

日本が一番いゝ部分を搔つさらはんために、自己の戰略上の好状態を利用することをあせつてゐる。かくて日本は滿洲のと同じ運命を山東に準備してゐる。けれども「中國に利害を有する」他の諸強國は、獅子の分け前を日本にゆるすことは出来ぬ。帝國主義者等の間にある反目は除去されないのだから、日本に依つて開始されてゐる戰爭は帝國主義戰爭に轉じ得られるのである。

## 四

中國における日本の反動的支配をおびやかしてゐる何等かの危険性が存在してゐるかどうか？ 然り、存在してゐる。それは第一に、北部中國の勞農大衆の自覺であり、植民地諸民族の擡頭である。

會ては一九二五年に上海の事件に續いたストライキの大波瀾は、日本の諸企業に強く反映した。中國の國內諸地方における大衆の貧窮は、中國との商業を著しく縮減した。就中、これは日本にとつた痛手であつた。

その後、これに打ち續いた強力なる革命的擡頭は單に南方中國にのみ限られなかつた。この諸結果は全國に現はれ、更らに北滿の如き遠方にも及んだ。張作霖と日本軍國主義者等の強烈なる彈壓にも拘らず、滿洲においてさへも、ストライキ數は年を逐ふて増大した。永年の間、〇〇軍隊に踏みじ

られてゐた勞働者農民は叛逆し始めたのである。齊々哈爾の如き僻陬地にすら苦力の峰起があつた。一九二七年の暮以來、滿洲では大衆的檢舉と死刑が行はれてゐる。〇〇の権力者等は、全南滿鐵道に亘つて、中國鐵道勞働者の指紋を取つた。一九二七年の七月には〇〇の工場にストライキを組織したといふ廉で、大連で四十八人の中國共產主義者が檢舉され、遂に同志トン・ホ・カラその他の共產主



義者達はこのあひだ死刑の宣告をうけた。また、同年の八月には本溪湖で千三百の苦力の蜂起があつた。そしてこの蜂起は〇〇の軍隊に依つて鮮血の中に没入されて了つた。

反動に抗する運動は、大衆的性質をおびて來てゐる。奉天には強度の物價騰貴が君臨し、奉天票は下落してゐる。本年初頭には奉天票は、その本來の價値の四十分の一乃至五十分の一にまで下つた。下層官吏は怠業し、兵卒は戦線から脱走し、都市の警官と學校教師は罷業し、無数の工場はストライキの波浪に吞まれてゐる。

北部中國、即ち吉林、山東にあつては、一九二七年二八年は、これらの諸縣におけるストライキの初めての擡頭となつてゐる。

國民黨と、死刑執行人蔣介石の彈壓にも拘らず、濟南事件このかた、大衆自身は反日本運動を猛烈にやり出してゐる。反日本運動は濟南、青島、天津、北京等に擴大してゐるし、奉天にも亦波及してゐる。

「安寧秩序」は〇〇の陸軍諸部隊に依つて保たれてゐるにすぎぬ。

これと同時に、列強國間相互の競争、軋轢はいよ／＼激甚となり、張作霖の舊英國顧問官シムプソンは、革命の波濤に未だ見舞はれなかつた北部中國に於ける英國資本の大なる積極性を發揮する必要あることを、すつと以前に強調してゐた。今や、この方向をたどる英國の新たなる進取性を見ること

が出来る。アメリカ合衆國は新しい市場をあさりつゝあるし、獨逸も同様にその商品を北部中國と滿洲に輸出し始めてゐる。

〇〇の帝國主義者等は長春——吉林——會寧——線と、四平街——洮南——齊々哈爾濱の建設の速竣に努力しつゝ、東支鐵道を握らんと欲して居り、而してサヴェート共和國とその沿海洲を侵撃せんと待ち構へてゐる。

## 五

中國の軍事的分割は始められた。中國の國民ブルジョアジイは完全に國民革命の事業を裏切つて了つた。〇〇の陸軍が南軍に向ひ、濟南住民に發砲し、南方兵卒の前衛が死にも狂ひになつてこれに反抗してゐた時に、〇〇軍と中國軍の將校等は「平和のために」お互ひに握手を交してゐた。

國際プロレタリアートと被壓迫諸民族の××××の速刻的發現のみは、近づきつゝある壞廢、即ち中國人民と中國革命に突貫する流血の進撃を、未然に阻止することが出来る。

中國と〇〇のプロレタリアは、諸新聞に現はれてゐる檄文が示してゐる如く、既に、〇〇帝國主義に對する反對、侵略に對する反對、中國征服に對する反對の××××の必要をのみこんでゐる。



日本の支那干涉

中國および日本プロレタリアートの任務



國內の階級闘争と外國からの軍事的蠻行

日本帝國主義の支那革命に對する戰役

日本帝國主義の支那における諸計畫

日支プロレタリアートの統一戰線とその任務

支那の軍事的分割は事實上すでに始つた。極東には暗雲が低迷してゐる。日本は山東省および北支那全體を占領してゐる。滿洲における支配を維持し、滿洲を（すでに全く朝鮮がさうである如く）日本の植民地とするために、滿洲「王國」の布告が日本側で準備されてゐる。日本の帝國主義者共はかのいはゆる「赤色の陰謀」によつて惹起された濟南事件と奉天におけるスパイ的誘發とを利用して同時にサヴェエト同盟に對する新しい戰役を企てゝゐる。日本の軍隊はますます滿洲に集中される。あらゆる國々の帝國主義者共は支那民衆に對する統一戰線を形成してゐる。特に英國は日本と提携した。がまた他方、個々の帝國主義列強間の諸對立が鋭化し、これら列強は日本に獲物に對する獅子の分け前を譲らうとは欲してゐない。

戰爭は支那民衆と支那革命とにそむいておこなはれるだらう。いつなるとき、新帝國主義的世界戰爭が勃發するかもしれぬ。貪慾な日本帝國主義の蠻行は、被壓迫者に對する新しい血腥い十字軍で全世界を脅してゐる。

この緊張した状態において國際プロレタリアートは一層重大な任務に當面してゐる。特に中國および日本の勞働者農民はあらゆる手段を講じて、支那革命を防衛するために、日本の干涉反對、支那の軍事的占領反對、の闘争を起さねばならぬ。



## 國內の階級闘争と國外からの軍事的蠻行

一四

ミカドの政府は裏切者蔣介石を敵としてではなく、支那民衆を敵として公然の戦争をやつてゐる。自國內では〇〇帝國主義は労働者農民を最も野蠻な方法で攻撃してゐる。世界戦争直後、日本帝國主義は困難な状態に陥つた。かれは引つ切りなしの恐慌に悩んだ。支那革命は日支間の貿易關係、ならびに支那に投資された日本の資本に多大な損害を與へた。日本はといへば、労働者運動が急速に發展し農民もまた運動に投じた。

日本の反動政府は、たゞテロルのおかげで支へられてゐるにすぎない。支配階級は労働者ならびに農民運動を用捨なく抑壓してゐる。幾千の革命的闘士は牢獄に呻吟してゐる。

去る二月の選挙中、日本の労働者農民は攻勢に移つた。テロルにも拘らず、かれらは革命的統一戦線を形成し、共産黨を再建して、日本における一切の革命的勢力に對する組織的中心となつた。彈壓にも拘らず、左翼の労働者農民黨たる「労働農民黨」は約二十萬の投票を得た。

労働者農民の統一戦線に對して、ブルジョアジイは強化された報復をもつて對抗した。革命的大衆組織の幾百の指導者たちは投獄せられ、労働者、農民および青年の合法的諸組織は不法なものとして彈壓された。がしかし勤勞大衆は反動によつて尻込みしなかつた。かれらは、非合法に追ひこまれた

労働農民黨、評議會および青年同盟の再建のために闘争した。共産黨もまた偉大な實行力と果敢を示した。メーデー示威運動の成功、ストライキの波の昂揚、農民行動の鋭化は、日本における激化した階級闘争の明白な證據であつた。「反動的ブルジョア政府を××、ミ〇〇を××、労働者農民の政府の××」のスローガンは廣汎な大衆のなかに、ますくポピュラーになつた。

日本帝國主義の植民地、朝鮮や臺灣においては、同様にテロルが荒れ狂つてゐる。朝鮮の労働者農民のあらゆる行動は、最も苛酷な手段で抑壓され、九十九人の共産主義者の訴訟事件に關連して共産黨員に對する一層廣範圍の訴訟事件が準備されてゐる。北朝鮮の中心地たる間島には、刑殺隊が派遣されてゐる。しかし報復にも拘らず、朝鮮の労働者農民は、かれらの組織を強化し反帝國主義的統一戦線を形成することを理解した。

小さな島、臺灣の状態に關していへば次の如し。労働者ならびに農民運動は、そこでは甚だ成功的に發展してゐる。砂糖栽培に義務勞役を強ひられてゐる農民の間には、しばしば暴動がおこつてゐる。一九二七年には支那革命の影響をうけて臺灣を日本帝國主義の軛から解放しやうとの試みが幾度もなされたが、それは××宮暗殺計畫と關連して、總督をして警察政治を一層嚴格にさせた。

日本政府の状態は不確定である。内地の抗争は政府の地位を動搖させて來てゐる。日本の勤勞大衆や日本の植民地における被壓迫諸民族に對して公然の戦争を宣言した政府の首腦、田中大將は、支那



における「輝かしい勝利」によつて輿論をそらし、かつ將來の「大日本帝國」の見込みで輿論を静めやうと、試みてゐる。

### 日本帝國主義の支那革命に對する戰役

アジアにおける反動の支柱、支那革命の最大の敵、日本帝國主義は、支那において明白に反革命的な役割を演じてゐる。支那は日本にとつて最も重要な販路であり、かつ一個の資源である。日本の投資は他の外國列強のそれよりも大であるばかりでなく、支那は概して日本資本主義の最も重要な活動舞臺をなしてゐる。日本は巧みに戰略上の地位を利用して、ますます突撃しようとしてゐる。日本は事實上、滿洲を自己の植民地とした。

支那に國民革命が勃發したとき、日本帝國主義は立派な外交的取引をした。北支那に出兵中、時しも支那革命が主として支那における英國勢力に對して向けられてゐたので、日本は英國の失脚によつて利益を得、經濟的に支那に侵入することを理解した。がしかし革命が中部支那における日本の投資をおびやかしたときに、日本の一切の反動的勢力は田中大將にその利益の擁護を訴へた。かくして○政府は反革命的侵略政策に移つて行つた。かれは夥しい兵力を支那に派遣した。

日本帝國主義は今や、支那××に反對して進軍してゐる。幾千の革命的中國労働者は銃殺された。

日本人は峰起した農民のあひだに虐殺をおこなつた。日本帝國主義は中國勤勞大衆の國民革命運動の攻撃に世界ブルジョアジの陣列を指揮してゐる。特にかれは、革命のプロレタリアの前衛、共產黨を攻撃してゐる。

支那革命は、社會主義的世界革命の發展の途上、新時期を開いたところの歴史的大事件である。支那革命は全アジアを煽動し、資本主義世界の相對的安定をおびやかした。支那革命は世界帝國主義の支柱を堀ちくり返へした。それは全大陸の植民地半植民地における幾百萬の奴隸を運動に引き入れた。世界ブルジョアジは支那革命に反對してゐる。がしかし、支那革命の背後には國際プロレタリアートがひかへ、被壓迫諸民族がその味方となつてゐる。

蔣介石の裏切り、國民黨の破廉耻な寝返りは、帝國主義者共の新しい攻勢に路を拓いた。血に餓えた支那ブルジョアジや國民黨は、帝國主義者共にとつてもはや危険ではない。軍事的干涉は事實となつた。

日本帝國主義は支那に多くの軍隊を集中したばかりでなく、滿洲におけるその支配をも喰ひとめて來た。滿洲における執行権力が集中され、日本は新しい鐵道を敷設してゐる。吉林から海龍に至る戰略上重要な新線が最近、開通されようとしてゐる。と同時に、日本は新鐵道の敷設に關して商議し、



東支鐵道を攻撃し、そしてサヴェイト同盟に對する軍事的襲撃を準備してゐた。

一八

### 日本帝國主義の支那における諸計畫

田中大將は首相兼外相としての最初の演説において、日本は「極東の平和を維持する」、すなはち、革命の軍事的干渉とその殲滅とによつて支那における日本の支配を確保するといふ「高遠な使命」をもつてゐると宣言した。支那における日本帝國主義の「利益」を危険が脅かす場合、かれは決して躊躇することなく武力に訴へてそれを擁護したのである（一九二五年には郭松齡の軍隊を撃破した、等等）。日本の軍隊は四千人の南軍の兵士と溫和な市民とを殺し、濟南では千五百人の人間を傷害した。日本の軍隊は、山東省、青島鐵道、ならびにそれらの地帯における一切の鑛山や經營を占領した。五萬四千の日本の兵士は北支那に駐屯してゐる。支那の一切の大きな港は封鎖されてゐる。滿洲や滿鮮の境界線にある日本の兵力は絶えず強化されてゐる。鴨綠江の溪谷には新しい遠征艦隊が前進してゐる。日本帝國主義は山東省や北支那を明け渡さうなどとは考へてゐない。

これはもはや干渉ではない。支那の軍事的占領、分割である。一九〇〇年このかた、支那にはかくも尨大な武力の駐屯したことがなかつた。これに満足せず、今や田中大將は、十八萬の日本臣民を保護するために十萬の兵士を滿洲に派遣せねばならぬと宣言した。加ふるに滿洲における十八萬の日本人は、主としてさきの兵士、將校、官吏、および巡査からなつてをり、これらはいづれも武装してゐるのである。

ひとは日本帝國主義の新計畫に特殊の注意を拂はねばならぬ。滿洲における日本の政策、最近の諸事件、北京の明渡し、張作霖の暗殺計畫とその死、前清國皇帝の到着、忠實な日本の手先張宗昌と張雨亭（雨亭は作霖の字名）との間の東三省をめぐる争ひ等々を思ひうかべるならば、滿洲が一つの植民地と化せられるに相違ないことを認めるだらう。「王國」の布告が、その第一歩となるだらう。すでに十八年間、外國の鞭の下に呻吟した朝鮮二千の住民の運命が、いまや滿洲および東蒙古の住民をもおびやかしてゐる。と同時に、日本はサヴェイト同盟に挑戦し、東支鐵道を占領せんとする目論見をサヴェイト同盟に押しつけてゐるのだ。——その實、自分自身がこの計畫をいだいてゐる癖に。この緊張した状態において、新帝國主義戦争の前夜にあたつて、世界プロレタリアートは重大な任務に當面してゐる。

### 日支プロレタリアートの統一戦線とその任務

支那は武力によつて占領された。帝國主義者共は、その軍隊を撤退し、かつ不平等條約を修正しようとしなひのみか、國民ブルジョアジーの裏切りと降服のうちは、支那を分割しようとしてさへ欲してゐる。日本は、すでに述べたやうに、滿洲および山東省の最後決定的な植民地化を畫策してゐる。



國民黨は帝國主義の手先となつた。日本の軍隊が濟南を占領し、南軍の前衛の反抗が無効に終つたときに、日支兩軍の將軍たちは手をさしのべて、お互ひに「平和愛」を誓つた。

だが必要なことは、中日のプロレタリアートが握手し、團結して、日本帝國主義反對、支那の干涉および軍事的分割反對の協同闘争を張ることである。國際プロレタリアートと全被壓迫諸民族との連帯性のみが、この破局を、支那民衆に對する流血の攻撃を阻止することができる。

支那および自國內における日本帝國主義の反動的政治は、すでに動搖しはじめた。滿洲においては從來、張作霖の鐵拳によりまた日本帝國主義共のために押へつけられてゐた勞働者農民が擡頭する。刑殺者蔣介石の報復にも拘らず、驚くべき距離にも拘らず、支那における大衆自身は精力的な反日カムパニヤを組織してゐる。到るところ「打倒日本帝國主義」、「市民は目ざめた、國民更生の時はきた」などの見出しのついた傳單があらはれてゐる。反日運動は全土に擴大し、すでに上海、濟南、青島、天津、北京に波及した。運動は奉天にすらのびてゐる。

○プロレタリアートは、支那民衆の頭上にぶら下つてゐるカイベルを引きとめるべき革命的義務をもつてゐる。○プロレタリアートは、日本の反動政府反對の大衆闘争を組織せねばならぬ。太平洋勞働組合書記局および中國勞働組合聯合會は飛檄して、國際プロレタリアートに即刻的行動を要求してゐる。特殊な檄が日本プロレタリアートに向けられてゐる。○×××は廣汎な大衆を支那にお

ける戦争の強盜的性質ならびに日本帝國主義者共の諸計畫に目ざめしめ、大衆運動を指導せねばならぬ。革命的勞働組合(舊評議會その他)は非干涉闘争に積極的に参加し、その組合員、右翼および中間派組合をも動員すべきである。支那に對する武装干涉の目的、および帝國主義戦争の危険を用捨なく暴露せねばならぬ。煽動は廣範圍にわたつて行はれねばならぬ。干涉の批判は、たゞに日本の勞働者に加つてくる損害といふ立場からするばかりでなく(例へば、獨立なプロレタリア新聞「無産者新聞」の四月、五月號におけるが如く)、日支プロレタリアートの、支那革命の、および被壓迫の植民地半植民地の階級的利害といふ立場からもせねばならぬ。吾々のスローガンはかうだ。「干涉反對」、「支那の軍事的分割を阻止せよ」、「支那革命を守れ」、「支那およびその他の植民地から撤兵せよ」、「日支兩軍の交驛」、「日支勞働者農民の團結」、「帝國主義戦争××」、「サヴェイト同盟を×れ」。

たい中國勞働者農民の協同闘争のみが、よく腐敗した將軍連を壓服し、國內の反革命を打破し、國際プロレタリアートの支持によつて革命的支那の獨立を確保しうるのである。中國プロレタリアートは、その組織を再建強化し、共產黨の指導の下に國民革命を勝利に導かねばならぬ。

非干涉運動は日本においてもまた増大した(五月十九日から二十五日に至る非干涉週間は、東京、横濱、四國、名古屋、水戸、大阪、松坂、熊本、○○「不明」、青森、仙臺などの多くの都市において偉大な成果を収めてゐる)。日本勞働者は在留中國人の非干涉運動と提携してやつた。ニユー・ヨーク



では、中日労働者は協同の集會と示威運動とを組織した。中國の水夫は、日本鐵道従業員のスライキを支持した。このスライキは改良主義指導者共のために裏切られた。

日支の勤勞大衆は〇〇帝國主義に反對してもつと緊密に結合せねばならぬ。兵士は戦線において闘争をやらねばならぬ。支那革命は勝利せねばならぬ。

—署名「大村喜助」、『エル・デー・イー』一九二八・八月—

## 植民地問題

—コミンテルン第六回世界大會席上における討論演説—



同志諸君。日本代表は、一般に、同志クウシネンによつて提出されたテーゼ草案に同意するものである。私の意見に従へば、テーゼ草案の眞價は、植民地Ⅱならびに半植民地諸國におけるブルジョア民主主義革命の過程の、あざやかにして生氣ある分析にありと思はれる。

だが、私はテーゼ草案について少し言及してみたいことがある。先づ第一章、すなはち、帝國主義と植民地諸國との間の「一般的」諸對立および諸矛盾を取扱ひ、かつこの矛盾を吾々の時代の、帝國主義の時代の最も基本的な矛盾として記してゐる點に對して。帝國主義者共は、植民地および半植民地において新しい分割をしようと試みてゐる。帝國主義者共の軍隊はこれらの植民地に侵入して、被壓迫民衆を蹂躪してゐる。新植民地の占領とその獲得鬭争との結果として、新しい戦争の危険が、迫つてゐる。吾々がインドの工業化について語る場合、吾々はこの問題を英國帝國主義の戦争準備と全く切り離してこの問題を論ずることはできない。この理由から、同志諸君、吾々は帝國主義諸國と植民地との間の諸對抗——この諸對抗が第一章では一般的に觸れられてゐる——の意義をもう一度、力説しておく必要があると、考へる。

第二章においては、植民地における帝國主義的政策の本質が分析されてゐる。確かに、資本主義は數個の段階——商業資本主義、産業資本主義の段階、そして、は帝國主義的段階の時代——を通過してをり、かつまた、これらの段階に照應してそれ／＼植民地の搾取および侵略の方法が行はれてゐる。



商業資本主義の時期は、戦争と略奪と、ならびに原始的な収奪方法によつて特徴づけられる。産業資本主義の時期は、廉價の商品による侵入によつて特徴づけられる。そして吾々の時代、すなはち帝國主義時代においては、吾々の見る如く、略奪と強盜戦争と廉價な商品による侵入とならんで、資本の輸出が行はれてゐる。植民地における生産諸力の増大はまた、植民地における新しい過程を生んだ。すなはち土着ブルジョアジーと土着プロレタリアートの増大、これである。

一般的にいつて、植民地および半植民地の世界經濟における特殊な重要性が高まりつゝある。こゝに帝國主義の諸々の矛盾が存在する。資本の輸出は、植民地ならびに半植民地諸國における生産諸力の増大をもたらし、その工業化を促進する。

第七節においては、植民地工業化の過程が分析してある。こゝでは、同志クウシネンは、「帝國主義的植民地政策（これは結局、金融資本の利益に歸着してゐる）の一般的な反工業化傾向からある種の偏向」の問題について語つてゐる。がしかし私の意見では、これは「ある種の偏向」の問題ではなくして帝國主義の基本的矛盾である。資本の變態は、吾々の時代では、世界的規模において完成されるといふことを吾々は知つてゐる。本國の産業資本は、植民地においては貨幣資本や商業資本として機能する。資本の變態の過程は、マルクスに従へば次の如く、すなはち  $G—W…P…W'—G'$ 〔貨幣—商品…生産過程…商品—貨幣〕と記述しうる。この過程は世界的規模において完成さ

れる。本國の産業資本は、植民地の原料および食料品を買ひ入れる。以前にはブルジョアジーは、これらのものゝ生産過程を本國內で営み、その完成商品を植民地諸國に輸出したのであつた。今や帝國主義の時代においては、事情が一變した。生産過程は植民地において完成される。

こゝに帝國主義の基本的矛盾が存在し、こゝに本國における諸々の資本家群の間の諸矛盾が横はつてゐる。こゝにまた、植民地諸國における土着の大ブルジョアジーと帝國主義諸國との間の一層急激な諸矛盾が発生する。しかしこの資本の輸出は、植民地諸國における大工業化をもたらしものではなない。といふのは、輸出された資本は、繊維工業とか製鐵工業とかに投資されるのではなく、特殊な工業部門、すなはちゴム、砂糖、タバコ等々に投資されるからである。それ故に二三の植民地においては冶金工業を抜き、また繊維工業をすら缺いてゐる。これが帝國主義者共の決定的な反工業化政策の結果である。

金融資本は植民地諸國の工業化を欲しないが、とにかく資本家共は植民地に向けて輸出してゐる。このことは帝國主義の大なる矛盾である。だからして、もつと精密に、植民地諸國におけるこの工業化の過程と、ならびにその本國における金融資本に對する諸關係とを、説明しておく必要がある。

工業の著しい發展と、土地生産物の完成商品への急速な轉化があるにも拘らず、今なほ農業においては封建的諸關係が残存してゐる。高利貸資本、とても高い小作料、苛税による収奪、農民の小規模



家内工業の絶滅、農民層の貧窮化とプロレタリア化——かくの如きが、あらゆる植民地Ⅱならびに半植民地諸國における特徴である。

これと聯關して、私はテーゼのなかに強制契約、拓殖、水利の獨占到言及する必要があると思ふ。多くの植民地Ⅱならびに半植民地諸國においては、大資本家的農業經營者と小農や貧農との間にはゆる強制契約なるものが行はれ、その場合にこの過程の發展したものが農民の土地の收奪である。かくして資本家共による大土地の所有、すなはち拓殖制度がおこる。農業が人爲的な灌溉を必要とする東洋の諸國においては、帝國主義者共による水利の獨占は重大な意義をもつてゐる。それゆゑ、私は、この三項をテーゼに取扱はねばならぬと考へる。

植民地における帝國主義の農業政策は、帝國主義者と大土地所有者との同盟、ならびに富農に對する支持とに存する。

さらにテーゼは、植民地Ⅱならびに半植民地諸國における被壓迫民衆を隷屬せしめる際に演ずる社會改良主義者の役割について語るところ、甚だ少い。現在すべての國において公然と植民地占領に向つてゐる社會民主主義者共の裏切的役割を暴露することが絶対に必要である。

支那大革命の第一のかつ最も重要な教訓は、國民ブルジョアに對する吾々の態度の基調とならねばならぬ。テーゼには次の如く述べてある。すなはち、「これら諸國の植民地ブルジョアのブル

ジョア民主主義的傾向は、根本的に考察すれば、決して革命的な傾向ではない。それは改良主義的反對派である」云々。この定式化は絶対に正しい、と私は考へる。トロツキの反對派は、國民ブルジョアによつて演ぜられた客觀的に革命的な役割を見ようとしなかつた點で、誤つてゐた。しかし吾々が反對派に對して共產主義者の列伍のなかで戦つた時ですら、吾々は「革命的な」土着の國民ブルジョアについて語りすぎてゐる。支那大革命は、國民ブルジョアの裏切りがどのみち不可避であり、國民ブルジョアと一時的協定を結ぶ場合に、將來の分裂のために政治的かつ組織的に準備せねばならぬことを示した。

同志ストラアホフ〔羅秋白〕は、非常に興味ある演説をなしたが、支那革命の種々な時代については、充分な分析をなしてゐない。なぜ支那革命は一時的に敗北したか？ 支那革命の敗北は、まづ第一に階級的勢力關係——しかも國民的規模におけるのみでなく、當時の國際的規模における——に歸すべきであつた。同志ストラアホフは帝國主義者共の役割について、また支那革命の事業についてあまり語らなかつた。一時的な敗北があつたとはいへ、吾々の記録すべきことは、プロレタリアートは初めて國民革命においてヘゲモニーを確保し、農民層の大部分を自己の味方に引き寄せ、英雄的大衆的中國共產黨を建設したといふことである。これらが、支那革命を語るに際して述べられねばならぬところの、支那革命の根本的な功績である。



同志ストラアホフは次の如く述べてゐる。すなはち、吾々が國民ブルジョアジーと一時的協定、あるひはプロツクを形成しうるやうなこれらの諸國においては、吾々の戦略の中心は農民層との同盟におかれねばならぬ、と。私の意見では、この思想が前面に押し出されねばならない。といふのは吾々は今まで、餘りにも國民ブルジョアジーとの協定の可能性をうんぬんしすぎたからである。レーニンはかつていつた。「吾々が全體としての農民層と提携して進むかぎり、その革命はブルジョア民主主義革命である」と。

同志ストラアホフは、中國共產黨によつて犯された組織上の缺陷と過誤とについて語つてゐない。かれらは國民ブルジョアジーの不可避免的な裏切りを見越し、將來における國民黨との分裂に對して準備すべきであつた。

テーゼは植民地革命における軍事問題については、ほとんど述べてゐない。經驗の示すところではあるが、植民地ならびに半植民地諸國においては革命の進行中に、帝國主義者共に對して公然と干戈を交へることになる。かくて吾々は軍事的準備、國民革命軍を問題とせねばならぬ。支那革命の經驗は支那の國民的統一とか帝國主義者に對する鬭争とかいふ思想の染み込んでゐる國民革命軍が革命の進行中に帝國主義的軍隊に轉化して行つたことを示してゐる。中國共產黨はこの危險に對して充分に準備をととのへてはゐなかつた。例へば蔣介石や唐生智の軍隊をとつてみよう。そこには吾々は政治

的機關をもつてはゐたが、しかしこれらの將軍たちが國民革命の進行を裏切つた時に、共產主義者の細胞は最少の抵抗をも試みしなかつた。このことは、軍事的準備の問題がいかに重要なかを示してゐる。さらに、全××・インタナショナルは上海および廣東における蜂起から、諸教訓を、引き出さねばならぬ。

さらに、第四章の次に、近き將來における植民地諸國の、しかも支那における、エジプトにおける、インドネシアにおける、南米諸國における革命的諸運動の見徹しに關する新しい章を付け加へる必要があることを、私は提議する。かくしてこそ、吾々は最後の章において、これらの諸國、特に支那、エジプト、インドネシア、南米諸國における共產黨の見徹しと任務とについて具體的に語りうるのだ。

テーゼは、民族革命運動と關聯して植民地ならびに半植民地諸國における共產黨の役割を強調してゐる。思ふに共產黨は、まづその基礎をプロレタリアートの勢力の上におかねばならぬ。次に吾々は、これらの諸國における共產黨の重大な缺陷と弱點とを指摘せねばならぬ。それらは數的にまたイデオロギーの上で弱いばかりでなく、その社會的構成においても弱いのである。

トルコや朝鮮の共產黨は、清算主義に毒されてゐる。朝鮮における共產主義運動は、絶えざる分派的抗争に悩んでゐる。〇〇帝國主義を打倒し、支那革命を發展せしめる上において朝鮮××のもつ意



義は重要であるに拘らず、Xの共産主義者はかれらの列伍における分派的抗争をやめることができな。しかし、労働者運動の昂揚と、反動、すなはち大衆的逮捕や、スパイ的誘發や残忍な拷問に對する闘争において活動的労働者が示した英雄主義とは、労働者の要素に基礎をおいた朝XのXが、かれらの列伍を統一しうるだらうことの證據として役立つものである。

テーゼ草案では次の如くいはれてゐる。すなはち「かゝる（労働者＝農民の）黨の組織化は許容し難い。」なぜなら「特殊な労働者＝農民の黨は、それがどんなに革命的であらうとも、甚だ容易に普通のプチ・ブルジョア黨に轉化しうるからである」と。私はこれに同意する。そればかりではない。インドにおけるが如く労働者農民の黨のすでに存在するところでは、吾々はかゝる諸組織の民主化、その占領のために、ならびにこれら諸組織の大部分を吾々の側に獲得するために戦はねばならぬ。

プロフィンテルンの大會は、植民地＝ならびに半植民地諸國における労働者運動のための部分的諸要求をすでに定式化してゐる。私の意見では、これらの諸國における農民運動のための部分的諸要求——例へば地主の土地沒收、宗教的諸制度を包含する一切の封建的なもの、轉覆、高利貸資本に對する闘争、苛税に對する闘争、國有土地の利用、地代の問題、強制労働の撤廢、等々の如き——をもまた定式化することもまた必要である。

テーゼは、本國における共産黨の任務と關して、たゞ植民地における革命運動に對する支持を述べ

てゐるだけである。思ふに、それらはより正確かつ詳細に定式化さるべきであつた。第一に、本國の共産黨と植民地との間の思想的、組織的接觸、本國から植民地に同志を派遣しそこで若き共産主義運動を援助すること。第二に、植民地諸國における國民革命運動と、本國におけるプロレタリア運動との間の援助と接觸。第三に、本國および植民地における労働組合と農民諸團體との接觸。第四に、國民革命に對する積極的な宣傳と煽動。植民地支配とそこに支配してゐる諸關係の暴露、および國民革命運動の重要性についての本國労働者の間での宣傳およびその啓蒙。帝國主義諸國における勤勞者の間に民族的偏見に對する闘争を行ふための宣傳。さらに植民地抑壓に對するカムバーニヤの組織。第五に、植民地諸國での暴動および戦争による植民地諸國の自決と完全な分離といふ思想の宣傳。本國における共産黨は、かゝる思想の宣傳のためにパンフレットやリーフレット等々を出版せねばならぬ。第六に、植民地における本國出の労働者の中で、また植民地派遣の帝國主義諸國の軍隊の中で活動がなされねばならぬ。第七に、植民地諸國からの移民労働者の中で活動すること、——例へば支那や〇〇における朝鮮人自由労働者、合衆國、ジャワ、マレイ、南アフリカ、等々における支那人労働者、オランダにおけるインドネシヤ人労働者、等々の間で。

最後に、大會は各國の共産黨に對して、本國と植民地との共産黨に共通な行動綱領、ならびに共通なスローガンを仕上ぐべきことを要求せねばならぬ。植民地＝ならびに半植民地諸國の共産黨は、本



國のプロレタリアートとの、特にプロレタリア獨裁の國——サヴェート同盟との、同盟の思想を強く宣傳せねばならない。

レーニンは我々の時代を、戦争と革命との時代として特徴づけた。植民地ならびに半植民地諸國における革命的諸運動は、世界革命の過程においてますます重大な意義を獲得しつつある。吾々は、このテーゼが、かゝる巨大なる革命的運動の促進および指導のための、決定的な武器として役立つことを期待するのである。

——署名「大村喜助」、英文『インプロコール』一九二八・一〇・一七——

## 社會民主々義者の「統一」と 舊勞農黨準備會の方向



一九二八年は階級闘争が未曾有に激化した年であつた。たゞに日本においてのみならず、世界全土に亘つて。

わが國では支配階級の攻勢と反動政府の彈壓の下に、階級の闘ひは益々激化し、初めてその綱領と政策とを公表したプロレタリア前衛の黨——〇〇×××は檢舉され、迫害され、全くの地下に追ひ込められて尙ほ活動を続け、プロレタリアート、農民の一切の革命組織は破壊され、ストライキは鎮壓されたが、大衆は頑強にこの反動的テロルに抵抗した。わがプロレタリア前衛は、この一年間に、逮捕され、迫害され、追求され、その組織を破壊され、粉碎され、その政治的經驗を數倍か豊富にした。兇暴猛惡な〇〇の帝國主義は、武力を以つて北支那の全土を占領し、數萬の中國の革命家と數千の罪なき民衆とを虐殺した。彼等は今尙ほこの軍事的占領をつゞけて、撤兵しようとはしてゐない。怪物に等しい軍艦の建設、新武器新技術の應用、内亂暴動に對する假裝演習等、支配階級は新しい帝國主義××の準備に狂奔してゐる。數千の革命的労働者農民の犠牲の上に、彼等はやつと××の美酒に酔ふことが出来た。一九二八年末の經濟状態は決して改善されてはゐない。ブルジョアジーの頼む金輸出解禁もまだだし、十七億の大豫算によるめいてゐる資本家地主の政府はその負擔を全てプロレタ



リアートと農民とに負はせやうとしてゐる。産業の方面では、慘酷な合理化が進行し、能率増進制度が採用され、労働賃銀は減り、時間は延長されて、數千數萬の労働者が轡頭に投げ出されてゐる。ブルジョア政治の方向は全く反動的であり、支配階級は田中の警察的テロルを讃仰してゐる。

この時に當つて、労働者農民大衆の不满と反抗とは増大し、これとは反對に、社會民主主義者共は資本と反動的治世の前に全く降伏し、階級協調と労働者の偽瞞とに協力する。彼等は、彼等とても人後に落ちぬ（建國會にも劣らぬ）忠良な臣民であることを證明するために淺ましい努力をした。彼等は全國組合會議を踏み躪つた。彼等は裏切者アルベール・トーマの持鞭をつとめた。彼等の或る者は労働者農民の戦線を統一するためだといつて、労働者農民の階級的組織を分裂させた。又、一年間、舊労働者とX X Xとに對する悪口をブルジョア雑誌に書き列ねて、たんまりと原稿料をかせいだ（山川均等）。

この激化した状態の下にあつて、丸一年間、彼等が叫びつゞけた合言葉は、「統一」といふことであつた。彼等は「政治戦線の統一」とか、「即時無條件の合同へ」とか、「宗派的分裂主義」の排撃とか、さまざまなスローガンを掲げたが、その目的はX X X的意義を失つた、非階級的な社會民主主義者の統一であつた。

鈴木、松岡、赤松、西尾などいふ真正正銘の改良主義者、臆面もない社會帝國主義者共は動搖し

なかつた。彼等は厚かましく、「産業民主主義」の偽瞞的スローガンを掲げ合同の要求を峻拒して、大右翼結成を振りかざして行つた。中央派、乃至所謂左翼社會民主主義者の連中はさうは行かなかつた。その脚下の大衆が刻々に左翼化して行くのを知つた彼等は、大衆の要求する本能的な階級統一の要求を自分等の都合の好いやうに外らせようと腐心した。彼等は統一！統一！とまるで「統一」自体を神様のやうにかつき廻つたが、その實、左翼の大衆を含むことを必死になつて拒み、中味のない統一をでつち上げようとした。

この苦心——偽瞞と詐偽の結晶が、十二月七日の五黨合同、「日本大衆黨」の成立であつた。大衆はこれを反動政治に對するプロレタリア農民の協同一致の闘争の一步前進として受け取つたが、ダラ幹共は、自分自身の目的のために之を操つた。

こゝに憐れを止めたのは「統一」の宣傳誌『勞農』であつた。「無産大衆黨」であつた。彼等には何よりも大義名分が欲しい、裏切りをゴマ化す大義名分が。彼等はせめて看板だけでも、人に後指を指されぬものにしたと思つて、委員會で「奮闘」したが、駄目だつた。でも、よいではないか——立派な大義名分が立つ、妥協も讓歩も統一のためだ！ダラ幹共はのし掛つた來た。氣の弱い紳士達はまた讓歩した。かつて、自分等の批評した「農民ボツス」の一入、平野力三を書記長にする。いや、これも「統一」のためだ。壞れかゝつた自己の幻想に眼をつむつて、わがメンセキキ、本物の百分の



一にも足らぬ和製ブレハーフ共は、氣を取り直して中間派合同の全無産階級的意義をふれ廻つた。

## 二

反動的テロルと苦闘してゐるわがプロレタリアートは、分裂した自己の戦線の統一を、その階級的××的統一を欲してゐる。そして、何よりも、この統一の中樞となり、これを闘争に指導しうべき前衛の組織——〇〇×××の強い成長と、活動とを必要としてゐる。

階級の闘争は激化した。政府の壓迫は労働者と農民との反抗と闘争とを喰ひ止めることは出来なかつた。否、益々これを尖鋭化し、深化した。一九二八年三月以來の壓迫と迫害とに對して大衆の深刻な増悪と不満とは増大して行つた。かの三團體解散反對、再建の闘争、精力的な救援運動、治安維持法反對、犠牲者解放の要求、『無産者新聞』への大衆的支持等、——就中、〇〇×××への有形無形のきう然たる同情と支持と信頼とは、如實に之を證して餘りあるではないか。××警備に名を借りての新しい壓迫、數千の労働者農民の檢束拘留は、大衆の間に新しい憤激を捲き起した。支配階級をその美酒に酔はしめるためには、幾人かの階級戦士の犠牲を必要にした。不満は、不平は、動搖は、廣汎な層に及んでゐる。かの虐げられ、踏み躪られた特殊部落民の痛憤、うねび村の事件の如き、これを證するものでなくて何だ？ 不平は警官の間にすらも、動員された××の間にも及んでゐる。

戦闘的労働組合は破壊されたが、決してそのまゝ崩れはしなかつた。評議會再建の闘争は猛然と起つた。苦しい闘争を通じて、兎も角、全國協議會に再組織された。ストライキは鎮壓された。田中内閣は一九二八年度中のストライキ件数の減少を誇つてゐる。それにも拘らず、ストライキはきびすを以て起つてゐる。幾つかの都市で大興休業中の日給全額支拂を要求した闘争が起つた。

言語に絶した暴壓を以つて、反動的政府は農村に於ける闘争——土地を要求する農業××の端緒——を絶滅しようとした。小作争議は滅つた。けれども、之は第一に政府の彈壓、第二に農民組合の××的指導の喪失、その日和見主義的退却的戦術、第二に一時的な都市と農村との戦闘的協同の斷絶等に因するものである。所謂、鳥取、長野、宮城等の地方に於ける闘争は、新しい擡頭の將來を物語るものである。香川再建の力強い運動の如きは、都市と農村との××的協同を強化する必要を示すものであつて、その橋渡しをするだらう。

共産黨事件公判公開の要求は猛然と起り、労働者農民大衆の×××への信頼は更に増大した。共産黨被告は確信を以つて×の綱領と政策とを法廷で物語り、法廷でブルジョア法律、裁判所に對する示威運動を行つた。

發行禁止を喰つた『無産者新聞』を防衛しようとする運動が更に波及してゐる。

わが労働者は、十一月革命の祝祭、トーマ排撃の運動、その渴えるやうなサヴェート同盟への關心



と共鳴とに見るやうに、X×X的プロレタリアートの國際的連帯の感を表明してゐる。

學生の運動は新しい擡頭を示し、社會民衆黨の社會青年同盟、日勞黨の勞農青年同盟等の青年ランク・エント・ファイル(卒伍)は、明白に反對派的、左翼的方向を歩んでゐる。更に左翼組合に於ける組合青年部成立と新青年同盟準備會の新方針の確立。最後に、大衆を不斷の闘争に指導しつゝ數ヶ月の努力によつて結黨に至つた新黨準備會。而も黨結黨は固より、新黨準備會そのものも、X×X的勞働者の痛憤のうちに、政府によつて禁止解散された。

此等、プロレタリアートと農民との陣營内に於ける諸潮流と傾向とは、明白に大衆は左へ！ 向いてゐることを物語つてゐる。それは、第一に、プロレタリアートの黨X×Xが、その破壊され、打撃を受けた組織を再建し、その活動を倍加する必要、第二に、このプロレタリア黨が、常に闘争を激化し、益々スローガンを尖鋭にし大衆を闘争に動員して、現支配階級に反對するあらゆる闘争に指導的地位を確保すること、第三に、このために、資本家地主の勢力に有効に對抗し、戦ふために、勞働組合並びに農民團體の各全國的統一を達成する必要を物語るものである。

## 三

社會民主主義者共は、口を揃へて「無産政黨の合同」を叫ぶ。一體「無産政黨の合同」とは何だ？

X×X以外にまだ澤山「無産政黨」があるといふのか？ 彼等の云ふ「無産政黨」とは小ブルジョア的社會民主黨、乃至は「農民ボツス」、地方政治屋共が勞働者を踏臺にして作つたイカサマ地方黨に過ぎない。公然たる改良主義、社會愛國主義の指導者に率ゐられる社會民主黨、弱腰の、しかし勞働者に階級闘争の正道を歩むと思はせたい中央改良主義者の日本勞農黨、X×Xから脱落し、勞農黨大衆を裏切つた解黨主義の紳士の手製になる無産大衆黨、「農民ボツス」の日本農民黨、幾つかの地方政黨——それが各々「無産政黨」を自稱するのだ。彼等の或る者は「即時無条件の合同」を叫びつゞけた。たしかに、こんな政黨は即時無条件に合同するに値する。彼等は支配階級と眞實に闘はふとはしない點において、ゴマ化しの看板と政策で勞働者と農民とを踏み臺に利用する點で、その反共産黨なる點において、相一致するのだから。

吾々が、かつて勞働農民黨と日本勞農黨との合同を提唱したのは、正にX×X的階級的目的からであつた。左翼の黨たる勞働農民黨に加ふるに、かの總同盟指導者の改良政策に飽き足らなかつた、明白に左の方向を向いてゐた、日勞黨大衆を以つてし、しかも、日勞黨指導者の「抵抗を打ち破つて」、これを達成し、資本の攻勢に對して、現支配階級に對してヨリ有効に戦ひ、X×Xに取つてのヨリ廣大な大衆的エネルギーの貯水池を得るためであつた。こゝに『勞農』派のメンセキキ、『社會思想』の小ブル紳士達、日勞黨のイカサマ役者共の「統一」と、吾人の提唱する「統一」との間に千里の差がある



のだ。

けれども、左翼の間にも「統一」の語は尙ほ盲信されてゐる。全くの日和見主義である「無條件合同」の誤りは認められたが、合同そのものは尙ほ神聖視されてゐるやうだ。これこそ、『勞農』派毒ガスの影響だ。吾々にはヒナ様のやうに着飾つた統一そのものはいらない。吾々に必要なのは、××的統一、資本家地主と戦ふための統一だ。日勞黨創立の後、吾々には、その左翼化しつゝある大衆と、左翼の大衆とを共同の戦線に動員し、その指導者の面皮を引き剥ぎ、その正體を暴いて彼等を公然の改良主義者の側に追ひやり、そのランク・エンド・ファイルを吾々の側に獲得するために兩黨の共同の闘争——合同を叫び、そのために戦ふ必要があつた。一九二七年末、勞農黨の合同申込は全く正當であつた。けれども、所謂「全無産政黨」、實は、左翼の黨である勞働農民黨や、左右の社會民主黨やさまざまな地方政黨を一緒くたに合同させやうとしたことは大きな誤謬であつた。何故なら、それは結局、大社會民主黨の結成に終るだけなのだが。階級闘争の舞臺にあつて、革命黨が、少くとも階級的立場に立つ一黨が、他黨と合同するのは、××的階級的綱領と政策との下にのみ許される。そして現實には、それは一つの黨の××的政策と活動とが他黨の大衆を克服し、日和見主義的改良主義的指導者を追放するか、後者をして黨の極少を率ゐて分裂するの止むなきに至らしめた場合である。(例へば一九二〇—二一年、ヨーロッパ諸國、ドイツ、イタリア等に於ける共產黨と社會民主黨

左翼との合同になる合同共產黨の成立。)

舊勞農黨からの合同提唱は、かゝる條件を持つてゐなかつた。第一に、勞農黨は×××ではない故に、第二に、舊勞農黨と他の諸黨との比重は到底前者に有利でなかつた故に、第三に、他の諸黨、就中、日勞黨内に鞏固な反對派が形成されなかつた故にである。のみならず社會民主諸黨を社會主義の黨と見ず一般に「無産政黨」と見たことによつて、理論上原則上の過失を犯したものであつた。

社會民衆黨の冷淡な合同峻拒と、日勞黨の偽瞞的な逃げ口上とが繰り返されてゐる間に、状態は大いに變化した。勞農黨との間の協同戦線を幾度か裏切り、大衆の間の階級的合同の要求を踏みつけて、日勞黨の指導者は益々右の方へ移つて行つた。日勞黨の日和見主義と社會民衆黨の改良主義とが、殆んど區別し難い程になつた。特に勞農黨解散後に於ける彼等のサポータージュ、事實上の支配階級との共同、新黨準備會の合同提唱拒絶と、之に對する不斷の攻撃とは、日勞黨を社會民衆黨から區別して、之に合同を提唱する意義をさらに少くした。新中間黨「日本大衆黨」はさらに——明白に、右の方へ向いてゐる。その綱領には「わが國の國情に即し合法的手段を通じて」等々と、その排外主義と合法主義とを繰り返して宣言してゐる。舊無産大衆黨のルイ・ブラン共は憐れにも押しつけられて、社會民衆黨幹部にも劣らぬボツス(親分)達が君臨してゐる。今や明白に、右と左の社會民主黨が吾人の眼前にある。



プロレタリア黨の任務は、あらゆる機會にこの社會民主主義指導者を暴露し、その裏切りを大衆の前に見せつけ、平黨員の不平と不満とを激發して、共同の階級的闘争に之と協働して、その信頼を克ち得、Xの的影響を及ぼして、之を獲得することにある。

従つて舊勞農黨を結成したXの勞働者にとつて、第一に必要なことは、直ちに合同提唱をすることとでなくて、寧ろ日本大衆黨の大衆と結びつくこと、之と共同の闘争において連結すること、強大な反對派——裏切的改良主義者が如何ともすることの山來ぬ公然の反對派を組織することである。かうして初めて、改良主義者を追放するか、乃至はたとへ分裂するにしても極少數者として右翼の社會民衆黨に追ひやること出来るのだ。そのX化した勞働群衆の力は、結局Xに獲得されねばならない。そしてこのことを可能にするもの、その時機を早めるものは、結局Xの強大である。Xの最初の公然たる活動は、解黨派『禁農』をふるひ落した。客觀的狀勢の激化と、プロレタリアの力の増大——先づ第一にXの強大化は、Xの手中に大衆を獲得させ、左右の社會民主主義者を仲好く同衾させるだらう。

## 四

反動的テロルに對する、現支配階級に對する、帝國主義戰爭の危險に對する闘争のために、何よりも

先づXの強大化と、その精力的闘争が要求されてゐる。そして、その地下に追ひ込められてゐる全く非法のXのために、その大衆的活動の舞臺、前衛がそこからXのエネルギーを吸收する貯水池、Xと大衆とを結びつける帯がさらに痛切に要求される。それは勞働組合であり、農民組合であり、協同組合であり、青年の大衆組織であり、プロレタリアのスポーツ團體であり、救援團體であり、防衛團であり、反戦争の同盟等々である。そして、舊勞農黨——痛苦に満ちた數ヶ月の努力によつて結黨の運びに至つて無慘に禁止された新黨準備會も、この見地から新しく評價され、その發展の道を指示されねばならない。

舊勞農黨は光輝ある闘争を経過した。けれども、その闘争は中途半端であり、不徹底であつた。それは單に勞農黨が原則的綱領を持たぬからではなかつた。それは、單に「合法黨」であり、「大衆黨」であつたからではなかつた。舊勞農黨の矛盾と破綻とは、第一に、その階級的基礎に存する。政黨は一階級の黨である。然るに、舊勞農黨は、二つの階級、勞働者と農民とに基礎をおかうとした。兩者を融合しようとした。このことは結局、この黨を明白にプロレタリア黨としなかつた。何故ならXは別個獨立に存在し、活動してゐたから。印度や南米諸國（アルゼンチン、エクアドル、ペルー、チリ）等で證明されたやうに、かやうな黨は小ブルジョアの黨に墮するか（無産大衆黨を形成した分子、新黨準備會内の右翼等）、工場と農村とに根をおいて勞働者農民の——同盟形態——動員の組織と



して再生するか、二つに一つを運命づけられてゐる。第二に、矛盾は、最初のうち改良主義的指導とは早く手を切つたが、當時左翼の間に存在してゐた誤つた戦略論——日本にはブルジョア民主XXの任務があるのだから、XXの外に、一時(?)「共同戦線黨」が必要だといふトテツモない誤つた考へ、解黨主義的な考へ方と不可分離に結びついてゐたからである。

眞實に必要なことは、合法的な範圍で(支配階級の考へ次第で如何にでもなる、禁止命令の出ない程度で)「鴉的政黨を持つことではなくて、地下に存在し、迫害され、追求されて奮闘してゐる〇〇XXが闘争によつて、力によつて、その合法性を獲得することである。合法と非合法とは、そのいづれを好むかの、好みの問題ではなくて、階級の闘争に於ける力の問題である。白色テロルの鐵蹄の下に血衄れにイタリー、ポーランド、ブルガリア等の諸共產黨は、不屈の闘争によつて部分的な合法性を獲得した。見よ！ ファシスチ治下においてイタリーの共產黨は全労働階級の信任を有する唯一の反對黨であり、あらゆる大衆團體の闘争を指導し、幾つかの議席を議會に持つてプロレタリアートに呼びかけてゐるではないか。誰か〇〇君主國において、わがプロレタリア黨が、力によつて、この状態を實現し得ると云ひ得ぬものぞ！

改良主義者、日和見主義者は合法主義者だ。けれどもまた、吾々は徒らに非合法を、地下のみを追ひ求めるのではない。彼等は先づ合法的範圍で許されるかどうかを懸念する。吾々は先づプロレタリ

アの階級的立場、世界のプロレタリアXXの綱領を把持する。そして、地下にあつてもなほ最大限に大衆的活動の舞臺を求め、X合法の活動を合法的な活動に結びつけ、力によつて、X自體の合法性も克ち取らうとする。

舊勞農黨は文字通り苦難に満ちた、しかし光輝ある闘争を持続した。XXのセクト的存在と孤立とのために、勞農黨こそは、わが國労働者が知つた最初の大衆黨であつた。

けれどもこの大衆を持ち、その熱烈な支持のあつた勞農黨が、何故にヨリ有効に、資本と土地財産の牙城に肉薄することが出来なかつたのだらう？ 何故に、四月の解散命令によつて大きな痛手を被り、無産大衆黨等の分裂をまで見たのだらう？ その後の數ヶ月は全くの實物教育であつた。單に支配階級の彈壓と、社會民主主義者との通謀になるだけではない。それ以上を舊勞農黨に望むことは無理だつたのだ。舊勞農黨の光輝ある闘争は、同時に如何に勞農黨が弱いかを、唯一のプロレタリア黨はXX以外にないことを痛切にわが労働者に教へたのだ。

何よりも先づXXが強大になり、一大大衆黨とならねばならない。

そして、舊新黨準備會は新しい方向を指示されねばならない。その成員は以前に比してより經驗を豊富にし、力強くなつた。それは工場と農村とに根をおかねばならない。工場代表者會議、工場委員會、農民大會等がその背景をなし、やがて之等を基礎にする勞農協議會、労働者農民の會議、即ち永



久的な政黨といふよりも、時々刻々の闘争のためにする労働者農民の同盟の一形態として進み行くべきであらう。従つて、その形は時に労働者農民の選挙聯合を、或は時に暴壓反對の全國同盟、といふ風に變るだらう。肝腎なことは、工場と農村に根をおく、組織と未組織とを問はず、數十萬數百萬の大衆に訴へ、その要求のために叫び、之を動員する組織となることである。

×××の強大化と相並んで、かやうな動員組織は、益々その偉力を發揮し、意義あるものとなるだらう。

吾々はこの方向に進まねばならない。あらゆる傾向の合法主義、あはよくば中間黨乃至社民黨の方へ走らうとする動搖分子を克服しなければならぬ。

そして、最後に三度び繰り返す、この大衆的闘争は、×××の強大化、一大大衆的×××の建設、深く鞏固な地下建築を土臺とし、工場に根を張つた、闘争のうちに訓練され、鍛へ上げられた、鐵の規律を持つポリセギーキ黨の建設と結びつかねばならぬ。

——署名「永田幸之助」『マルクス主義』一九二九・二月 第五四號——

## スローガン及び大衆動員について



- 一 スローガンとは何か
- 二 適切なスローガンの必要
- 三 カムバーニヤと大衆動員
- 四 工場内に於ける不斷の活動
- 五 カムバーニヤの組織
- 六 闘争の鎮の環

## 一 スローガンとは何か

エンゲルスが、綱領とは一つの政黨の公の旗印だといふ意味のことを言つたことがある。一政黨が、階級の黨がその標榜する所、その目的とする所を旗印に大書したものが綱領であるならば、スローガンとはその黨が、黨旗に銘記したものを、時々刻々の運動において、時事問題について、その他に關聯して、最も分り易い人口に膾炙する言葉を以つて言ひ表したものである。

スローガン（又はロズング）は、合言葉である。標語である。たゞに黨員又は一組織の成員（メンバー）だけに理解されるものではなくて、數萬、數十萬、否、數百萬の勤勞群衆が直ぐそのまゝ理解し、その口に誦され、唱はれ、呼號されるものである。

スローガンは鯨波である。それは味方をその合言葉、その陣太鼓の下に翕合し、結合させて、闘争の目標を示し、味方に力をつけ、自信を持たせて、階級の闘争場裡に動員するものである。それは敵に對しては、要求であり、力の示威であり、闘争目標の標示である。

かつて階級闘争の發展が幼稚であつた時代には、スローガンは黨のスローガンといふ形を取らなかつた。それは、爆發的な運動に於ける大衆自身の苦悶、痛憤、激昂の端的な表現であつた。「何々をやつつける！」「何々を焼拂へ！」であつた。往昔の百姓一揆がそうであつた。ヨーロッパの農民戦争が



そうであつた。フランス革命がそうであつた。支那の太平之亂がそうであつた。幼稚な階級闘争に應じては、その幼稚な思想的表現が相應じた。宗教や哲學や獨斷論や空想がその役目をつとめた。奴隸の反亂にはスパルタカスの空想が、農奴の解放戦には新教が、近世の第三身分（ブルジョアジー）の闘争には十八世紀の唯物論が附屬した。鹿つめらしい説教や獨斷論と、群衆自身の呼び聲（スローガン）との間には開きがあつた。モンテスキュー、ルソーの説や理論がどうであらうとお構ひなしに、民衆は口々に「 $XX$ を破壊せよ」「 $XX$ に迫れ」と呼號しつゝ、バスチーユの牢獄に押寄せたのだ。わが封建時代の末期にあつても、民衆の闘争は、儒教のさまざまの流派（大鹽の亂に於ける陽明學）や荒唐無稽な因果應報説と結びつき、強訴し、一揆する前の百姓は必ず神社佛閣を拜したが、その叫んだものは、「何々をやつつけろ」「焼拂へ」であつた。

プロレタリアートの階級闘争にあつては異なる。その闘争の先頭には、プロレタリアートの黨が立つ。一切の階級對立を $XX$ すべき歴史的任務を帯びたプロレタリアートは、その解放に關する學說、 $XX$ の思想を有つてゐる。その闘争は科學の上に立つてゐる。プロレタリア黨は精密に客觀的及び主觀的條件に應じて、戰略及び戰術を規定する。戰術は戰略に従屬する。そして、戰術が個々の闘争の方法、形態、スローガン等を決定する。

吾々の闘争にあつては、スローガンは大衆自身の口に自から上るのを待たない。否、自分の階級と

その同盟者とを一定の目的に指導しようとする黨は、その戰略及び戰術に従つて、運動の様式、形態を定めスローガンを提出する。大衆が正に要求しようとしてゐたもの、大衆が言はうとしてゐたものを明確に表現し、大衆が痺痺され抑壓されて感じてゐなかつたもの、又は薄々感じてゐたものをハッキリさせ、闘ひの裡に、スローガンの意味を、その闘争の意義を、従つて黨の目的、綱領をよりよく理解させ、次の闘争の段階に進んで行くのである。

## 二 適切なスローガンの必要

だから、スローガンは吾々の運動にとつて極めて重要な役割を演ずる。スローガンは、實に運動の方向を示す。時々刻々の運動（カムバニーヤ）に於ても、一の闘争に於ける諸スローガンと次の闘争の諸スローガンとは、結びついてゐなければならぬ。其處には發展がなければならぬ。前進がなければならぬ。

従つてさまざまの要求項目を十數、數十と並べたからといつてスローガンにはならぬ。以前、議會解散請願運動にその弊があつた。運動の進むにつれて要求項目が多くなり、何が中心スローガンか分からなくなり、却つて効果が薄くなつた。誰もそんなに長々しい要求項目を覺へては居れない。

また、せねばならぬこと的一切を、直ちにスローガンに表現するのが能なではない。「 $XX$ を



よー」「××しろー」と雨だれをつゞけても、それは決してスローガンにもならなければ、況んやその効果たるや極めて覺束ない。

戰術に應じて適切なスローガンを見出すことが必要である。

以下、適切なスローガンとはどういふ條件を具へてゐなければならぬかを述べて見よう。

(一) スローガンは理論的に正しくなければならぬ。正しいマルクス主義レーニン主義の見地に立脚して居らねばならない。戰術の誤謬は、直ちに間違つたスローガンになる。勿論、誤つた戰術は、誤つた戰術を生み、スローガンを生む。一昨年府縣會選舉戰に於ける勞農黨のスローガンには、日和見主義の非難を蒙るべきものがあつたが、それは當時わが前衛が、福本氏の理論の影響の下に抱いてゐた戰略論、その當然の歸結としての日和見主義の所産でなくて何んであらう？ 前述した議會解散運動の要求項目(項目自體の検討は別のこととして)が段々増えて行つたのも、「人民のあらゆる層」に訴へるといふ「全線的展開」論の影響であつた。また、「全無産政黨の合同」といふスローガンが、たとへ、改良主義指導者を放逐して、××化しつゝある大衆と結合するといふ××的意圖から出たにしろ、間違つてゐる。といふのは、帝國主義國に於ける社會民主黨存在の必然性を十分に見ず、また社會民主諸黨を社會民主諸黨と見ずに一般に「無産政黨」と見た、その打消すことの出來ぬ理論上の過失の故にである。

勿論、こゝでは吾々自身のことを言つてゐるのである。「犬の遠吠」に餘念のない社會民主々義者共のスローガンが、徹頭徹尾、反マルクス主義的である、非レーニン主義であるのはいふまでもなからう。

(二) スローガンは狀勢に即し、運動の必要に最も適合するものでなければならぬ。たとへ、理論上に正しくても、一定のスローガンが現在の運動の段階に適應するものでなくては何にもならぬ。これはレーニン主義の戰術の最も重要な一要素である。かつての運動に適切であつたものが、今日では陳腐になり、通用しなくなることがある。否、或る場合には裏切りにすらなる。狀勢は變化し、鬭争は激化し行く。それに應じてスローガンは變化し、益々尖鋭化されねばならぬ。

私は、一九一七年のボリシエヴィキの戰術を例に取らう。三月以來、勞働者、農民及び兵卒の權力機關たるサヴェートと、これが任意に政權を委ねた臨時政府との所謂二重權力が存在してゐた時期に、レーニンはサヴェートをして、又サヴェートを形成する勤勞階級をして、自己の力に目覺めさせるために、「全權力をサヴェートへ」なるスローガンを提出した。之が有名な四月テジスの骨子であつた。けれども、七月以來、メンシエヴィキとエス・エルに牛耳られたサヴェートが臨時政府となれ合ひ、戰争を續行し農民××を鎮壓する政府を支持するに至つてからは、もうボリシエヴィキはこのスローガンを繰返さなかつた。それは現實に眼を閉すこと、自己偽瞞を意味するからである。

スローガン及び大衆動員について



レーニンは「XX蜂起」を叫んだ。そして、そのスローガンの下に、刻一刻にサヴェート内部にボリシエヴィキーは多数を占め、十月XXの前夜に至つたのであつた。

今一つ、支那革命の例。一九二七年の春、武漢政府が廣大な勤勞群衆の支持を背後にもち、大地主と買辦ブルジョアジを背景にする北方軍閥と、裏切つた國民ブルジョアジの一部(蔣介石一派)に對して鬭争を續けてゐた時代には、「サヴェートはなほ宣傳のスローガンであつた。何故なら、當時なほ大衆組織であつた國民黨の大衆に立脚した武漢政府が、勞働者農民のXX的民主的獨裁の負擔者として發展する展望を有つことが出来たからであり、それ故にこそ中國共產黨は之を支持してゐたのである。けれども七月に動搖逡巡する小ブルジョアジが、汪兆銘、陳公博以下の左翼國民黨が、革命を裏切り、日和見主義者譚平山が尻もちをつくに至つてから、サヴェートの組織!」は煽動のスローガンになつた。武漢政府は没落した。十月には最早や行動のスローガンとなり、至る處の農村にXXが進行したのだ。

この例でも分る通り、吾々は宣傳のスローガンと煽動のスローガンを區別しなければならぬ。吾々が「勞働者農民政府」を宣傳のスローガンとして出した時、解黨主義者共は腰を抜かしてわな／＼した。今にもXXの手が自分等の頭にも及ぶかと心配して、彼等も亦民主XXを云々する。けれども

如何なるが力之を將來するかは理解せぬ。吾々は現在の運動のみならず、その將來を代表する。彼等はコミンテルン第五回大會の決議を引張り出して、未だ早いといつた。勞働者農民政府はプロレタリアートのXXを意味すると。吾々は答へる。だから必要なのだと。勞働者農民政府のスローガンは、それが勞働者農民のXX的民主的XXの場合であらうと、プロレタリアートのXXの場合であらうと、XXのXXは勞働者農民の手中になければならぬといふ思想を端的に表明し、また大衆自身の言葉で表明してゐるのである。彼等はプロレタリア黨の行動綱領、そのさまざまな部分的スローガンの中心に、この政治的目標を與へて、大衆を教育し、訓練する必要を理解しない。解黨主義者よ! 行手を示さずして、またそれに至る努力なくして、諸君は何時民主XXの彼岸に達するつもりなのか?

\* 『共産インタナショナル綱領』(『インタナショナル』一九二九・一月、特別附録、一編者) 参照——著者

(三) スローガンは大衆に理解されるものでなくてはならない。スローガンは大衆自身の言葉で表現されねばならない。出来るだけ平易であり、解り易くなくては不可ない。抽象的ではなくて具體的でないければならない。それは強く大衆の心に訴へ、之をゆり動かし、また尨大な大衆によつて呼稱されるやうな力を持つてゐなければならぬ。

如何なるスローガンも大衆に無關心なものはない。Xだけに關するやうに見えるスローガンでも、實は、深く大衆に關聯あるものである。今、〇〇XXは、「Xの大衆化!」大衆的XXの建

スローガン及び大衆動員について



設」を叫んでゐる。これは如何にもXだけに關するやうである。X員にとつては、一人でも多く同志を見出す心掛け、工場内に深く細胞の根を張つて活動する努力を意味する。Xにとつてはまた古いセクト的存在、解黨主義からの完全な絶縁、大衆への呼びかけ、献身の労働者XX家への門戸開放の宣言を意味する。けれども、大衆との、生き／＼した、力強い結合なくして、大衆の間の活動なくして、かやうなスローガンがあり得やうか？ 二年前、否、一年前にすら、かやうなスローガンを誰が今日に期待し得たやうか？ このスローガンそのものが、XXXへの大衆の有形無形の同情と支持とを表明してゐるではないか。

「Xボリシエヴィキー化」、「自己批判」、「X内デモクラシー」等のスローガン亦然り。

(四) 最後に、スローガンはX傳X動に効果あるものでなくてはならない。行動へのかけ橋、道しるべとなるものでなければならぬ。覺へるのに、二三十遍も繰り返さなくてはならぬやうなスローガンは甚だ困る。幾つかのスローガンの内、どれが中心スローガンが一向解らなくては、その効果は充分でない。

### 三 カムバーニヤと大衆動員

プロレタリアートの闘争の様式は、狀勢の必要に應じて變化する。それは多種多様を極めてゐる。

レーニンはかつて言つた、或は平和の、或は流血の、或は議會の、或はXXXの、或は經濟的な、或は行政的な闘争、と。その闘争の形態も亦複雑を極めてゐる。——曰く、部分的ストライキ、曰く示威運動、曰く大集會、曰く選挙戦、曰く議會闘争、曰くゼネラル・ストライキ、曰くXXX、曰くXXX戦、曰く戦争(内X、及び對外XX戦争)、等。

プロレタリアートをXXのために準備すべき現在の段階にあつて特に必要なことは、廣大な大衆を政治問題についてXのスローガンの下に現在のXX階級に反對して動員し、巨大なる大衆行動に習熟し、X自體及び階級を訓練することである。従つて、或はXX反對、或は共産黨事件公判反對、或は労働者の新聞の防衛、或は反帝國主義戦争等の政治的問題に結びついた、時々刻々の大衆的運動(カムバーニヤ)——何々デー、何々週間と稱せられるもの、いろ／＼な國際的記念日等は全て含まれる——は、極めて重要な役割を演ずる。即ち、かやうなカムバーニヤ、今まで殆んど日常の、工場内に於ける經濟問題にその眼界を限られてゐた労働者、又は少く共、政治的關心は充分に持つてゐても自分達の要求を巨大な大衆行動の形で示威することを經驗して居らぬ労働者を、Xスローガンの下に、大集會に、示威運動に動員して、經驗を以つて現政府及びXXが如何に労働者のXXXXXXXXXかを教へ、その闘争意識を鼓舞し、その闘争的經驗を豊富にする。それは、XがX外及びXX的大衆團體外の、廣大な未組織大衆のXX的エネルギーに接觸し、之と結合する機會を與へる。それは、



×自體が一カムバーニヤ毎に飛躍的にその組織を擴大する機会を與へる。それは、×に合法的活動と×合法的活動とを結合することを教へ、大衆動員の技術を獲得させる。まさに一聯のカムバーニヤの鎖は、××準備期にあつて、闘争の低い段階からヨリ高い段階へ推移させる槓杆の役目をするものである。

わがプロレタリア黨は、セクト的存在を永くつゞけ、大衆と結びつかず、独自の政治的活動を營んでゐなかつたので、いまだにかやうなカムバーニヤに於ける大衆動員に習熟して居らぬ。これを大衆團體に求めることは無理であつて、舊勞農黨もこれを十分になし得なかつた。プロレタリア黨は、從來未だ宣傳の煽動並びに自己の組織の基礎を築くことに専心したので、自らかやうなカムバーニヤを組織する所まで行つてをらず、多く大衆團體に頼つてゐた。屋外大集會又は示威運動の如きも全て合法的範圍に限られ、××の許す範圍で演説し、或は行列をしたに過ぎなかつた。最近、演説會解散の後など自然發生的に腕を組み合せた示威運動が行はれるやうになつたが、遺憾なことにはなほ不充分である。無計畫であつて、列中に入つた×××等に屢々してやられ、殆んど總檢束に合ふことがある。

#### 四 工場内に於ける不斷の活動

カムバーニヤは充分に準備されねばならぬ。その成功には、工場に地盤を有つてゐること、工場細

胞の精力的な献身的活動があること、指導方針とスローガンとが正しいこと等が必須條件である。

先づ状態を正しく評價し、その状態の下に如何なることが要求されてゐるかを見る。そしてカムバーニヤを組織するに際しては、運動の方針を巨細に耳つて決定し、運動の形態(演説會、示威運動、五分十分と一定時間を限つた一齊ストライキ、工場内の集會、工場代表者會議、等々)、方法及びスローガンを定める。こゝでスローガンは、前述したやうに重要な役割を演ずる。定められた方針は迅速に通達され、カムバーニヤの意義と方法とスローガンとは下まで徹底されねばならない。正確、適切且つ有効なスローガンが投げ出されねばならない。ピラが、リーフレットが、ポスターが、機關紙が、號外がパンフレットが届けられねばならない。

こゝで「工場オルガナイザー活躍の舞臺」が来る。即ち不眠不休の數日乃至數週間がお見舞する。

工場細胞は、プロレタリア黨の組織的政治的活動の基礎をなすものである。工場細胞は土臺である。これが確立されなくては、大衆的××はあり得ない。工場に於けるプロレタリア前衛の任務は實に大きい。たゞにピラを持ち込むこと、宣傳、××に従事する許りでなく、工場主との交渉や紛議やストライキや共濟會等の問題について、いつも先頭に立つて仲間の労働者の信頼を得、これを指導し、さまざまの政治的カムバーニヤ等に大衆を動員し、又工場内に於ける×の觸手として常に活潑且つ巧妙に組織運動に従事しなければならぬ。××××者はプロレタリアの前衛である。だから、いつもその



本隊たるプロレタリアの大衆と結合し、その信頼を有つてゐなければならぬ。如何なる工場にもその勢力を附植し、侵入し行かねばならぬ。小さな町工場だけでなく、官營、民營の大工場、重要産業の工場に喰ひ込まねばならず、闘争的労働組合の根のない所でも單獨で入つて行かねばならない。その任務はいきなりXのピラを持ち込むことではなくて、先づ自分の協働者を求めることである。「あ奴、若いがなか／＼しつかりしてゐるぜ」、「ふん、云ふことが理屈にかなつたらあ」と仲間にはれるのでなければ不可ぬ。敢て人氣者にならずとも、同じ職場の仲間の信頼を克ち得なければならぬ。種々の機会を見つけては話しかけ、仲好くなり、宣傳し、適當の機会に「君こんなものがあるのだがね」と新聞などを示す。この信頼を得ること、若干の人々に目星をつけることは極めて重要なことである。いろ／＼の地方、都市、同一都市でも地區、産業、工場、職場等の異なるにつれて職工の氣質も違ふ。それを充分に呑み込んで仕事をしなければならぬ。「あ奴は生意氣だ」とか、「仕事も出来ない癖に、ホラを吹きやがる」など、言はれては甚だ活動の上に都合がわるい。同時に、職工の間にあるさまざまの卑屈な考へ方や封建思想とは絶えず闘つて、段々これを労働者の考へ方に導かねばならぬ。支配階級はさまざまの手段を用ひて大衆を麻痺させ、無自覺のままにしておかうとする。だから、労働者に潜在する不平不満は、「やせても枯れても宵越しのものは喰はねえ」と威張つたり、「坂妻の切り下げはいつ見ても素敵だね」とか、「X×町の、それ、トキワの花があれしたとよ」てなことに夢中になつ

たり、「そうじやねえ、その時、手を下したのは沖田總司で、近藤は傍で見てたんだよ」など、論争したり、することによつて、僅かに横に洩らされてゐるのである。前衛は、それが重要なことではないのだ、こんなことがあるのだ、これを如何するかと、特に實例を以つて、職工自身の経験を以つて教へるやうにしなければならぬ。

オルガナイザー一人であらうと、數人の細胞であらうと、既に書記(兼オルガナイザー)、アヂテーター、婦人オルガナイザー、青年係と分擔のある委員會を有つてゐる細胞であらうと、不斷に工場内で精力的な活動をしてゐなければならぬ。

## 五 カムバーニヤの組織

今や、一つのカムバーニヤが始まる。カムバーニヤには全國的なものと、地方的なものとあるが、こゝでは全國的なものと假定しよう。各地方に方針が充分徹底されると同時に、時日を決めること、及び地方々の能力に應じて運動の形態を決めることなども必要である。無理をして出来もしない示威運動を企てたりすることは、却つて悪影響が多く全運動の進歩を妨げることがある。一つの都市でも、産業と工場によつていろ／＼違ふ。鐵工場があり、紡績工場がある。メリヤス工場があり、セルロイド工場がある。車庫があり、ガレージがある。町工場と官營の大工場がある。こちらの勢力がある



工場と殆んど手のついて居らぬ工場がある。その各々へ機關を通じて、カムバーニヤ組織の方針、指令が達せられる。先づオルガナイザー乃至アチテーターは、充分カムバーニヤの意義をよく理解しなければならぬ。どうも腑に落ちぬといふまゝで仕事しては成功せぬ。読み返したり、質問したりして、「よし俺は字は下手だが、シヤべれといふのなら、一時間でも大演説してやる」と自信のつくまでやる。勿論、これは細胞の全員について同様である。早速に一切の機關が動員される。工場内の前衛は不斷に自分の共鳴者、支持者を惹きつけて居らねばならぬ。ピラ張り、「XX新聞」配布等の特別隊、工場内の労働者防衛團等の指導をしてゐるのは工場内の前衛分子でなければならぬ。今や此等一切が動員される。工場でカムバーニヤの宣傳が始まる。或る工場では、半公然でやれる。或る工場では、X加入の勧誘と同様に、全く秘密にやらねばならぬ。出勤又は終業の時刻に工場の門前でピラが手渡される。その工場の者では都合が悪いので、他工場の者又は失業者がこれに當る。不味い、直ぐに見つかる、直ちに引張られる。今度は工場の前でやらずに相當間隔において、電柱のかけで配る。工場の中にも工場に入る色々な者に化けて入り込む。その工場に働いてゐる者もピラを持ち込む。更衣室又は便所に、否、工場内の壁にもピラやポスターが張られる。それも監督に見つけられるまでの運命だが、それでも若干のものは讀む。引き剥がれた後にはいつの間にか新しいのが貼られてゐる。各職場の受持を決めて、勧誘、XXが始まる。或はヒソ〜と、或は公然に、今度の運動の噂が波紋を擴げ

る。XXの眼が光ると同時に集會も録々やれぬ。始業前、休憩、食事の時間等に小耳で打合せ。終業後、三々伍々に歩き乍ら、各職場の様態を聞く。

ピラ、リーフレット、ポスター、機關紙、工場新聞のある所はその特別號、パンフレット等々が次々に手渡しされる。ピラや新聞が分り易く、且つ實例を以つて納得するやうに書かれてなければならぬのは言ふを待たぬ。「XXの空地か、一寸歸りに寄つて見やうかな」といふ氣持を皆に起させる。何回とも、ピラは確實に何百何十枚配られたことを確める。どの位、示威運動に出るかの豫想をつける。オルガナイザーによつて、日々の、否、刻々の狀勢が上級機關に報告されると共に、新しい指令が來、XXの範圍は擴げられる。

地區又は一都市の規模で、動員の案が作製され、オルガナイザーの會議が召集され、傳令が飛び、手薄な所には援軍が向けられ、其處此處の労働者町でも、街頭でも、ピラ、ポスターが配られ、貼られる。スローガンは益々皆に知られて來る。

かやうなカムバーニヤ組織には、現にその工場で起つてゐる事件、問題、紛議等に結びつけることが必要であり……「だから！ 吾々はかういふ運動をやる必要があるんだ」といふことを皆に痛感させる。工場内に動搖を起す。ストライキと結びつける。戰闘的労働組合、その他の大衆團體の支持を得、その機關を動員し、協同する。傾向の異つた組合や黨の労働者には特にうまく宣傳し、「うん、そ



ういふ運動は必要だ」といふ感じを起させ、彼等の幹部の意向に係らず、下から一大共同戦線を張る。

カムバーニヤが如何なる形を取るか、従業員の大會か、工場裏の演説會か、工場代表者會議か、示威運動か、五分間ストライキか、その各々を結合したものか、或はその全ての形をとるか、私は各々の場合に於て討論しない。たゞ何かの基金募集運動のやうな、示威運動等の形をとらぬものでも、かやうな準備と手順とを以つてしてこそ十圓集まる所が三十圓に増える許りでなくて、ヨリ多くの大衆に感銘を與へ、大きな煽動的役割を演ずるものであることを述べておかう。

活動は、指令の通達から動員に至るまで、すべて敏速に且つ秩序正しく行はなければならない。かつて、一九二三年の初め、フランス軍隊が獨逸のルール地方に侵入した時、之を獨逸プロレタリアートの一層の收奪を強ひるもの、その貧窮を増大させるもの、新帝國主義戦争の脅威をするものと受取つたロシアのプロレタリアートは立ち所に街頭に出て、抗議した。その電報がモスクワに届いたのが午後三時、二時間の後の午後五時には、數十萬の労働者が街にあふれて、「フランス帝國主義を倒せ」、「ボアンカレを倒せ」、「獨逸××萬歳」等を絶叫した。云ふなかれ、それはロシアだから出来るのだと。プロレタリア獨裁治下だからといつて、そう物事はたやすく行かぬ。ツアアの鐵路の下に追ひまくられても、なほ不屈執拗に闘ひ抜いた、かのあらゆる闘争の形態を通過した、ポリシエヴィキの黨の傳統と規律と訓練とがあつて、初めてこのことは可能なのである。

カムバーニヤの方針は、途中で一寸した壓迫があつたから、何んだからと云つて變更しては不可ない。最小抵抗の戦術を取らずに、斷じて規定の方針を踏むべきである。敵の裏をかくために、又は犠牲を少くするために、豫め若干の人々だけが知つておいて、途中で示威運動の方向を變へたりすることがある。しかし、これこそが豫定の方針なのだ。××及びファシストに備へるために、自衛隊の組織は、緊急不可缺のものである。現在の段階にあつて、強大な大衆的な自衛隊なくしては、如何なるカムバーニヤも、示威運動も成功に終ることは出来ない許りか、反動の波を決して押し切ることが出来ないのである。それがあつて初めてより廣い大衆に憤起、自衛の念を與へる。此處に集合して、どういふ道順で、どこで解散すると。××に許された通りを、靜々と練つて行くのは、行列であつて、示威運動ではない。お互に腕を組み合せた示威運動の一隊は赤熱した鐵棒でなければならぬ。それは何者にも妨げられず、何者をも破碎して進む元氣と規律と訓練とを持たねばならぬ。ムツソリーニ治下のイタリー、ツアフォンコ治下のブルガリア、ピルスツキー治下のポーランド、反動的國民黨下の支那等の例は、プロレタリアの力はよく反動の力に對抗し、之をハネ返し得ることを證明してゐる。昨年<sup>一九二〇年</sup>のメーデーには、ワルシヤワの労働者は街頭に出て、ピルスツキーの××と破廉恥極まる波蘭社會黨との砲火を浴びながら前進した。見よ！ その意氣やまさに××の日の×××××を思はしめるではないか。



あらゆるカムバーニヤにおいて、プロレタリア黨は大膽に、Xは何を欲するかを大衆に告げ知らせねばならぬ。カムバーニヤを反XX、反帝國主義戦争の闘争に結びつけ、現支配階級のXX——労働者農民政府でふXX的目標を與へなければならぬ。

反動に對する逆襲、プロレタリアートの自信の鼓舞、最大限の階級動員——これらがカムバーニヤの目的とする政治的意義でなければならぬ。

## 六 闘争の鎖の環

大衆動員の形態として、工場委員会運動、工場代表者會議、農民大會等が絶大な意義を持つてゐることは云ふまでもない。工場代表者會議については『労働者』に野村君の好い論文があり、工場委員会については『マルクス主義』一月號には小泉君の文章がある。『農民運動』には農民大會についての諸論文が載つたことがある。市町村民大會がこれに反して何故有効でないか、については、もう述べる必要がないだらう。前者は生産點に根ざしてゐる、眞に勤勞大衆が働いてゐる場所を發足點としてゐるに反して、後者はさうでない。後者は、休日、又は夕食後の集會であり、小商人、職人、月給取等の所謂小市民に呼びかけるに相應はしい(勿論、吾々はこの層の重要さを輕々には見ないが)。その形態そのものが、階級的でない。労働者を、貧農を糾合するのではなくて、たゞ一般大衆に呼びかけて

ゐる。この形態を以つて舊勞農黨が失敗したことも、貴重な經驗の一つだ。

カムバーニヤは、日を経るに従つて、益々盛んになり、スローガンは益々有名になり、より多くの大衆を惹きつけるやうにしなければならぬ。これは何々デーと日を決められた場合でも、日を決めず何日間かはれる時でも、何々週間の場合でも同様である。週間の場合は、よく後でダレたり、壓迫のために尻切れトンボになつたりする。かういふ場合は、充分な準備を以つて終始緊張してカムバーニヤをつゞけると共に、壓迫を覺悟していろ／＼な特別隊、オルガナイザー、アヂテーターを二重三重に組織しておくべきである。

個々のカムバーニヤの環は、一定の政治的組織的效果を收めて一聯の闘争の鎖に結びつけられねばならぬ。一つの運動はヨリ廣大な力強い運動として次の運動に發展しなければならぬ。さまざまなかムバーニヤが次々に行はれても金魚の糞のやうに、不即不離でブラ下つてゐるのでは、見つともないどころか、何等の意義をなさぬ。一定の政治的效果とは何か？ それは廣大な大衆の闘争意識を鼓舞し、Xのスローガンに親ませ、Xを理解させて、〇〇XXの影響を強めることである。労働者に、闘つて初めて目的を達し得るものといふことを自覺させることである。壓迫、迫害、XX、XXを通じて、大衆自身がXXの階級性を、XXの役割を知ることである。力によつてカムバーニヤが目指した諸要求を貫徹することである。X自體が闘争の經驗を豊富にすることである。カムバーニヤを通



じてその組織を擴大することである。

然り！ 鐵は打つに従つて鍛へられる。吾々も亦、一度は二度、二度は三度と闘争を経るに従つて益々習熟し、力を打ちかためて行かねばならぬ。

——署名「永田幸之助」、『マルクス主義』一九二九・二月 第五四號——

## 民主的スローガン、其他の問題



わが國のプロレタリアートは、現支配階級のX X、この國の急激なデモクラシー化、農業X Xの遂行、一言にして言へば民主X Xの實現といふ、當面の戰略的目標を持つてゐる。プロレタリアの政黨は、この戰略の上に戰術をあみ、そのための要求とスローガンとを精力的に宣傳し、煽動してゐる。そして、その主要打撃の方向は、反動的なブルジョア・地主のプロツクの打破であり、努力はX X的なプロレタリア・農民の同盟を建設することに向けられねばならぬ。

わがプロレタリアートが未だ若かつた時代には、諸條件と形勢を、マルクス主義レーニン主義の見地から分析し、その闘争の戰略を立てるなどといふことは、とても出来なかつた。運動は職工の待遇改善の要求から始まつた。明治三十年代の労働組合運動は勃興期のわが國資本主義の壓力に押し潰されてしまつた。その後は爆發的なストライキや暴動が斷續した。帝國主義戦争の勃發、日本帝國主義の急激な膨張は、プロレタリアートの大衆的存在を齎し、その經濟闘争を刺激した。戦争直後の一般危機の時期に、初めて今日の大衆的労働運動が芽生えた。雑誌上の宣傳だけに追いつめられてゐた社會主義運動もその基礎を得た。しかし、當時の社會主義理論家といふのは、社會主義「學說」の紹介か、せいゝマルクス説大要を説く講釋師に過ぎなかつた。一九二二年に〇〇X X X X——黨内の思想



的不統一、諸分派の紛争、軟弱な組織、セクト的存在等のために基礎薄弱であり、檢舉と震災後の壓迫によつて痛手を受け、一九二四年清算派によつて解散された——が、初めてプロレタリアートの戦略の問題を取り上げた。けれども、その表現は極めて素朴であつた。黨自體に充分な理解がなかつた。黨は〇〇〇廢止のために、普通選挙制獲得のために戦ふ任務を理解しなかつた。×合法の黨自體が合法的活動の舞臺を求めて大衆の力と結合しようとしなかつた。

けれども、状態は進行した。労働者及び農民の政治的欲求（もつと正確に言へば、未だ殆んど經濟闘争だけに局限されてゐた労働階級の政治的意識と、土地と民主的改革とを要求してゐる農民の旺盛な政治的欲求）と、改良主義者の意圖と、プロレタリアート前衛の弱小との諸條件が交叉した所に、労働農民黨が生れた。労働農民黨は必然に若干の民主的過渡的要求を持つてゐた。しかし、合法的に表現しようとする願慮や、日和見主義的意圖のために歪められてゐた。

正しい解決には、多くの摩擦を必要とした。それは先づ理論的闘争の形を取つた。しかし、いつまでも自然成長性の理論と目的意識の理論との對立に終始することは出来ず、やがて戦略及び戦術に關する論議になつた。最初の戦略的目標は「專制的遺制の拂拭<sup>\*</sup>」と表現された。北條氏の唯心哲學及び左翼的戦術は、全く日和見主義的な結果に實を結んだ。

\*

一九二七年七月のコミンテルン執行委員會の「〇〇」に對するテーゼ<sup>\*</sup>こそは、討論の總決算であり、唯一の正しい解答であつた。それは〇〇×××再建の理論的基礎になり、行動への手引となつた。

\* 『コミンテルンの日本問題に關する決議』（『マルクス主義』一九二八・三 第四七號 特別附録）——編者。

民主××を目ざした闘争は始まつた。プロレタリア黨は一切の政治的經濟的事件を、この目的、この目標に結びつけ、労働者及び農民を黨の××的スローガンの下に糾合し、組織し、益々闘争を激化して、××の領導權（ヘゲモニー）を克ち取らねばならぬ。ブルジョア民主××の諸條件（農村に於ける封建的な生産、搾取關係の殘存及び非民主的な國家の制度、即ち〇〇〇、比較的強い大地主の政治的支配力、等）と共に、その急速なプロレタリア××への成長、轉化の諸條件（高度の資本主義發達、國家資本主義の體制の成長、ブルジョアジーと地主との固いブロック、急速なプロレタリアートの成長、等）がある日本では、×は、急速なプロレタリア××への推移といふ豫想を斷じて忘れてはならぬ。

自分等こそコミンテルンに認められたやうな顔をして、實は反旗を翻へし、かのテーゼと前後して×××を脱落した『勞農』一派の指導者達には、決して民主××のための闘争の意義が解らぬのである。唯物史觀の凡俗的理解以上に出ぬのである。「……學說大要」の講釋師以上に出ぬのである。『勞農』創刊號卷頭の論文で山川氏は、空しく「帝國主義ブルジョアジーに對する闘争」を繰り返して居る。

民主的スローガン、其他の問題



\* 山川均『政治的統一戦線へ——無産政黨合同論の根據』(『勞農』一九二七・十二月號)——編者。

猪俣氏も口を開けば、「主要努力の方向——帝國主義の××」といふ。しかし、比較的若い氏は、いろ／＼な引用文で勿體をつけ、けれども、この闘争は一と先づ、ブルジョア民主主義××にカルミネート(高潮)するであらう」と言つたり、その意義をわざ／＼力説したりすることを知つて居る。しかし、結局、氏にあつても「副次的派生的」に終つてゐる。

\* 猪俣津南雄『現代日本ブルジョアジーの政治的地位』(南宋書院)第六三頁——編者。

一體「副次的派生的」な戦略、乃至は戦略的目標なるものがあり得るか。片手間の闘争といふものが? 資本主義××、階級支配の廢絶を終局目的とせぬプロレタリアートの黨は無い。戦略とは、そのために必要とされる、當面の諸條件に應じた、主要な打撃の方向と軍勢の編成方法とを意味する。それは、主觀的な諸條件(プロレタリアートの指導、×××力、等)には關せず、客觀的諸條件は、來るべき××を如何なる階級的性質のものとするかの問題であり、従つてその××達成のためにどう主要な打撃を加へるかの問題である。

農業××なくして、農業生産の自由な發展もなく、また社會主義建設の基礎もない。○○○の××、共和×の實現なくしては、資本と賃労働との兩階級の、眞實正面からの衝突はない。現存の階級關係は、來るべき激變をブルジョア民主主義的ならしめるために必須であり、そのためにプロレタリアー

トの領導權が要求されるのである。この闘争のうちに、プロレタリアートと農民との同盟が形成されプロレタリア××への急速な推移の主觀的諸條件が成熟し、この××にあつて初めてプロレタリアートはその眞實な敵手と當面する。××制は、かゝる決死的闘争のために最適の舞臺である。そして此處に民主××を目ざした闘争の意義がある。

## 一一

戦略は戦術を決定し、戦術は運動の形態やスローガンを決定する。ブルジョア民主××を目ざした闘争には、過渡的な諸要求と民主的スローガンとが相應する。即ち、わがプロレタリア××は、その行動綱領中に、幾つかの過渡的民主的要求を掲げてゐる。「滿十八歳以上男女の選舉權、被選舉權」の要求がそれである。「議會の解散」がそれである。「○○○の××」がそれである。「言論出版の自由、集會結社の權利」がそれである。「累進的所得税の設定」がそれである。また「××、大地主及び寺社所領の××」がそれである。

過渡的な諸要求は、直接にプロレタリア××を目ざしたものでなく、従つて××財産制度の××、階級支配の××を目的とせぬ。けれども、それは現在の時期にあつて、わがプロレタリアートの闘争が不可避免的に通過せねばならぬ段階に應じた要求である。従つて、過渡的——民主的要求は現在の政



治的警察的事情の下に、言へるだけのものを穩やかに言ひ廻したのではない。原則的要求を、合法の表で包んだものではない。それは、飽くまで過渡的であり、民主XXを目ざしたものである。

同時に、わがプロレタリアXは、その行動綱領のうちに、幾つかの労働者の要求——プロレタリアート本来の、但し端初的、基本的要求を掲げてゐる。即ち「七時間労働、最低賃銀制の實施」がそれであり、「資本家國家の負擔による労働者健康保險」がそれである。此等は決して民主的要求ではなくて、労働者の基本的な要求である。こゝに、民主的闘争と労働運動との結合がある。そして、民主的闘争は、プロレタリアートの領導權の下に一切の被壓迫の勤勞群衆が動員さるべきこの闘争自體は、プロレタリアートの本来の諸要求、闘争と結びついてこそ強力なものになり、またプロレタリアートの領導權そのものが確保されるのである。そこに、民主XXのプロレタリアXXへの急速な推移の豫想が暗示される。そして、闘争の進むにつれて、主觀的諸條件の成熟するにつれて、この労働者的要求はより多く附加されねばならぬ。

吾々の時代はプロレタリアXXの時代である。この時代に於ける民主XXを目ざした闘争も、植民地、半植民地の解放戦も、プロレタリアートの領導權の下に闘はねばならず、また何れも客觀的にプロレタリア世界XXの一部をなすものである。従つて、民主的闘争に於ける行動綱領、スローガンは主要な打撃の方向とXXの同盟軍(第一に農民)の要求を表したのみでなく、XXのあらゆる同盟者、

豫備隊の編成を目がけねばならぬ。プロレタリアートの國際的義務の遂行を目がけねばならぬ。即ちそのために必要とされる義務、——「XX地の解放」「支那XXの擁護」「サヴェート同盟のXX」——此等三つの要素を結合した、プロレタリアXの行動綱領は、中心的な目標——中心的なスローガンに導かれねばならぬ。「吾々の綱領(XXインタナショナル綱領)は、プロレタリアートの世界XXを目ざした闘争の綱領である」(ブハーリン)。この行動綱領のあらゆる宣傳、煽動は、「労働者農民XX」——「プロレタリアートのXX」といふスローガンと結合されねばならぬ。

此處に、「労働者農民XX」のスローガンが、わが民主的闘争に占める地位がある。このスローガンの意義は、最も重要な政權の問題に觸れてゐることである。「あらゆるXXの問題において、最も重要なのは政權の問題である」(レーニン)。そして、このスローガンは、それが労働者と農民とのXXの民主的獨裁の場合であらうと、プロレタリアートのXXの場合であらうと、XXの政權は、労働者及び農民の手中になければならぬといふ思想を表現してゐる。XXの主動力と共に、政權の負擔者が何人であるべきかを端的に表現して居る。それは、民主的闘争の場合には、民主XXの主動力、XXの政權の負擔者、そのXXの急速なプロレタリアXXへの推移の豫想、並びにプロレタリアートのXXてふ目標の全てを大衆の言葉で言ひ表して居るのである。

帝國主義の代理人としての社會民主主義者には、XX的豫想がない。その必要がない。その要求は



現存の社會——政治制度の埒内に於ける、従つて、わが國の場合には、立憲〇〇〇の域内に於ける改良的要求である。従つて彼等は寧ろ立憲君主々義的な改良主義者である(社會民衆黨)。日本大衆黨指導者も同様であるが、この黨内には民主的改革を要求してゐる卒伍が居り、それを利用して左翼的言辭を吐き散らすことを知つて居る左翼民主々義者が居る(『勞農』派)。

しかし『勞農』派の左翼社會民主々義者は決して、政權の問題に觸れることをしない。「〇〇〇のX」の要求は、無政府主義だといつて逃げ廻る。プロレタリアXが「勞働者農民X」のスローガンを唱導する意味が解らない。口から泡を吹きながら叫ぶ、未だ早い、未だ早い、と。

彼等は、その戦略に「帝國主義のX」と大書する。そしてそれにつゞく戦術は、〇〇X X Xの解散要求、右翼改良主義者との感激の握手。彼等が提唱した一つのスローガンは「徹底普選の獲得」である。

「徹底普選」とは何か？ 説明を聞かなければ内容も分らぬ代物である。一體何歳以上の男女に選挙權を要求するのか？ この漠然とした要求一つを掲げて、如何なる闘争をやるつもりなのか？

彼等には、左翼的言辭にかくれて、X X X攻撃に専心する役割——帝國主義者がその幾通りかの代理人に與へた役割の一つの外には、實は戦略も、戦術も、スローガンもないのである。

## 三

僕は現在の闘争に於ける民主的スローガンの意義を述べようとして、戦略の問題にまで觸れた。ここに僕が提出しようとするのは、現在稱呼されてゐる民主的スローガンの再吟味の問題である。特に合法的な新聞紙上にも表れてゐるスローガンについてである。所謂、福本主義の成果たる日和見主義の影響を受け、また合法主義的な顧慮に禍され歪められたスローガン、乃至その理解が、残存してゐないかの問題である。

日和見主義は刈られねばならぬ。その落穂、枯莖と共に。

僕は一例として、「政治的自由の獲得」といふスローガンを取らう。これは、福本主義以來稱呼されるやうになつたスローガンであり、舊勞農黨でも採用した。十二月二十四日の『無産者新聞』特別號に於ける、『新黨準備會は今後如何にして發展し行くべきか』云々の小泉君の論文にも表れて居り、これが示唆となつて新黨準備會から再組織されつゝある同盟の名にもくつゝいて居る。

「政治的自由の獲得」とは極めて抽象的である。宛かもデモクラシー獲得と言ふに等しい。吾々は、單にデモクラシーと言はずに、その階級的内容によつてブルジョア・デモクラシー(ブルジョア獨裁)と呼び、プロレタリア獨裁(プロレタリア・デモクラシー)といふ。こゝに言ふ政治的自由とは何か？



それは、ブルジョア・デモクラシーの内容をなすものである。それは言論出版の自由、結社集會の権利が「保證」されて居ることを意味する。労働組合及びストライキの自由があることを意味する。無暗に逮捕、検束、拘留がないことを意味する。XXに拷問されてXされたり、手紙が勝手に「紛失」しないことを意味する。それは、階級と階級との力の関係が決定する一つの紳士協約である。米國で、XXは、その綱領を公然表示することを許されてゐる。たゞプロレタリアXXの實現には、XXの手段に訴へることを辭さぬといふ項目を除いては。——かくの如き紳士協約である。英國で、兵器廠から多數のXX員が讖首された時、英國XXは一大抗議運動を起し、機關紙上で此等の同志は、Xの組織を植つけるために、ブルジョア國家を内からXXするため働いてゐるのだと公言した。——かういふことが言へる「自由」である。至る處の資本主義諸國で、ブルジョア反動のために益々有名無實になり、それらの國でプロレタリアートが奪ひ返すことに奮闘しつゝあるものであり、吾々が力によつて刻々にその範圍を擴大し行くことの出来るものである。それは、一言にして言へば、ブルジョア的な政治的自由である。

然るに、「政治的自由」の文字を取り出して、これだけの表現で稱呼することは、大きな危険に導き易い。吾々はいつでも嚴正な階級的表現を用ひなければならぬ。第二に、このスローガンの由來は、福本主義時代の日和見主義的戰略論と不可分離の關係があることである。このスローガンは、政治的

自由の獲得は民主的闘争の産物、民主XXの一成りたるべきものであるとの理解ではなしに、何をするにも政治的自由が必要だ、先づそれを闘ひ取つてからといふ日和見主義的理解が伴つてゐた。

小泉君の論文中には、幾つかのスローガンの最後に「政治的自由の獲得」と書かれてある。これはなくもがなである。その内容を説明する具體的なスローガンがその直ぐ前に列擧されてあるではないか。新同盟の名稱にしても同様である。舊労働黨の存在を理論づけようとした企てのうちには、わが國で民主XXの達成までには、かやうな労働者と農民との合成黨が必要だ(而もXXに代つて)といふ議論があつた。新同盟は、かやうな謬見を打破して、労働者と農民との同盟の一形態、プロレタリアートの前衛と廣大な労働群衆とが結合さるべき、一時的な大衆動員組織の核心として再生しようとしてゐる。この時に、前時代の最後の片影をも捨て去るべきではなからうか。「政治的自由獲得同盟」の名は、民主XX前夜までは、政治的自由獲得までは、絶對必要な組織のやうに思はせる。僕は、労働者農民同盟、乃至、労働政治同盟(?)の名の端的なるに如くはないと考へる。

今一つ、「耕作權の確立」乃至「農民に土地を保證しろ」といふスローガンについて。「耕作權の確立」といふスローガンは、かつて大きな役割を演じた。それは、農民運動が法廷戰術の時代から、漸く大衆行動の時代に移らうとした轉換期に投げ出された。それまで、農民組合(日本農民組合)の闘争には、中心的な煽動のスローガンがなかつた。土地國有を掲げては居たが、それは充分に宣傳もさ



れなかつた。小作料の何割減、乃至小作權の確立といふのが共通の合言葉であつた。しかし、狀勢は進んで、いつまでも法廷の驅引ではなかつた。大衆行動は展開され、「耕作權の確立」といふスローガンがポピュラー(有名)になつた。

けれども、この「耕作權」そのものが極めて曖昧である。あれは暗示的だが、土地××權に對する對立を含んで居る。何よりも先づ耕作してゐる百姓を如何かして呉れといふ要求を含んでゐる。同時にこのスローガンは、合法的に顧慮されて表現されてある。従つて合法主義に解釋される餘地がある。土地所有權に對する意味で、耕作従事の事實に物權法の所謂占有權とか先取得權とかを認めて呉れといふやうに聞える。現に、このスローガンが多數の農民組合に採用されてから、指導者はこれを極めて曖昧な意味に使つた。このスローガンは最早や過去のものである。

「農民に土地を保證しろ」のスローガンは、これに比すれば一步前進である。それは、農民にとつては何よりも大切な土地の問題を表明してゐる。けれども「保證」の文字は依然として不明である。自作農案で農民を縛りつけても「保證」したことになりはしないか。保證しようとするれば、それは忽ち土地所有權に對峙する。マルクスが引用した一醫師の言葉に、所謂「自己の所有物を欲する儘に處分する」地主のために、土地の耕作者を異邦人のやうに取扱ひ、これを己が所領から驅逐するといふ……無條件的な土地所有權」に當面する。

吾々はもう明白に云ひ表はさなければならぬ、『土地を農民へ！』と。

名は實の賓である。吾々は、正しいそして適切なスローガン、大衆に解りのよい、ピッタリと來るスローガンを掲げなくてはならぬ。けれども、それ以上に肝要なことは、鬭争のうちに、スローガンが練磨され、尖鋭化されることである。組織が強化され、鬭争が激化することである。(一九二二年一月)

——署名「内田隆吉」、『マルクス主義』一九二九・二月 第五四號——



わが國農業問題と  
農民運動の諸問題



わが國に於ける農業の危機は、最近年に、廣さにおいても深さにおいても、進んだと言ふことが出来る。それは決して地主階級が困惑してゐるといふ意味においてはではない。それは、單に中農、即ち自作農の地位が悪化し、没落の途を餘儀なくされてゐるといふ許りでもない。單に、貧農たる小作人が窮乏のどん底に苦んでゐるといふ許りでもない。澎湃たる小作爭議の波濤の上に、支配階級にとつて幾多の「農村振興策」、自作農創定、兩稅移轉、義務教育費の國庫負擔、人口食糧問題、産米増殖策等々の問題が論議され、どの支配黨も農業危機の解決を標榜してゐるにも拘らず、何等の具體策に出ることが出来ぬといふ事實は、物納地代制度——徭役、勞働地代の變化した——と過小農土地所有とに基礎をおいたわが農業生産そのものゝ危機を暴露する。狭小な耕地面積しかもつて居ないわが農業生産が、半封建的な生産關係の下ではどうにも發展することが出来ないこと、法外な地代を收得する地主階級の重みに堪え切れなくなつたことを物語る。過小農土地所有が、高利貸と租稅と獨占價格と商業資本の欺瞞とのために、おし潰され衰退に瀕してゐることを物語る。

飲まず食はずで働いて、働いて損をする。生産諸條件は累進的に悪化し、生産機關は騰貴する。豊作もまた不運であり、不作となれば目も當てられぬ。



それは、根本のところ、土地所有の問題にぶつつかる。

そして、農民の闘争も、自然發生的に、土地を目がけて、且つ大地主の土地所有に對して向ふやうになつた。貧農及び小農の闘争——所謂小作争議は、現實にはその生活の窮迫、痛苦からして小作料を少し減らして貰ふといふのだが、その底には農民の土地への渴望が貫いて居る。その僅かな小作料の減免運動も、今は否應なしに、地主の土地所有權そのものに對峙し、立入禁止、立毛差押にぶつつかるのである。

それと同時に、窮乏してゐる中農以下の農民は、高利貸や、質入擔保の利子や、租稅や、高價な農具・肥料代や、さまざまの物入り、また町村のための奉仕に悩まされて、どうしていゝか分らない焦慮と絶望と、漠然としたしかし底深い不満とに生きて居り、従つて僅かなキツカケからもその不満は反抗となつて現はれる。

岐阜縣名森の農民暴動の如きも、その根底には、土地を失ふまいとする中小農並びに貧農の（たとひ自分の土地でなくとも、丹精こめて悪田をなほして、耕してゐる）焦慮と、地主出身の政黨屋の横暴に對する農村人口共通の不滿とがある。最近各所に爆發するこの種の暴動乃至騒動や、ブルジョア政黨不信任の傾向（舉村脱黨等）は、大地主の利益のまゝになつてゐる地方政治又は政黨に對する不滿の表れであつて、しかもなほ他の大地主派（即ち反對黨）や村の諸機關を占め、世話をやいてゐる上

層の富農に利用されたりしてゐるのである。

この深刻な農業危機の根底に横はつてゐる土地所有の關係はどうであるか。

第一表 土地所有者戸數

年度	五反未満	五反以上	一町以上	三町以上	五町以上	十町以上	五十町以上	合計
一九二二	二、五九六、九八四	一、七四四、二六六	八七九、七九五	三二六、七四八	三三、六九五	四七、九七五	四、二七七	四、八三三、六九二
一九二三	二、三八八、六八八	一、一八〇、二四六	八七九、七六六	三二六、三三四	一四〇、六四六	四八、三三七	四、二六四	四、八六八、五三二
一九三三	二、四二六、〇五六	一、一八〇、五九二	八八三、二八六	三二七、六四四	一七、五五〇	四八、五〇三	四、〇七八	四、八七八、八五二
一九三四	二、七五〇、一六二	一、一〇七、〇三三	八九〇、五七四	三三三、九三三	一七、〇八八	四七、六九五	四、九五〇	四、九七〇、四四四
一九三五	二、四七八、五六〇	一、二三八、一四四	八八八、六三三	三二七、七三三	一五、三三三	四六、三三〇	四、二九三	四、九七九、〇一八

この、讀者の多くの見なれた圖表は、土地所有の非常な不均衡を物語つてゐる。最上層には、五萬人ほどの十町以上耕地所有の大地主があり、次いで三町以上の地主並びに富農二十一萬七千がある。下層には、一町以下しか所有せぬ約三百七十萬があり、その中、五反未満が約二百五十萬の多數である。さらに最下層には、この表には決して現はれて來ない約百五十萬の貧農がある。中農は小農へ、小農は貧農へと落ちて行つて、戸數の増大は下層に著しい。



こゝに問題の根底があるのであつて、ブルジョア諸政黨の農村通とか、若し現在の農業危機を呪ふのであるなら、まさにこの表を、彼等の土地所有自體を呪ふがいゝ。  
 ついでに、生産機關の不均衡な分布、即ち家畜、農具特に改良農具、新式農具並びに機械、肥料等の分布、農舎の廣狹等、農民中の諸階層を異にするにつれて大きな差がある事實、桑畑反別並びに繭掃立數の相異、また大森林所有の存在、×××、寺社所有の廣大な地域等に讀者の注意を促しておか  
 う。

森林面積（一九二四年末、單位千町）

御料	國有	公有	社寺有	私有	計
一、二一	七、四三五	三、〇五八	二七	七、八〇二	一九、五五三

御料地面積（一九二七年末、單位町）

世傳	宮殿地	林地	農地	宅地	雜地	計
四九	四九	三、四、二八三	一、六〇	四	六	二六、六五
普通	一、九	一、二七、六三	一三、六六	二四七	三、九四	一、二五三、五九
計	六七	一、三五九、四八〇	一六二、三三	三二	五、四六	一、五八、二二

過小農的土地所有と過小農的小作との存在する所に、農業生産の自由な發展はあり得ない。

小作料、即ち物納地代とは徭役労働地代の變化したものであつて、地代の本質に何の變化もない。耕作物の半分も小作料として地主へ納めなければならぬ。小作人と地代との間には、傳統的、習慣的な關係があつて、地主は小作人に對して、暴威を振ふ。小作料は「地主様」への「御年貢」である。小作人がどんなに汗水たらして働いても、決して儲けることはない。生産の諸條件は年毎に悪くなるばかりである。都市に於ける暴風的な、急速な資本主義發展にも拘らず、日本農村が社會經濟的にまた技術的に後れて居るのは、この小作制度のためである。

過小農的土地所有は、わが身を粉にして働いてゐる自作農が維持する。猫の額ほどの土地に嚙りついて、驚くほどの人間の労働力を費さねばならぬ。土地價格に投じた資本は、耕作から引き上げられ、莫大な利子がつく。または、土地が抵當や擔保に入つてゐて、利子を拂はねばならぬ。少なからぬ租税がある。かれこれ合はして、かの法外な小作料と變らぬ。

「過小農的土地所有は、その性質上、労働の社會的生產の發展や、労働の社會的諸形態や、資本の社會的集積や大規模の牧畜や、科學の累進的應用や等を排除する\*。」



\* マルクス『資本論』第三卷、——著者。改造社版 第五冊 第三四五頁、——編者。

かくして、わが國農村には、半封建的な生産關係が残存してゐる。社會的勞働ではなくて、個々の人々が鼻水たらしめての孤立的勞働である。小作の場合でも、自作の場合でも、收得したものは悉く地主並びに貨幣資本家の手に入つてしまふ。その地位が如何に悲惨であるか、マルクスは「小さい所有は原始的社會諸形態に伴ふ一切の粗野と、文明諸國のあらゆる悲惨とを兼ねた、半ば社會外におかれてゐる野蠻人階級をつくり出す」と書いてゐる。かつては、耕地整理やさまざまの農事改良やが役割を演じたが、今や發展を停止した農業生産にとつて何の足しにもならぬ。農民は費用を負擔することが出来ぬ。金をかけたゞけのものは、獲れぬのだ。わが農業經濟は、發展の方向を辿つて居らぬ。

\* マルクス 前掲、改造社版前掲 第三五一頁、——編者。

地主經濟はどういふ方向をとつて居るか。注目すべきは地主自身の經營が殆んどないといふことである。大地主はいづれも所謂不在地主であつて、莫大な小作料に寄生してゐるのである。小作爭議地處分の統計を見ても、地主が直接賃勞働を備つて經營するやうになるのは極めて少なく、寧ろ例外であつて、その多くは再小作、轉小作、次いで地目變更、宅地への變更等である。彼等は少しも生産的な方向には行かうとせぬ。近年、小作爭議の影響から土地會社、産業會社、或は農事會社と稱するものをこしらへるが、これは農業經營のためではなくして、多くは小作料取立、土地賣買等をやる信託

會社類似のものである。

農業生産は發展させられねばならぬ。農民は解放されねばならぬ。そして、こゝに日本に於ける農業××の必然性がある。將來すべき民主××に於ける農業××の意義がある。

三

この半封建的な農業生産關係の上に、農村の階級關係はどう進行してゐるか。不充分ながら前掲及び以下の表から推論して見よう。

第二表 農家戸數耕作耕地廣狹別

年 度	五反未満	五反以上	一町以上	二町以上	三町以上	五町以上	合 計
一九二一	一、九二六、五八三	一、八三三、七五三	一、二四二、九三	三三四、三四一	一五〇、六六七	八八、九六六	五、四五五、六八一
一九二二	一、九二二、七六八	一、八二二、三三三	一、二五六、九九三	三三二、四五四	一四五、二一九	八一、七四二	五、四三九、四〇九
一九二三	一、九一〇、三三〇	一、八七五、五六一	一、二六三、六二七	三二九、六二二	一三九、七六六	七九、三〇二	五、四四〇、〇一〇
一九二四	一、九四一、六三三	一、八六八、七九四	一、二八一、二三三	三三三、六六六	一三八、〇一一	六六、一六二	五、五三三、四二九
一九二五	一、九五一、一五六	一、八七五、一八五	一、二八五、三三四	三三三、八五〇	一三七、〇八四	七四、九六〇	五、五四八、五九九



第三表 農家戸数自作小作別

年 度	自 作	小 作	自作兼 作	合 計
一九二一	一、六〇、〇九〇	一、五四、六六七	二、三二、九三四	五、四五、六八一
一九二二	一、六三、四七九	一、五四、二七九	二、三五、六一	五、四三九、四〇九
一九二三	一、六四、五六	一、五五、七九	二、三九、七五	五、四〇、〇二〇
一九二四	一、七五、八八	一、五二、一七	二、七五、四四	五、五三、四二九
一九二五	一、七五、〇四	一、五五、六六	二、二七、九〇九	五、五八、五九九

前の第一表と第二表とを比較すると、種々な相異が眼につく。土地の所有者戸数よりも、耕作に従事してゐる戸数の方が遙かに多い。さらに、五反未満、五反以上、一町以上、三町以上、五町以上といふように、耕地所有者戸数と農家戸数とを比較すると、まず五反未満で耕作者戸数よりも所有者戸数の方がすつと多い。これは、五反位の自己所有地だけを耕してゐたのではやつて行けぬので自分の土地の外に、地主から土地を借りる自作兼小作の所在を示す。五反以上、一町以上となるにつれて、耕作者が殖えてゐるのは、この種の自作兼小作の所在を物語るものであろう。然るに、三町以上では、耕作者戸数よりも、所有者戸数の方が多くなる。これは農民以外の者、即ち地主が参加するからであ

る。三町以上全部の、耕作地所有者戸数から、同農家戸数を引くと、一八一、六四七といふ数字を得るが(一九二五年)、これは全くの地代に寄生してゐる地主階級と見てよい。その外に、地主で所有地の一部を耕作し農家戸数に含まれてゐる者及び三町以上の小地主、特に大地主の二男、三男、乃至分家、附近町村の商人その他で、一、二町の田畑を有つてゐる者等があるが、何れにしても、農民の搾取収奪の上に寄生生活をして居る地主階級の中心がこれである。

下層には、一町以下の耕作に従事する貧農、小農がある。第三表自作兼小作と小作との合計は三、八二三、五六五であり、一町以下の耕作者の数は、三、八二八、三四一を算する所から推定して、小作人は稀に數町耕すものもあるが、大體一町以下を耕作し、自作兼小作は、所謂五反百姓なるもので、五反あるなしの土地を持ち(自作兼小作戸数と五反未満耕地所有者戸数との近似を見よ)、さうに若干を借りて小作してゐるものと推算される。勿論、一方に一町未満を所有し、耕作する自作農並びに、他方に、自己所有の耕地と小作地とが一町以上に及ぶ自作兼小作があり、一町以上の小作もあるが、大體その数は相交するものと見て、吾々はこの三百八十萬乃至四百萬を以つて、農村の半プロレタリア(貧農)並びに小農と言ふことが出来る。貧農は約百五十萬である。

一町以上を所有し耕作する自作(並びに自作兼小作)は、中農であり、三町以上のそれは、わが國では富農の階層をなす。



農家戸數と耕地との比較をすれば、第二表に於ける自營地主を加へた農家戸數で全耕地(田畑)を割つても、平均一・一町といふ小さなものになる。若し、自作兼小作のあるなしの所有耕地を除けば、貧農及び小農は平均七段五畝といふ僅かな耕地に生活し、而も法外な小作料を支拂つて居るといふことになる。自作であつても、小作であつても、收支償はぬのが當然なのであつて、帝國農會の出鱈目な計算、家畜使用日數が一日、家族及び雇人の勞働日數が三週間といふ計算を以つてしても、儲けは現れて來ないのである。

貧農と小農とは、最も壓迫され、搾取されてゐる階層である。最も土地への渴望に燃えてゐる階級である。最も大地主の優越と横暴とに痛憤してゐる階級である。就中、貧農は土地を全然持たぬ。その地位は半プロレタリア的である。その地位は益々悪化し、家の中に何一つ残るものもなくなり、娘は紡績や製糸に女工に賣られ、その子弟、または一家全體が離村し、プロレタリア化して行く。この層には、季節的勞働に従事するものが多い。半農半勞、半農半漁等は、多くこの層である。それは勞働力の原生的エネルギーの供給所であり、種々なる脈絡を以つて都市プロレタリアートとつながりがある。

その他に、吾々は重要な要素、農村に於けるプロレタリア、——多く日傭人、傭女である四十萬の農業勞働者に注目しなければならぬ。

中農の地位は決して、良くないばかりか、困苦を極めてゐる。租税や利子や肥料代その他に悩んでゐる。たゞ、その上部、富農と稱してもいゝものは、その地位が比較的によく村會、農會、耕地整理組合その他名譽職等に關聯し、大地主の利益と結ばれてゐる場合がある。

地主階級こそは、父祖傳來の土地所有と農民に對する半ば支配的な地位の上に立つて、農村生活に強い支配力を持つてゐるものであり、前述諸階級の利益に對立する。それは農村に於ける支配階級であり、府縣會に勢力を占め、町村會、農會その他を我がものにしてゐる。坊主も、校長さんも、派出所の巡查部長もすべてその意のままだ。地主階級は、また地方のブルジョアである。大地主であると共に、酒造家であり、商家である。銀行家、地方鐵道の發起人——株主、地方特産會社の株主、運送屋、肥料屋等々を兼ねる場合がある。それは銀行資本とは密接な關係を持つてゐる。勿論、彼は物納地代といふ半封建的な搾取に立脚してゐるが、現物は貨幣に、否、株券や債券に代へられて、別に利子といふものを生んで行く。反對に、没落しかけた地主の土地は多く抵當に入り、その地代は直ちに利子となつて銀行や高利貸の手に入る。地主階級は、また商業資本の偽瞞とも深く結ばれて居る。

資本家地主の政府の諸施設並びにブルジョア政黨の諸政策なるものは、何れもこの地主階級の利益擁護のためであり、地價下落乃至小作爭議によるその困惑を救ふか、または自分の利益のために、中農——自作農維持又は創定の案を立てたりするのである。反動的なブルジョア地主のプロツクは、農



業危機を解決することが出来ぬ。ストリビンの農業改革の芝居を打つ財源も土地もないのである。たゞ彼等は能ふ限りの收奪を農村人口に敢てしながら、偽瞞的な政綱でだまし続けようとする。

## 四

地主階級に對する農民の闘争は、貧農の小作争議に始まつた。勿論、その初めから土地を目がけた闘争として發生してはゐない。それは、せつば詰まつた小作料の一次的減額、乃至延納の要求から始まつた。その闘争形態は、最初のうちは検見の要求や鎌止めで交渉するとか、引合はぬといふので土地を返還するとかであつた。小作料の滞納は、地主の訴訟を促し、争議は法廷戦術の形をとるやうになつた。小作争議に辯護士がつき物になつた。これと同時に、組織された農民の組合數が急速に増えた。農民組合が全国的に組織されたのは、一九二二年頃からであつたが、瞬く間に至る處に組織され、一九二五年末、争議件數は二千を越えるやうになつた。農民側は、年々減額を要求し、また永久的減額を要求し、争議は年を數へるに至つて、地主は土地返還の要求を以つて對抗し來るのが多くなつた。裁判件數は益々多數になつた。

然るに、地主が立入禁止、立毛差押、動産差押の手段に出て、無理矢理に土地を取り戻し、收穫物を手に入れようとするにつれて、法廷戦術だけでは間に合はなくなつた。一九二五年來の俄然たる、

土地返還の要求並びに立入禁止、立毛差押處分の増加がこれを示し、伏石事件がこれを雄辯に物語つた。地主の強制手段に對しては、必然に農民の大衆行動が相應じた。地主階級の側に於ける裁判所、警察、無賴漢等の動員に對し、屢々流血の結果を見た農民の大衆行動が展開されるに至つた。香川、三重、京都、大阪、兵庫、奈良、福岡、岡山、鳥取、新潟、山梨、群馬等は小作争議が漸發した地方であつた。

一九二八年には小作争議件數が減つたが、いろ／＼な原因中、反動政府の極端な壓迫と、農民組合指導の軟弱な方針とが最も影響して居る。小作争議の波は決して低まつたのではない。現に新潟、長野、島根、宮城、秋田の諸地方に行はれてゐる闘争がこれを證する。

農民の闘争は、この大衆行動を最大限に發展させて、勝利を得ることが出来る。大衆行動こそは、分散した農民を一つに集め、集團的に訓練し、協同一致の精神を植えつける。大衆行動は、闘争心を鼓舞し、勝利の自信を興へる。それは社會的勞働と、社會的生産との可能性を理解せしめる。大衆行動が法廷の驅引に附屬するのではなくて、法廷戦術が大衆行動に従屬しなければならぬ。共同耕作(共同の植附、共同刈入)、大衆的示威運動、野天演説會、立入禁止、立毛差押の××、××、地主の傭兵(地廻り、ごろつき等)への逆襲、等々。

「土地所有××」のスローガンの×動と相まつて、この闘争は土地××權に對する闘争、土地を目ざ



した闘争に進んで行かねばならぬ。

小作料を中心にした闘争だけでなく、その他の問題に關聯しても農民の闘争が起つてゐることは注目すべきである。就中、租税の問題(悪税廢止)、その他の公課負擔、奉仕に對する反對、獨占價格の問題(電燈料)等に關聯して起つてゐる。單に小作人だけでなく、農民大會等の形をとつて、中農層まで引き入れてゐるのが多い。

闘争はもつとく擴げられねばならぬ。あらゆる問題について、農民の諸階層の闘争が、大土地所有に對して、ブルジョア地主の國家に對して展開されねばならぬ。負債の問題については、いまだ運動が始まつて居らぬが、これも重要な問題である。農村の負債額四十億といはれるのも、すべて中農以下の農民の肩に落ちかゝる。利子延期、値下げ、××等のために運動が起らねばならぬ。さらに、軍國主義の負擔がある。子弟入營中の家族への補助や兵卒の待遇改善、軍備擴張反對、新帝國主義戰爭反對等の闘争題目がある。官僚政治、地主の專權等に對して、特に廣大なる農民の大衆闘争が喚起されねばならぬ。

「土地を農民へ」。農村に於ける階級分裂は進んで居り、土地の缺乏が痛感されてゐる。土地の問題の解決なくしては、農民の解放も、農業危機の解決もあり得ない。

## 五

けれども、一度、農民が土地を目掛けて闘争を始めるや、忽ちに地主階級の大地所有に、ブルジョア地主の反動的プロツクの政權に當面する。農民は、その支持者を求めねばならぬ。

農民は、過渡的な階級である。農民は分散した階級である。農民は過去からの階級である。農民は、その手に若干の生産手段を持つてゐる小ブルジョアの階級である。けれども、極端に收奪され、搾取されて、困苦窮乏してゐる。その思想は、保守的であり、愛國主義熱が強い。窮迫の下に屢々爆發的に起つが、また時々その反動性を示す。

この農民は、資本主義の下に於ける最も革命的な階級、その「墓掘り人」たるプロレタリアートと結合し、後者の指導の下に協同してこそ、その勝利を達することが出来る。資本主義の發達した今日では、農民の闘争は、プロレタリアートとの協同、その指導なくしては勝利を得ることが出来ぬことを多くの國々の例が證明してゐる(例へばブルガリアの農民政府の失敗)。それは、分散し、各々孤立した農民の力では、ブルジョア地主の強力に打ち勝つことが出来ぬからである。それに反して、サヴェート同盟は、労働者と農民とが力強く同盟して闘ひ成功した好箇の實例を示してゐる。プロレタリアートは自己の労働力以外何ものをも持たぬ、本來の革命的階級である。近代産業によ



つて集團的に鍛へられた階級である。

資本家と地主とのプロツクに對しては、このプロレタリアートの指導下に、プロレタリアートと農民との固いXX的同盟がなさねばならぬ。

然らば、この同盟はどうして結成されるか。

それは資本家地主のプロツクに對する、資本家地主の政府に對する、民主XXを目ざした、共同の闘争のうちに、結成されつゝあるものである。舊労働農民黨の闘争は、労働者と農民とを接近させ、共同させるのに多大な役割を演じた。特に、一九二七年以來展開された議會解散運動、金融恐慌の結果に對する闘争、五法案獲得運動、府縣會及び國會の選挙戦、最後に暴壓反對の闘争等は、労働者と農民とを結合させて、闘争的同盟の土臺を築いた。

同盟は、階級と階級との同盟である。それは、二階級の合成黨によつて達成されるでもなければ、何等かの特別組織の内で形成されるでもない。それは、階級闘争の發展のうちに結成される。それはさまざまの筋道、脈絡を辿つて結成される。

労働同盟は、今や、ヨリ廣大な、ヨリ有効な動員形態と活動方法とをもつて進もうとしてゐる。即ち、組織未組織の廣大な大衆を動員し、組織するために、工場委員會、工場代表者會議及び農民大會等を基礎にして活動しようとしてゐる。

かやうな大衆的動員の形態は、また労働農民の同盟の一形態である。前述した諸問題に關聯して、これを政治的目標に結びつけ、廣大な農民の層が農民大會等に動員されねばならぬ。

また例へば、帝國主義戦争反對の運動に、労働者と農民は協働せねばならぬ。反戦同盟の如きは、工場にも、農村にも、會員と支持者とを有つた大衆團體にならねばならぬ。

また労働者のストライキと農民の小作争議とは協働せねばならぬ。お互ひに同志を派して激勵したり、應援資金や米俵が送られたりすることは、非常な意義あるものである。労働組合左翼の全國的の心が破壊されたために、かゝる協同が弱まつたのは遺憾である。労働者と農民との間には無数のかけ橋が渡されねばならぬ。故郷の村の争議では、製絲工場の女工のストライキが呼應しなければならぬ。至る處にストライキと小作争議とが呼應しなければならぬ(特に同一資本家地主の場合の如き)。出稼の漁業労働者は、歸村して農民組合組織に努力しなければならぬ。失業者が歸村しても同様だ。かの香川再建の闘争などには、都市の労働者は全力をあげて應援する義務がある。

このXX的同盟建設のためには、農民のプロレタリア的指導のためには、プロレタリアXの農村に於ける活動が必要である。プロレタリアXは、農村に於ける宣X、X動又組織に従事しなければならぬ。農民の間に、Xのスローガンを、特に「大土地所有のXX」のスローガンをX動しなければならぬ。それは同時は、土地國有の綱領を説明し、宣傳すべきである。貧農の間に、その組織事業を擴大



しなければならぬ。

また農民組合内で活動し、その闘争に参加し、これを××的目標に指導しなければならぬ。活動の地盤は、貧農並びに農村プロレタリアであつて、その獲得、組織に最も力を入れねばならぬ。その貧農とプロレタリアートとの同盟こそが、プロレタリアートと農民との同盟の基礎をなすものである。

## 六

農民組合については、所謂「農民ボツス（親分）」や改良主義者によつて分裂せしめられてゐる戦線を統一すること、並びに未組織者の組織が重要である。全国農民組合の結成は、僅かに統一の一步であつて、さまざまの全国的組織及び地方的小作人組合は、協同の闘争のうちに、接近せしめられ、一つに統一されねばならぬ。全国農民組合指導下の全国農民團體協議會などは、強力に發展させなければならぬ。

全国の小作人組合員總數三十五萬は、いまだに小さい數であつて、現存の農民組合は、未組織地方の開拓、組織にうんと力を注ぐべきである。

農民組合は、農民に闘争の方向を示さねばならぬ。戦闘的運動方針を持たねばならぬ。左翼社會民主主義者は、なか／＼農民運動のことを云々するが、農業危機の基本的問題について、プロレタリア

ートと農民との同盟について、また農民の闘争の方向について論述し、指導することはしないで、くどくどと農民組合の大團結やその他について語つてゐる。彼等に従へば、全国農民組合の成立は、理想通りの組合なのだらう。けれども、必要なことは單に合同そのものではなくて、新合同體が新しい結合された力をもつて、より力強い闘争を遂行することである。この點で、全国農民組合の指導には若干の後退がある。農民の闘争を如何に發展さすべきかの展望をもたずに、事象に逐はれてゐる。その内には、農民の闘争を激化せず、出来るだけ隱健なものにしようとしてゐる分子がある。農民はこういう指導の下では決して勝つことが出来ぬ。

プロレタリアートと農民との同盟でふ思想が廣く××されねばならぬ。全国農民組合の運動が力強く延びないのは、單に彈壓だけでなく、都市労働者との提携が緩んだといふことも一因なのである。しかも、出来るだけ、都市労働者から、政治闘争から手を引かうといふやうな傾向は全くの日和見主義であつて、徹底的に打破せねばならぬ。農民の大衆は手をさし延ばしてゐるのだ。北日本農民組合は、全国農民團體協議會に加盟し來り、戦闘的な指導に共鳴してゐる。島根縣小作聯合會が、その綱領に「我等は穩健着實合理合法公明正大の手段を以つて階級闘争の絶滅を期す」と掲げてあつても、現實の必要は、その大衆を階級闘争場裡に引き出すのである。

農民組合の戦闘的指導を克ち取るには、その内部に左翼が形成されねばならぬ。その左翼とは、實



に農村に於けるプロレタリア並びに半プロレタリア分子(貧農)を土臺にすべきだ。既に數年前、日本農民組合所屬のある地方で、自作兼小作の方が小作よりも非闘争的で、同じ小作でも比較的廣い耕地を借りてゐるものは、極貧の小作よりも非闘争的になる危険が看取された。左翼は自分の階級的基礎を持たねばならぬ。農業労働者の組織も、當面の急務である。日本農民組合は早くから「小作農、小作兼自作農並びに農業労働者」の組織を標榜して來たが、第三の者の組織はあまり進んで居ない。農村の日傭人の利益のために闘ふことは、農民組合の仕事である。特に養蠶地方等において然り。左翼は、最も勇敢に農民組合の闘争に参加しなければならぬ。農民運動の停頓について、左翼のやり過ぎがあつた、その熱情には同情するがその急激な方針のため組合の運動に支障を來たした、といふ批評は當らない。左翼の幼稚と不充分さが、批評にかけられやうとも、その戰闘的な方針は守らねばならぬ。左翼は戦線統一、組合指導の獲得のために闘ふばかりでなく、常に都市労働者との協同に努力し、また理論的な宣明並びに行動にも従事しなければならぬ。「生産者たる農民に合理的な生活を保證するが如き小作条件」はあり得ないことを説明しなければならぬ。唯一の解決の道を示さねばならぬ。農民組合は、一方にプロレタリア、半プロレタリア要素に土臺を置いて、その階級的基礎を強める(將來農業労働者を獨立組合に組織するやうにすること)と同時に、他方、小作料以外のあらゆる經濟的、政治的利害に關して、廣大な農民大衆の闘争を進める農民の大集團體とならねばならぬ。それは、

小作人組合から、小自作農をも包含するやうな農民協議會に進むべきだ。租税、獨占價格、高利貸等の問題はもとより、あらゆる問題に觸れるべきである。肥料や農具の値下げのために闘はねばならぬ。代金支拂を取入れ後に引延ばすために闘はねばならぬ。耕地整理組合や水利組合の問題にくちばしを入れねばならぬ。農民のために、山の入會權を主張せねばならぬ。地主所有の山林や原で無料で薪をひろい、落葉をかる權利を主張せねばならぬ。草刈の權利も同様に、境もめ等の場合に、小さい農民の利益のために働かねばならぬ。小學校の改築や、その他何かの公課負擔をすべて地主に負はせるやうに闘はねばならぬ。一言にして言へば、地主に對して、農民の利益をあらゆる場面に擁護するやう努力しなければならぬ。

これと關聯して、重要なのは協同組合(特に消費組合)の運動である。けれども、この運動は、農民運動者側の農民の運動を「平和」にしようとする意圖に利用されるべきではなくて、その意義は、主として、協同一致と闘争によつて農民が自分自らの利益を擁護すること、闘争の軍資金を得ること、共同の闘争精神に鍛へられることにあるべきである。

軍國主義の負擔に對する闘争並びに官僚政治に對する闘争は、農村で極めて重要なものに拘らず、從來閑却されて居た。農民組合が出來ても在郷軍人會や青年團はそのまゝであつたり、或は一も二もなく解散してしまつたり(青年團)するのが多い。闘争はこの方面にも延びなければならぬ。此等の



組織の、軍國主義的、官僚的支配に對して闘ひ、これを獲得しなければならぬ。反軍國主義、出兵反對、×帝國主義戰爭の闘争は農村にこそ力強い支持と共鳴とを得なければならぬ。

最後に、これらと結びついて、農村の青年と婦人との間の活動・組合青年部及び婦人部の役割が極めて重要であることに一言しておかう。

「土地を農民×」深刻なる農業危機の解放のためには、この方向に農民の大衆運動が發展し、プロレタリアートとの固い同盟が結成されねばならぬ。

——署名「永田幸之助」、『マルクス主義』一九二九・二月 第五四號——

## レーニン主義的労働者教育へ



支配階級の警察的テロルが一日と兇暴となり、之に對する労働者農民の闘争は激化し、〇〇×××はその政策とスローガンとを公表して敢然と戦ひ、その宣傳、煽動及び組織事業をつゞけてゐる時に、マルクス主義レーニン主義による××的な労働者教育の必要は今さらに痛感されてゐる。戦はんとするプロレタリアートは、身をマルクス主義レーニン主義を以つて武装せねばならぬ。然るに、わが國の労働者教育は極めて貧弱である。最初には、「社會主義學說大要」や「資本主義のからくり」など、公式的な、しかも労働者に闘争の道を示さぬ通俗解説ばかりであつた。次には唯物辯證法（實は甚だしく歪曲された）と、全線の展開論が大流行になつた。しかも、その後期には、左翼労働運動内部でも、労働者教育は非常に閑却されてしまつたのだ。現在でも、その影響が残つてゐて、辯證法に關する本ばかり並べた研究會の目録があつたり、未だ福本君の本が推薦されたりしてゐる。今や一切が正しい立場に立たされねばならぬ。闘争の發展に並んで、労働者教育は極めて活潑にならねばならぬ。（『無産者新聞』推薦圖書目録も再吟味さるべきである。）

**第一に方法である** 眠たい講釋では耳に入らぬ。労働者の生活を知らぬ者では労働者に納得の行くように話が出來ぬ。名が學校であらと研究會であらうと、最も良い方法は労働者がお互に討議し



合ふことである。現に運動の戦線に起つてゐる労働者闘士なら、先生の役目ぐらゐつとまる。お互に題目を受持ち合つて、自分が讀んだ所を理解した通り報告する。皆で寄つてたかつて討議する。しかし、さういふ本もなし、またむづかしい題目もあるから、講師を使ふ必要はどうしてもする。その場合でも、なるべく討議の方法による。この次にはこんなことをやるのだから何の本の何處を、何のパンフレットを讀んで來給へといふ風にしてやると、よく分るし研究に熱が出て來、討論に花が咲く。

**第二に内容教程だ** これを根本的に立て直さねばならぬ。福本イズム時代に、基礎的な知識(殊に經濟學に關する)を閑却したのを改め、また行動の手引きになる諸戰術を全部研究しなくてはならぬ。基本的な教程は、次の如くであるべきだ。

- (一) 労働運動史
- (二) 經濟學
- (三) ロシア共産黨史
- (四) ×組織論
- (五) 帝國主義及び世界××
- (六) レーニン主義
- (七) ××インターナショナルの戰術

- (八) 唯物史觀
- (九) 日本研究
- (十) 日本×××史
- (十一) 労働組合論
- (十二) 農業問題及び農民運動
- (十三) 植民地
- (十四) 宣傳—煽動
- (十五) 軍事研究
- (十六) 支那大革命

この順序は同時に研究の順序である。この配列には意味がある。研究する労働者の階級的教育程度、オルガナイザーかアヂテーターか、何を養成しようとするかの差異、研究會の大きさ、全體の日數時間によつていくらでもかへることが出来る。これは全圖的乃至地方的規模の指導者養成を標準としたもので、工場内等で用ゐるには極度に短縮し、全體をほんの數題目にすることも出来る。以下、簡単に内容を説明する。

いきなり唯物史觀をやるなどは斷じていけない。労働運動史は、フランス革命、又は一八四〇年以



來の國際労働運動史、空想的社會主義、チャーチズム、一八四八年、第一インターナショナル、パリ、コムミュン、第二インターナショナル、獨逸社會民主黨、サンチカリズム、トレード・ユニオンズ、第一インターナショナルの崩壊、等。經濟學は、マルクスの經濟學説を研究する。地代論等を疎かにせぬこと。ロシア共產黨史は、ナロドニキの闘争から始めて労働者解放闘争同盟、社會民主労働黨の成立からポリセヴィキ、メンセヴィキの分裂、一九〇五年、反動期、歐洲大戰、二月革命、十月革命を経てプロレタリア獨裁治下に於ける戦時共產主義、ネツプ、反對派の問題及び現在の諸問題に至るポリセヴィキ三十年の闘争史であり、ロシアXX史である。レーニン主義成生の根據と、ポリセヴィキ的戦術の練磨の跡とを究めることを主眼とする。X組織論、こゝではポリセヴィキ的組織の原則、工場細胞、非合法組織、大衆團體内のフラクション、大衆動員の戦術等をやる。これまでを第一期とも云へる。

## 二

帝國主義及び世界XX——レーニンの帝國主義論、帝國主義戦争の性質、戦後の世界經濟、資本主義「安定」と合理化、サヴェート同盟の經濟、社會主義建設、戦争の危機と國際プロレタリアートの任務、等。レーニン主義では、レーニン主義成生の歴史的條件、ブルジョア・デモクラシーとプロレタ

リア獨裁、農民問題、民族問題、戰略と戦術、黨、等に力を入れる。XXインターナショナルの戦術は、同時に歐洲大戰以來の労働運動史であり、XX史である。大戰中のボルセヴィキの闘争、ロシア革命から支那革命に至る、一切のXX的動亂の歴史を見、XXインターナショナルの成長とその指導、またさまざまな戦術的問題、協同戦線、議會闘争、ファシズム、左翼社會民主主義との闘争、大衆獲得、反帝國主義戦争等を究める。こゝで研究者は「XXインターナショナル綱領」を読む機会を與へられねばならぬ。以上の理論及び戦術を知つたその後で、唯物史觀に移る。たゞし哲學的思辯に耽ることとは許されぬ。唯物辯證法の根底を學び、唯物史觀の概要を知れば、次いで階級と國家、國家の本質、諸社會形態の變遷、社會主義社會の必然性、國家の死滅、等についてやゝ詳しくやる。以上第二期。

日本研究とは、明治維新前の階級闘争史、明治の革命、自由民權の闘争、XX制の役割、明治の政治闘争、資本主義の發達、日本帝國主義の現地位、經濟、階級關係、憲法、國家の構成、諸政黨、プロレタリアの黨、その戰略等を究める。日本XX史は、同時に日本労働運動史である。就中、Xの成生、闘争の跡をよく究め、現在の諸任務を明かにする。労働組合論、労働組合の職分（資本主義治下、プロレタリア獨裁治下）、その組織、工場委員會、ストライキ戦術、統一運動、改良的労働官僚と

レーニン主義的労働者教育へ



の闘争、革命派のフラクション、失業者運動、工代会議の戦術、等。(十二)の題目は、わが國のそれを研究するのであるが、同時にサヴェート治下の農民について少し調べる。(十三)、こゝでは専ら日本の植民地、朝鮮臺灣の状態を知り、民族運動史を學び、わがプロレタリアートの任務を明かにする(滿洲研究を含む)。以上の事を知り、理解してから、これを生かす法、宣傳——煽動の技術を學ぶ。ピラの書き方、文書の配布、運動の組織、××出版、労働者教育等。軍事研究——從來この題目は、遙か將來のことのやうに思はれて、少しも行はれてゐないのは全く誤つてゐる。軍事上の必要知識、軍隊の編成、各科の分業、攻防の戦術、××の本質、××戦の戦術、大衆獲得と××蜂起、一九〇五年以前の経験、一九一七年、エストニア、獨逸ハンブルグ、廣東、上海に於ける近年の××蜂起の教訓、労働者防衛隊の組織等、並に×器使用の實習。こゝでは兵隊出がその腕を見せなければならぬ。最後に、支那革命を一題目として詳細に研究する。

程度の低い研究会では、縮めて、(一)労働運動史、(二)經濟學、(三)レーニン主義、(四)×××、(五)唯物史觀、(六)労働組合、(七)軍事研究で充分である。

闘争の必要は、また地方的な又は工場のオルガナイザー及びアチテーターの養成を要求する。その短期養成の教程——

(一)×史、(二)×組織の原則、(三)工場細胞、(四)資本家系統、諸トラストの關係並に××、その

他の動員組織、(五)諸賃銀形態及び労働條件の研究、(六)労働組合及び工場委員會、(七)産業合理化とその結果、(八)ストライキ戦術、(九)協同戦線、組合統一、(十)失業者運動、(十一)非合法運動、××出版、(十二)工場新聞、(十三)大衆團體内のフラクション、(十四)労働者大會及び工場代表者會議、(十五)運動の組織、大衆的動員及び示威運動、(十六)防衛隊、(十七)工場内の×軍國主義活動、(十八)婦人の組織、(十九)オルガナイザー又はアチテーターの任務。

これに各々自分の地方状態の研究が伴はねばならぬことは云ふまでもない。これは主としてオルガナイザーのためであるが、アチテーターのためには組織に關する方を大體にし、研究会、讀書會の指導、演説會の組織、ピクニック、スポーツの利用等をもつとやる。組合のオルガナイザー養成には(四)——(十)に特に力を注ぐべきである。

### 第一に材料だ

前述の基礎的教程の教材たるべきものが、現在あまりに貧弱である。高級な文献は山とあるが、かような必須の教育資料は殆んどないと言つてよい。(三)、(四)、(九)、(十)、(十六)の題目など何處をさがせばあるか、この點、プロレタリア×の非常な努力が要求される次第である。やさしいパンフレットが何よりも必要である。

けれども、現實の必要は、缺陷を急速に埋めて行くであらう。労働者諸君！ 必勝を期せんとするものは、マルクス主義レーニン主義の武器を以つて武装せよ！ 教育を盛んにせよ！ 研究会を起せ！

レーニン主義的労働者教育へ



(詳しい教程案——地方的又は工場の指導者養成用並に工場の一般的研究会と分れた——とその教材とは、近く『マルクス主義』に発表の豫定。)

——署名「永田幸之助」、『無産者新聞』一九二九・二・一、二・五 第二〇四、二〇五號——

# 社會主義建設途上の サヴェート同盟

その困難は何處に存するか



- 一 一九二八年のサヴェート同盟
- 二 經濟の復興
- 三 社會主義の建設
- 四 農業と穀物難の原因
- 五 労働者階級とヴェー・カー・ペーの指導
- 六 サヴェート同盟防衛の義務

### 一、一九二八年のサヴェート同盟

プロレタリアXXの大指導者、同志、レニンは死んでから五ケ年、社會主義の祖國サヴェート同盟は、レーニンの同盟共產黨(ヴェー・カー・ペー)の搖ぎなき指導の下に、經濟的復興の道を辿り、非常な速度を以つてその生産は戦前の水準を突破して、今や着々として社會主義を建設しつゝある。國際帝國主義の包圍攻撃と不斷の挑戦との裡に、たゞサヴェート同盟のプロレタリアートの異常なるXX的熱誠と犠牲的な努力と、萬國プロレタリアートの支持と共鳴と、鐵の規律ある、誤りなきレーニンのボリシエヴィーキXの指導とが、この偉大なる事業を達成させつゝあるのだ。けれども社會主義建設の道は決して平々坦々たるものではない。

一九二八年のサヴェート同盟は幾多の艱難に遭遇した。レーニン主義に代へるに小ブルジョア的なトロツキー主義を以つてしようとする黨内の反對派は、前年の第十五回大會により、また國際的にはコミンテルン第六回大會によつて徹底的に粉碎された。昨年三月、サヴェート工業の大動脈をなすドネツ炭鑛地方で、反革命の技師達が内外呼應して、鑛區の爆發浸水、設備の破壊、サボタージュ及びストライキの使喚等を以つてサヴェート工業の破壊を企てた「經濟的的反革命」が暴露した。彼等は直ちにプロレタリアートの裁判に廻され珠數つなぎの反革命技師共は、モスクワの労働組合會館で裁か



れた。裁判長、同志クリレンコ（司法人民委員）は熱辯を以つて、彼等の罪過を暴び首謀者はすべて銃殺された。

昨年はまた穀物難があつた。昨年は一般に農作物の出来がよくなく、穀類の輸出は一九二七—二八年度において前年の五分の一に減つた。田舎から都會へ穀物が充分に輸送されずに、一大困難に遭遇した。コーカサス（クバン地方）やウクライナなどの「穀物倉」の不作が、特に影響した。この穀物難は農民の自家用生産が増大したばかりでなく、クラーク（富農）のサボタージュに因するところが多かつたのであつて、サヴェート政府の應急政策は非常に状態を改善した。

サヴェート同盟のプロレタリアートはかやうな事件から直ちに必要な教訓を引き出し、どこに過去の原因があつたかを究め、將來の方針を立てた。「經濟的革新」事件からは、赤色専門家養成の急務を學んだ。レーニンが教へたやうに、プロレタリアートが政權を握つた直後、まだ經濟管理に馴れず専門の技術を知らないうちは、小ブルジョアの専門家（技師、學者等）を中立たせて、プロレタリアートの事業に参加させるようにしなければならぬ。そして、社會主義經濟が建設されるにつれて、労働者自身のうちから専門家が養成されて、産業の技術的指導をするやうにしなければならぬ。「經濟的革新」事件は、このレーニンの教へをまさしくと裏書きしたものであつて、黨は赤色（労働者）専門家を急速に養成することを決定した。またこの事件は、プロレタリア的經濟管理の必要、黨とサヴェ

エートと労働組合とのより一層の協力、自己批判の必要を教へた。穀物難からは、プロレタリアートと貧農との同盟をより鞏固にする必要、サヴェート經營農場（サツホズ）、集合經營（コルホズ）、並びに農村のコオペラチーフ（協同組合）を盛んにする必要、さらに動搖的な資本家的要素、クラークのサボタージュと戦ふ必要等を學んだ。サヴェート同盟には未だ勿論のこと、諸階級がある。が、資本家階級はない。彼等は顛覆され、掃蕩され、また自ら他國に逃げたりして、失くなつてしまつた。けれども、全サヴェート同盟の經濟のうちに介在する資本主義的部分（個人企業、個人商業、富農の農産物、商品生産、等）からは、ネツプマンやクラークのやうな、小さい新しい資本家的要素が生れて來る。私有財産と商品生産とに利益を有するクラークの擡頭と、そのサボタージュとを徹底的にやつける必要があるのはいふまでもない。昨年七月のヴェー・カー・ペー中央委員會のプレナムは、以上の問題について緊急の諸方策を決定し、爾來着々と實行に移されてゐる。

## 二、經濟の復興

サヴェート同盟を呪つて止まぬブルジョアジーは事毎にサヴェート同盟の「危険」を誇大に宣傳するが、最近の穀物難を見て、またブルジョア新聞や經濟雑誌が「兇作の影響恐るべし」とか、「岐路に立つ共産國」、「革命は眞の成功を見るや」など、中傷をとばしてゐる。



ソヴェート同盟の成功と困難とに最大の關心を持つのは、參謀本部のスパイでもなければ紀州蜜柑の輸出組合でもない。實に吾々労働者と農民だ。以下、ソヴェート同盟の經濟状態とその困難さを簡單に見よう。

ソヴェート同盟は革命後十年の一九二七年度を以つて、復興時代から建設時代に入つたといふことが出来る。生産増加の速度は一九二五—二六年度の四三パーセントに對して一九二六—二七年度が六〇パーセントになつてきたことが之を證してゐる。今、此の建設期の初頭——經濟の五ヶ年計畫やその他の出發點において、ソヴェート同盟プロレタリアートの血に滲んだ苦闘と英雄的努力との跡が如何に驚嘆すべき、飛躍的な生産力の増大となつてゐるか。次表を見よ。

第一は急速な工業發達の比率を示す。(ソヴェート同盟の經濟年度は毎十月から翌年十月まで)

年次	比率	工業總生産額	機械工業	探原出油量	治工業	金業
一九一三年	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
二一—二二	112.2%	211.0	26.6	50.3	170	170
二二—二三	122.3%	300.0	26.6	57.1	170	170
二三—二四	131.2%	390.0	31.5	65.7	260	260

二四—二五	141.2%	650.0	56.0	76.5	520	520
二五—二六	151.1%	900.0	101.3	90.1	860	860
二六—二七	161.0%	1080.0	134.5	102.2	900	900

次は、全般的な經濟復興の状勢を示す。(單位千)

種別	單位	一九一三年	一九二七年
面積	新	21,778	20,930
人口	ループル	182,000	149,900
同(現在領域)	ループル	135,000	127,750
農業生産額	ループル	12,790,000	6,608,000
工業生産額	ループル	6,391,000	284,806
作付面積	ループル	291,891	76,750
穀類	ループル	96,656	30,930
石炭	ループル	29,055	10,129
鐵油	ループル	9,194	9,208
鐵類	ループル	11,962	1,548
石油	ループル	1,611	

社會主義建設途上のソヴェート同盟



同 (小 賣 値)	同 (工 産 物)	同 (農 産 物)	物 價 指 数 (卸)	貨 幣 流 通 高	輸 入 額	輸 出 額	大 工 場 勞 働 者	毛 織 物	綿 布
						ルーブル		米 ト ン	
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一、八八六、〇〇〇	一、三〇七、〇〇〇	一、一四〇、〇〇〇	二、五五二	九七、二六〇	二、二三八、〇〇〇
一九八・〇	一九六・七	一五六・六	一七五・五	一、六二八、三〇八	七七〇、五四三	七一二、六九一	二、五六四	八五、三七九	二、三四三、六〇〇

なほ注目すべきは、戦前に於ける重要工業地方を失つて、なほこの経済的復興を示してゐるといふことである。例へば戦前紡績業の中心地はロヅヤワルシヤウ等のポーランド都市であつて、ポーランドの資本家はロシアを重要な市場としてゐた。このポーランドなくして、右の表のやうな綿布生産額は戦前の水準を突破してゐるのである。全部の産業部門と農業とに亘つて、かの數年の経済封鎖と帝國主義者の武力干渉と内亂とのため、全経済生活を破壊された後、またゝく間にこれだけの復興と建設をなし遂げたのである。

### 三、社會主義の建設

國の主要な生産、配給及び交換機關はすべてサヴェイト國有であり、國營工業が全工業中に占める比重は益々重くなつてゐる。國營工業とコオペラチーフ經營工業とを合すれば、全工業總數の殆んどすべてを占めてゐるといつてよい位で、個人經營は概して小工場である。商業の方には、個人經營が相當あるが、國營とコオペラチーフ經營とに壓されて段々潰れてしまふ。かくして、國民經濟に於ける社會主義的部分は益々擴大され、社會主義は建設されて行く。

一九二七―二八年度では、工業はさらに目ざましい發達を遂げ、大工業はその産額を戦前より四割、發電力は十四割餘を増した。社會主義的な産業合理化は進行して、前年より一割五分の増加、生産費は五分の輕減を見た。最高國民經濟會議は、一九二九年、さらに二億ルーブルの資本を投じて大工業の發達を策する計畫を立てた。昨年十一月發表された同盟歳出豫算が昨年約十億ルーブルを増して七十七億ルーブルとなつてゐるのは、實に農村に於けるサヴェイト經營農場(サヴホズ)の増加と大工業發展とのためである。

最高國民經濟會議、國家計畫部等の専門機關の研究と討議とを経て、黨で決定された本年度から着手さるべき「經濟五ヶ年計畫」は、別表のやうな急速な生産力の増大を豫想するものである。(單位百



萬ルーブル。

1311

種別	五年後	二六年度現在	一年増加率
燃料	一、四二五、三	七二二、四	一〇〇
鑛物	一三六、五	六三、三	一一・六
金屬	三、〇八七、五	一、三四二、八	一一・〇
電機	三〇三、九	九六、〇	二一・五
建築	一、一八七、七	五八二、八	一一・〇
化學	九七二、一	三九七、〇	一四・四
綿織	四三五、四	一九三、四	一三・五
織物	四、五四七、六	二、四六八、二	八・四
皮革	七〇〇、〇	三六九、七	九・〇
製紙	二三四、九	九六、七	一四・二
印刷	八九〇	五三、七	六・五
食料	一、六九八、三	七四七、三	一二・七
陶器	六五、〇	三七、〇	七・六

有史以來、プロレタリア獨裁の下以外に、かくも短期間に、かくの如き著大なる生産力の飛躍的増大が何處で企てられたらうか。

昨年秋、交通人民委員會は、線道輸送能力を五割増の二億三千万トンにするため舊線の改造、一萬五千六百キロメートルの敷設の五ヶ年計畫を發表した。シベリア鐵道とトルキスタン鐵道をつなぐ大鐵道は着々として進行してゐる。

この中央アジア縦斷鐵道の敷設と、ヴォルガ・ドン運河建設と、ウクライナのドネプルストロイ(大發電所建設)とは、サヴェイト同盟の三大土木事業と稱せられるものであつて、何れも數年中に完成する。ヴォルガ・ドン運河とは二大河ヴォルガとドンとが最も接近してゐるスターリングラードの附近を開鑿し、發電所を設け、大工業を起すと共に、裏海と黒海とをつながうとするものであり、ドネプルストロイは、ドネプル河の下流が岩礁が多く船が通じないので、大突堤を築いて水面を高め、側面に運河を作つて船が通れるやうにし、黒海とバルチック海との航路を開くと共に、水力を應用して世界第二の大發電所を建設しやうといふのである。

海上交通網の發達と、戰爭の場合に備へるための商船隊建設事業とは、すべてサヴェイト同盟内に於ける富源と資本とを以つて企てられてゐることは、特に注意を要する。國際帝國主義の攻撃と封鎖とに備へるために、サヴェイト同盟はあらゆる工業原料を國內で供給し得るやうに努め、棉花の如きも外綿の輸入をなくするために、トルキスタンの原野に擴大的な栽培が行はれてゐる。工業生産物もすべてサヴェイト製品であり、軍需品工業はいふに及ばず、自動車やトラクターを國內で生産される。

社會主義建設途上のサヴェイト同盟

1313



實に、帝國主義の不均衡な發達と、一國に於ける社會主義建設の可能性についてのレーニンの教義は此處で美事に裏書きされてゐるのである。

#### 四、農業と穀物難の原因

吾々は既に農産額を作付面積もほと戦前の水準に達したことを見た。一九二七年の耕地面積は一億五百五十萬デシチャンで、戦前の九十九パーセントに當り、百十五億五千八百萬ルーブルの收穫高があり、四億千四百萬ルーブルを輸出してゐる。

農業の復興の比率も次の作付面積の増加に見られる。(但しサヴェート・ロシアのみ)。

年	一九一三年	一九一六年	一九二二年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
面積(十萬デシチャン)	一、〇六七	八七三	六三五	九八五	一、〇二八	一、〇五五

家畜も近年増加してゐる。馬も牛も、羊も山羊も豚も、みな増加してゐる。

農民は一九一七年の革命によつて解放され、土地を得た。土地はすべて國有であるが、小農民はこの土地を使用する権利を與へられて耕作して居り、その間に、サヴェート經營の農場や農業コムミューンが散在する。かつて土地を持たなかつた貧民とすべて土地を得た。全體の耕地が戦前以上の小經營

に分れた。これが工業に比して農業の發達がおそい一因であり、一デシチャン當りの生産力は、この理由、小經營の故に、むしろ低下してゐる。この農業を擴大的に發達させるには、サヴェート經營の増大と農村の電化以外にない。けれども、プロレタリアートはこのことを農民の壓迫といふ方向を通じて實現することは出来ぬ。農民はプロレタリアートの同盟者である。ツァーリズムの下では、プロレタリアートと農民とは同盟してその支配を掃蕩するために戦つた。革命後には農民殊に貧農と、プロレタリアートは軍事的に同盟して、反革命軍と戦ひ、労働者農民の國家を守つた。現在では、協力して經濟的建設に努力してゐる。農民はその農産物——食料と原料とを、プロレタリアートは農民に工業生産物——織物や農具、トラクター等を渡す。農民は小經營に立つてゐる。單純商品生産を營んでゐる。それだからといつて、プロレタリアートは、この農民經濟を壓迫することは出来ぬ。何故なら、農業生産の背景なくして社會主義的な大工業の建設はなく、農民の支持なくして労働者農民の政府はあり得ないからである。農民にもつと租税をかけて大工業を發達させよといふトロツキー反對派の主張は、労働者と農民との同盟の基礎をぶち壊し、農民の消費能力の減退を醸して工業の發達をも瓦解させる全く清算派的な意見である。レーニン黨が、かゝる主張を一蹴したのはいふまでもない。そののみか、プロレタリアートと農民との同盟を固めるために、革命十週年祭に貧農の租税をさらに一割減じた布告を出した。



戦前の土地所有關係に比較して今日の耕地配分の關係は遙かに平均してゐる。租税は輕くなつた。農民は暮しよくなり、生活は向上した。これが最近の穀物買附難の原因である。

サヴェート同盟では、農工業の間に調和を失つた時、深刻な恐慌状態に陥る。一九二三年にさうであつた。工業生産物の價格が農産物よりも遙かに高かつた（「缺」）現在ではその差が少くなつたが、前掲（二）の項目で引用した統計中の物價指數に見ることが出来るやうな相當の差がある。この差を少くするためには、工業をうんと發達させねばならぬ。サヴェート同盟では勤勞大衆の生活が向上し、購買力が驚くほど盛んなので、なんでも羽が生へたやうに賣れてゆく。供給が需要に追いつかない（資本主義國とは正反對）。かの五ヶ年計畫を俟つて初めて、農工兩生産物の釣合がとれる。

ところが、最近年になほ急速度に供給の不足を告げたのが、食料である。農民の生活向上のため、農民は上等穀物を自家用とし、下等品を市場に出すやうになつた。農民が一般により多くを消費するやうになつた。それに不作と、この形勢を見たクラークの投機——サポタージュとが加つて、かの穀物買附難を招來した。サヴェート政府は先づ穀物の輸出を止めて、その海外に出るのを防いだ（輸出の減少は、不作よりも寧ろこの緊急政策に基因する。ツアー治下では、農民は飢えてゐながら、巨大な穀物の量が輸出されてゐた）。ついで穀物をかくしてゐるクラークからどしどし取り上げた。

穀物難を除去するためには、根本的に農業生産の發達を要する。サヴェート政府は、貴族、寺院、

大地主から沒收した土地を以つて社會主義的なサヴェート經營農場を擴大、發達させることに全力を注いでゐる。コオペラチーフ經營やその他の共同經營の發達に力を盡してゐる。中農と結び、貧農と固く同盟してゐる。

クラークの擡頭を防ぐためには、一九二八年春、彼等に増税し、また彼等が資本の力を延ばしてサヴェート立法を冒して中農や貧農の土地を買はふとするのを嚴重に禁止した。分散した農民の生活を社會的にし、之に共同の精神を養成し、また農民の小經營と社會主義的なサヴェート經營との提携を達成するには、コオペラチーフが大きな役割を演ずる。農民のコオペラチーフは、プロレタリアートからトラクターやその他の農具を受持つて、自分自身の生産方法を段々に社會的にし、社會主義的生産の方向に進んで行くのである。

### 五、労働者階級とヴェー・カー・ペーの指導

労働者階級はプロレタリアート獨裁の負擔者である。そのすべては労働組合に組織され、レーニンの黨の指導の下に、階級意識に目ざめ、社會主義建設の事業を理解し、全努力を盡してゐる。この労働者こそサヴェート同盟防衛の前線に立つものであり、老労働者も女工も世界各國の××運動の發達に最大關心を持つてゐる。社會主義的な産業合理化に積極的に協力し、經營の冗費を省き、「節約」



をおこなつて、少しでも多く建設資金に投じることが努める。この全労働者のおかげで、生産力は飛躍的に増大し、七時間労働制を布きうるに至つた。勿論、その実施には多くの困難を伴ふ。この困難を自分の困難として克服に努めるのが、サヴェート同盟の労働者である。黨の指導者は労働者である。サヴェート委員も労働者である。工場のディレクターも、生産委員會の委員も労働者である。彼等は相協力して過誤を少くし、たゞし、経験を豊富にして、偉大なる事業を遂行してゆくのである。この労働者大衆の批判と要求こそは、進全なる階級的な叫びであつて、ポリシエヴィキ黨のスローガンに指示され、表現されて、サヴェート同盟一億の勤勞大衆の政治生活を指導する。例へば、最近のサヴェート選挙における中心スローガンの一つは、クラークに對する闘争の必要と、動搖的な妥協派の克服とであつた。

百二十萬の黨員を有する同盟共産黨（ヴェー・カー・ペー）の指導はゆるがない。レーニンの教義に従つて、その残した偉大な事業を遂行してゆく。最近の穀物難に面して富農の租税を軽減したら、國營工業政策をゆるめたらなど、主張する極少數の右翼的な見解が現れて來た。黨が耳をかさなかつたのは、いふまでもない。昨秋、黨のモスクワ委員會の若干の同志がしりぞけられたのは、實のこの理由からである。黨はプロレタリアートの基礎の上に立ち、貧農を擁護し、中農の利益をはかり、プロレタリアートと農民との同盟を益々固くする階級的政策をとつてゐるのである。

全サヴェート共産青年同盟は、約二百萬の同盟員をもつて、廣大な青年の間に教育事業をおこなひ、ピオネール（青少年の先驅隊）も百八十萬の會員をもち、オクチャ・ブリヤット（十月兒）の幼兒數も二十八萬に及んでゐる。レーニン主義の思想は、かくして數百萬、數千萬の新しい世代にも大きな力となつて結成されてゐるのである。

## 六、サヴェート同盟防衛の義務

社會主義建設の途は、決して平坦でない。幾多の經濟的困難にぶつかり、國際帝國主義の妨害と挑戦とに當面する。サヴェート同盟の労働者と農民とは、身をもつて社會主義の祖國を守り、その建設に苦闘してゐる。昨年中、産業發達のため八億ルーブルの内債が二回發行されたが、階級意識あるサヴェート同盟の労働者大衆はこの巨額を買つて、社會主義建設に資した。その軍備は國際帝國主義を向ふに廻して決して充分でない。一九二七年、英國とサヴェート同盟との國交斷絶するや、プロレタリアートは起つて「チエンパレンに對する我等の報復」をもつてした。即ち、全國から集つた「報復」資金は三百の新しい飛行機となつた。數百萬のサヴェート同盟の労働者は防衛協會の會員として、他日のために自己を訓練してゐる。

わがプロレタリアートは、かのプロレタリアートに應じなければならぬ。吾々は、サヴェート同盟



を守らねばならぬ。吾々はXXを執ることを學ばねばならぬ。

—無署名『無産者新聞』一九二九・二・五—二・二〇 第二〇五—二〇八號—

## 出版物とその書き方

宣傳者、執筆者及び翻譯者へ



現在最も重要なことは「何を爲すべきか」よりも寧ろ「如何にしてやるか」の問題である。如何にして吾々に課せられた諸任務を遂行するか、如何にして大衆を獲得するかの問題である。吾々の一切の努力はこの如何にしてやるかの方法、技術に習熟してこそ實を結ぶ。以下、僕は新聞雑誌による宣傳について若干氣づいた點を書いて見よう。

大衆へ！ と叫ぶ。そのことは何を意味するか。それは先づ第一に労働者の大群を目ざして吾々の方に獲得するためだ。プロレタリアの新聞雑誌は常にこのことを眼中に入れておかねばならぬ。革命的なマルクス主義レーニン主義の立場から、批判し、暴露し、説明し、示教し、煽動する一切の出版物は、その記事が正確であり適切であると同時に、労働者にとつて解り易いものでなければならぬ。この解り易いといふことは吾々の出版物の特徴であるべきだ。僕が宣傳者、直接工場に於ける宣傳でなくとも労働者のために宣傳的文書を書いてゐる同志諸君に注意を促したいのは、文字を読むといふことは、なか／＼むづかしい仕事だといふことだ。疲れて工場から歸る。「無新」を擴げて見る。先づ見出しを拾ふだけでも大變であつて、面白さうな記事を三つ四つ読むとがつかりする。少々知識的な労働者でも雑誌を一冊讀了するのはなか／＼だ。しかも労働者に讀まれ、把握されなくては、どんな名論文も名著も死んだと同様である。誰かど、そんな文字も録々讀めぬ者を相手にはして居られぬとか、一々初歩の人を念頭において書くのは厄介だとかいふのであつたら、僕は答へる、さういふことをい



ふ奴の根性がまがつてゐるのだ、小ブルジョア的なのだ。勿論、内容とその程度といふことはある。それでもあらゆる場合にやさしく平明に書く努力をせねばならぬ。

宣傳は、ブレハノフの表現に従へば、少数の人に多くのものを與へることである。それには多くの困難が伴ふ。僕は一例として雑誌『インタナショナル』を例に取らう。それは、随分固苦しかった雑誌であつたのが、最近大いに平易に書くことに努めて居り、且つこの雑誌が純粹に宣傳的性質のもので、且つ困難な（特に日本の労働者の國際的意識は未だ低いといふ意味において）意義ある仕事を遂行してゐるからである。同誌一月號「一九二九年」の『レーニン、リーブクネヒト、ルクセブルグと戦争』といふ論文の中に「不幸にして、リーブクネヒトとルクセブルグとは、……社會民主主義者に對する戦術をやまつたが故に、Xの犠牲になつた」といふ文句がある。筆者は確かにより多くのものを與へようとしてゐる。全體の文章を見ても分るように平明に努めてゐるけれども、これだけではどう社會民主主義者に對する戦術を誤つたかどうかわからない。まさに誤解の恐れがある。兩革命家はシャイデマン、ノスケの裏切者共と妥協しようといふやうな誤ちは犯さなかつた。正反對だ。二人は同志と共に、かの裏切者に對して戦ひ、敗れて裏切者の兇手に斃れたのだ。筆者はこの重大な事實に言及することを落してゐる。然らば社會民主主義者に對する戦術の誤りとは何か。日和見主義者か

ら逸早く組織上に分裂しなかつたことだ。一月一揆の敗北、獨立社會黨に對する過誤等の一切は、一握りのスパルタクス團しか持たず、大衆的なX黨が無つたといふことに歸着する。當時國民議會に對する戦術等においてルクセブルグとリーブクネヒトとは明白に正しい態度を取つてゐたが、悲しいかな少数派であつた。鐵の規律を持たぬ、未だ砲火の試練を受けて居らぬ、併し革命心に燃える英雄的なスパルタクスの平團員をどうすることも出来なかつた。一月の敗北は不可避であつた。二人はこれを豫見してゐた。けれども兩革命家は戦ひを避けようとはせず、その渦中に飛び込み、これを正しく指導しようとして不幸斃れたのだ。このことは悲劇前二週間、両者が『赤旗』に寄せた指導論文に明かである。死の間際にあつて、兩革命家は過去の過誤を捨てたポリシエヴィキー英雄であつた。この歴史的悲劇に導いた過誤は遠く十數年前に遡る。一九〇三年、ポリシエヴィキーとメンシエヴィキーとの見解の相異に遡る。辯證法的唯物論の理解の問題にまで遡る。ポリシエヴィキーとスパルタクス團との間には帝國主義戦争に對する闘争の方法、スローガンについても差異があつた。農民問題、民族問題等についてもルクセブルグは誤つた。彼女のやうな優秀なマルク主義者がなぜ誤つたか、レーニン主義とルクセブルグ主義との差異な何處に存するかを解明することなども、『インタナショナル』の一任務たるべきものであらう（勿論『マルクス主義』も亦）。

中途半端により多くを與へようとすることは断じて排さねばならぬ。それでは、この論文のやうな



ふ奴の根性がまがつてゐるのだ、小ブルジョア的なのだ。勿論、内容とその程度といふことはある。それでもあらゆる場合にやさしく平明に書く努力をせねばならぬ。

宣傳は、ブレハノフの表現に従へば、少数の人に多くのものを與へることである。それには多くの困難が伴ふ。僕は一例として雑誌『インタナショナル』を例に取らう。それは、随分固苦しかつた雑誌であつたのが、最近大いに平易に書くことに努めて居り、且つこの雑誌が純粹に宣傳的性質のもので、且つ困難な（特に日本の労働者の國際的意識は未だ低いといふ意味において）意義ある仕事を遂行してゐるからである。同誌一月號「一九二九年」の『レーニン、リーブクネヒト、ルクセブルグと戦争』といふ論文の中に「不幸にして、リーブクネヒトとルクセブルグとは、……社會民主主義者に對する戦術をやまつたが故に、XXの犠牲になつた」といふ文句がある。筆者は確かにより多くのものを與へようとしてゐる。全體の文章を見ても分るやうに平明に努めてゐるけれども、これだけではどう社會民主主義者に對する戦術を誤つたかどわからない。まさに誤解の恐れがある。兩革命家はシャイデマン、ノスケの裏切者共と妥協しようといふやうな誤ちは犯さなかつた。正反對だ。二人は同志と共に、かの裏切者に對して戦ひ、敗れて裏切者の兇手に斃れたのだ。筆者はこの重大な事實に言及することを落してゐる。然らば社會民主主義者に對する戦術の誤りとは何か。日和見主義者か

ら逸早く組織上に分裂しなかつたことだ。一月一揆の敗北、獨立社會黨に對する過誤等の一切は、一握りのスバルタカス團しか持たず、大衆的なXX黨が無つたといふことに歸着する。當時國民議會に對する戦術等においてルクセブルグとリーブクネヒトとは明白に正しい態度を取つてゐたが、悲しいかな少數派であつた。鐵の規律を持たぬ、未だ砲火の試練を受けて居らぬ、併し革命心に燃える英雄的なスバルタカスの平團員をどうすることも出来なかつた。一月の敗北は不可避であつた。二人はこれを豫見してゐた。けれども兩革命家は戦ひを避けようとはせず、その渦中に飛び込み、これを正しく指導しようとして不幸斃れたのだ。このことは悲劇前二週間、兩者が『赤旗』に寄せた指導論文に明かである。死の間際にあつて、兩革命家は過去の過誤を捨てたポリシエヴィキー英雄であつた。この歴史的悲劇に導いた過誤は遠く十數年前に遡る。一九〇三年、ポリシエヴィキーとメンシエヴィキーとの見解の相異に遡る。辯證法的唯物論の理解の問題にまで遡る。ポリシエヴィキーとスバルタカス團との間には帝國主義戦争に對する闘争の方法、スローガンについても差異があつた。農民問題、民族問題等についてもルクセブルグは誤つた。彼女のやうな優秀なマルク主義者がなぜ誤つたか、レーニン主義とルクセブルグ主義との差異な何處に存するかを解明することなども、『インタナショナル』の一任務たるべきものであらう（勿論『マルクス主義』も亦）。

中途半端により多くを與へようとすることは斷じて排さねばならぬ。それでは、この論文のやうな



範圍ではどう書かるべきだらう？ まさに筆者の言つてゐる「貴い経験」を摘出すればよい。引用の場所はかう書かるべきだ、「……強固な大衆的××黨がなかつたためまた社会民主主義者の裏切りのため反乱は敗れて、裏切り社会民主主義者の兇手に斃れ、××の犠牲となつた。」と。

宣傳には、現代の結びれ合ひ組み合つた複雑な機構を、一の事件と他の事件との關聯を、一の現象と全體系との關係を、あらゆる分野と領域とに延びてゐる吾々の敵の複雑な相貌を、明白に勞働者に分らせることに努めねばならぬ。一つの問題を切り離して述べずに、それに關聯するあらゆる事件、問題と結びつけて説くことは、宣傳上効果あらしめるばかりでなく、宣傳者の觀察を深め、鋭くし、且つ片手落を避けて、正しく物を見ることを教へる。同じく『インタナショナル』の冒頭には『戦争の危機と社会民主主義者』てふ一文があり、サヴェエト同盟防衛の必要が述べられてゐる。この結論に導くためには文章の初めにそれに關聯することが伏せられねばならぬ。ところが戦争切迫を告げる事實を列擧した中に、サヴェエト同盟への列強及びその手先たる小邦の挑戦と戦争準備といふ重大な事實が述べられてない。さらに、その次にかう書いてある「……これら現象を通じて、我々は現在の時期が、丁度先の世界大戦が勃發せんとした當時の有様と、完全に一致したることを知る、」〔傍點は著者〕と。この記述は事實に一致してゐない。現在の時期は一九一四年とは根本的に相異してゐる。プロレタリア世界××の要塞たるサヴェエト同盟の存在と、支那革命その他の植民地解放戦争

との存在の事實がこれを區別する。この二つは一九一四年には未だ可能性に止つてゐたものである。なぜこの事實を強調せねばならぬか？ それは戦争に對するプロレタリアートの態度を説明するためである。吾々は戦争一般に反對するのではない。吾々は反革命戦に反對する。吾々は××主義××に反對して身命を賭して戦ふ。けれどもプロレタリア××を防衛し、發展させるための戦争及び××地解放戦争には、支援し、協力し、参加する。さらに相異の第二として、今日の資本主義危機は遙かに深大、尖鋭である。それは、戦後の革命的動亂に襲はれたところの、また擡頭し來るプロレタリア國際軍に當面し、サヴェエト同盟の強大化と反亂する植民地解放戦の猖獗に悩んでゐる、解體しつつある資本主義である。

現在の時機は、戦争切迫といふ點において、僅かに一九一四年と似通つてゐるだけである。けれども、戦争の危機は、廣さにおいても深さにおいても遙かに深大、且つ尖鋭な、より切迫したものである。一九二四年には帝國主義列強の間の戦争だけであつた。現在ではさうではない。大戦争の危機は、三つの方向——可能性を辿つて居り、且つ吾々にとつて不幸にも一切の國際的事件の連鎖はサヴェエト同盟に對する列強帝國主義の戦争といふ方向に進んでゐる。吾々は常にこの事實を強調しなければならぬ。

文章の平易を期する上から外國語に適當な譯語を與へることは極めて必要である。僕は多くの人々



に代つて訴へる、片假名があんまり並ぶのは労働者にとつて全く敵はぬのだと。これも一例に同誌の附録「X X X X インターナショナル綱領」を取らう(この意義ある歴史的文献の反譯刊行に深謝する)。一寸見たゞけでも、大衆の言葉になつてしまつて居らぬ言葉が澤山出る、——イデオロギー、フラクシオン、ヘゲモニー、イデオログ、メンバー、ヂエスチユア、エビゴーン、ミツシオン、ブチズム、イニシヤイテイズ、等々。これらの言葉には立派に日本語の譯語がつけられるではないか。適當な譯語がなく、無理に譯しては誤解の恐れがあり、且つ運動上に必要な場合にはどしどし外來語を流し行させるがよい。けれども、上述の數語などは譯することが出来るのだ。譯語の傍に原語の振假名をつけてもよく、別に括弧に入れてもよい。また大ブリテンなど書かず、英國と書けばよい。親切な譯註も必要である。例へば第五章の1に種々なる所謂「任意團體」といふ言葉があるが、多くの讀者には何のことだか、はつきりしない。これは國際革命家救援會や防衛、軍事實習のための團體、オソアヴィアヒム等の大衆團體を指すのだ。シオニズムや反ユダヤ主義にも註がある。反ユダヤ主義もたゞユダヤ人壓迫ではわからぬ。その偏見と不合理さは宛もわが國に於ける特殊部落民に對する差別待遇に似通つてゐると附け足せばもつとよく呑み込める。

最後に單行本について。私は他の機會に、わが國では七難しい高級文献は多いが、初歩の文書、國

争への手引となり、運動者の糧となるものが極めて貧弱であると痛論した。これは何度いつてもいひ足りぬ程だ。プロレタリア出版物の中にも、全集、著作集、講座類が横行するのは、初めインテリゲンチヤに指導され、多くの知識分子の参加を見たわが國労働運動の通弊である。従つて出版物は三千部か四千部の同一圏内を廻り、インテリ化した労働者は出ても、運動が工場に根づかぬのだ。高級文献の夥多はまた合法主義の歸結である。例へば農業問題についての文書も少い。最近吾々は國際農業問題研究所の「國際農業問題」が出ることを豫告されてゐる。かういふものゝ翻譯も結構だ。けれども、もつと必要なものがある。農業問題についてのコミンテルンの文書が残らず譯されたらどんなに有益だらう。就中、第二回大會のテーゼスや第五回ポリシエヴィキ化プレナムのテーゼスは必須不可缺のものだ。翻譯するよりも自國の農業問題を研究して運動に資することの方がもつと重要ではなからうか。ロシアのイレテリゲンチヤ出のマルクス主義者はそれをやつたのだ。わが國で、なぜ土地國有の綱領を持つと同時に、なぜ大土地所有のX X Xのスローガンを煽動する必要があるかを解明すべきではなからうか。

翻譯をあちらこちらの全集へ賣り込むことは、無節操な文士と左翼社會民主主義者に任せておき給へ。吾々側の出版社は資力においても貧弱だ。マルクスやレーニンの翻譯も、最も重要な著作を一つ一つ安く提供すべきである。親切な譯註はあくまで必要である。



プロレタリア文學も亦、労働者と農民とは自當にしてゐることを忘れては、何等の意義をなさぬ。わがプロレタリア文學が未だ幼稚であることはお互に認めなければならぬ。そして銘記さるべきことは、プロレタリア文學は革命的精神に貫かれた所謂煽動的なものであればそれでよいといふわけのものでなく、新しいより高い文化も創造せんとするプロレタリアの文學は、その形式、描寫、技巧においてもブルジョア文學を凌ぐものでなければならぬといふことである。つまり議論を聞くことより、無名の士の手になるプロレタリア文學の神品を數十萬數百萬の民衆に愛讀さるべき傑作を得ることの方が、遙かに吾々にとつて喜ばしいことなのである。

(宣傳をかねた煽動を主として新聞の書き方については別の機會に述べる。)

次に僕はプロレタ出版物の種別と内容に移らう。「マルクス主義」は復活した。次いで最近の『無新』で、僕は『政治批判が出るぞ』を読んだ。一體『政治批判』はそんなに必要な雑誌だらうか？僕は新しく復活した同誌をまだ手にして居らぬので斷言出来ぬが、かつての同誌のやうなものであるなら、僕は多大の疑問を持つものだ。豫算の解説や税整案の暴露等々なら『無新』や『労働農民新聞』と重複する。もつと必要なものがある。第一に『労働者』だ。『労働者』が出なくなつたら、左翼の労働運動者は片手をもがれたやうな氣がしてゐるのだ。『マルクス主義』が福本君の哲學から出發して、

日和見主義戰略の沼にゐてゐた時に、この雑誌は本能的に労働者的な正しい方向に向つてゐたのだ。吾々はどうしても『労働者』を復活する必要がある。さらに、青年の新聞は杜絶えたまゝだ。婦人のための新聞は未だない。若し『政治批判』が政治的暴露のために必要だといふのなら、それよりもつと必要なものがある。それは畫報だ。わが『無産者グラフ』はまだ貧弱だ。皆の協力で育て上げねばならぬ。かの獨逸の『労働者畫報』が數十萬の發行部數をもつて、絶大な煽動的任務を果してゐるのを見給へ。ブルジョアの横暴貪慾さが労働者生活の不安が、合理化の悲惨な結果が、植民地人民の苦悶が、サヴェート同盟の成長が、戦争の切迫が、さらに大衆運動の威力が、たゞ見たゞけで分るのだ。讀むべきものは寧ろ多すぎる。字を讀むのがうるさい労働者にも、女工さんにも、幼年工にも、おかみさんにも、見たゞけでわかる労働者畫報こそ今切實に要求されてゐるのである。

——署名「永田幸之助」、『無産者新聞』一九二九・二・一〇 第二〇六號——



左翼社會民主々義者の

デマゴークを駁す



日本に於ける左翼社会民主主義者の機關紙『勞農新聞』は、最近に至つて、階級的立場に立つ一切のプロレタリア出版物に宣戰を布告して曰く、――

「しかるに〇〇×××を最も熱心に支持するかの如く吹聴する『無産者新聞』『勞働農民新聞』『マルクス主義』等は、この危機的な情勢に際し、最も愚劣なる戰術と指導方針を出し、デマとカラ騒ぎとに浮身をやつし、ますます前衛を孤立せしめんとしてゐる」と。

\*『勞農新聞』一九二九・一・一 第五號——著者。

然らば「勞農新聞」と雑誌『勞農』とは×××のために何をしたか？ 最も醜惡、陋劣なる反對宣傳以外の何をやつたか？『勞農新聞』はその文章の初めに「日本支配階級は×××の發展に最大の恐怖を感じ」云々と書いてゐるが、直ぐその後で「眞の階級的な言ひ廻しを持つてきて、現存の〇〇×××より外の何者か、眞實の前衛であるかのやうな口吻を洩らしてゐる。

二

彼等は『マルクス主義』十二月〓一月號から「この反動の波の底に切迫した××の潮が流れてゐる

左翼社会民主主義者のデマゴークを駁す



る」といふ一句を引用して曰く——「切迫したXXの潮」などは極左分子の夢の中にあるかも知れぬ」と。これで一蹴した積りである。

では反問しよう。荒れ狂ふ政府の警察的テロルの下に於ける深大な鬱勃たる大衆の不満の増大は何を物語るのか？ 大典前後の暴壓の下でもなほ労働者の闘争は進んで行つたことは、何を物語るのか？ 岐阜縣に於ける農民暴動は何を示唆するのか？ 捲き起る大小の小作争議は何を物語るのか？ 帝國主義戦争の切迫とは何を意味するのか？ 緊張した極東の全形勢は、XX的時機を招來せしめる大きな可能性を孕んではないのか？

彼等はひたすら現在の時期を反動期として表現し、それ以外の一切の潮流を見やうともせず、大衆に節制と、統一のための統一とを吹き込むのである。これは、彼等の日和見主義的な目的に適ふからである。彼等も帝國主義戦争の危機を口にする。けれども彼等は戦争をXXと結びつけて考へ、準備し、行動することが出来ない。帝國主義戦争の切迫とは、彼等にとつて周章狼狽と茫然自失と怯懦な沈黙と、そして破廉恥極まる裏切りとの時期の到來を意味するに過ぎぬのである。事物の推移は急速である。彼等が考へて居るよりは遙かに早く危機は到來し、彼等がいま吐き散らしてゐる革命的言辭をそのまま元通りに呑み込むに至るのだ。

## 三

吾々はXXを外にして眞實のプロレタリア黨はあり得ないことを公然と宣傳してゐる。大衆的XXの建設なくして階級闘争に於ける勝利はあり得ないこと、工場に根をおいた鞏固な地下建築を持つXXのみが現支配階級に對する労働者と農民の闘争を成功的に指導し、兩者のXX的同盟の核心を形作り得ることを確信し、この主張を公然と宣布し、且つそのために行動してゐる。少くとも、一九二七年來、決然と『勞農』一派と斷絶し、かつてのセクト的清算派的存在を投げ捨て、以來、終始一貫この正しい方針の下に戦つてきたのだ。

彼等は大衆の前に吾々の主張を曲解して告げる。曰く——「日本の労働者農民は非合法的な前衛黨一つあれば澤山だ。」吾々は決してかう主張しはしない。プロレタリア前衛の組織、戦闘部隊、指導部たるXXの外に、階級的な大衆團體があくまで必要である。労働組合、農民組合、青年同盟、協同組合、救済會、自衛隊、スポーツ團體、等々が必要である。たゞ吾々は強調する。XXは前衛の組織である。之なくして勝利は絶対にあり得ない。之なくしてプロレタリアートの政治闘争はあり得ない、と。

さらに彼等は歪曲する、——「合法的大衆政黨は絶対に無用だ、」と。吾々は決してかうは表現しな



い。プロレタリアートは大衆的×××を切實に必要とする。非合法の存在に追ひ込まれてゐる×××が、合法性を獲得するための闘争は必要である。吾々は好んで地下に潜る土龍ではない。黨が合法性を獲得することは多大な闘争の自由を與へるものだ。たゞ、吾々は階級的立場を守る。資本家地主の政府を××し、労働者農民の政府を××するために戦ふ。吾々は世界のプロレタリアート××の綱領を把持する。彼等は先づ「合法的手段」から取りかゝらうとする。吾々は闘争と、そのための組織から始める。こゝに千里の差があるのだ。

彼等は大衆的×××を考へることが出来ぬ。況んや、非合法の大衆的×××の可能性などは彼等の「夢の中」にも考へることが出来ないのだ。

## 四

彼等は吾々が取捨の標準を合法か非合法かにおいてゐるように言ひくるめて、大衆に恐怖心を抱かせようとする。吾々は合法性一般を排してはゐないのだ。

それでは吾々は舊労働農民黨をどう批評したか？ 吾々は、労働者と農民との二階級の合成といふ誤つた組織原則に立つてゐると言つた。その成立の条件の中には、當時わが前衛を支配してゐた解黨主義があつたことを言つた。そして、かゝる二階級の合成黨は小ブルジョア黨に墮する危険があるも

のであつて、舊労働農民黨にとつて唯一の再生の道は、政黨の形をとらぬ、工場農村からの大衆動員形態に進むことだといつたのだ。

\* 参照 『マルクス主義』一九二九・一二月號——著者。

なぜ、現存の吾々の所謂「合法的大衆的無産政黨」を排するのか？ それは、彼等の黨が無産黨でも何でもないからだ。小ブルジョア黨、社會民主黨であるからだ。

吾々はさらに主張した。白色テロルの下に悪戦苦闘してゐる唯一のプロレタリアート——×××を大衆化し、合法化しようとするより以外の一切の企ては、現在の政治的警察的條件の下で合法的に「無産政黨」をつくつてそれから「横断左翼」を作成するなどの企ては、必然に社會民主黨に墮してしまふ、と。

「勞農」一派の解黨主義者流には永久に黨の意義が解らない。プロレタリア黨「無用論」を振り廻してゐるのは實に彼等なのだ。彼等の「横断左翼」、「前衛分子」、「先進分子」といふのは、永久に傾向としての左翼である。行動しない左翼である。彼等は一九二五—二六年の單一無産政黨組織運動時代の夢を見てゐる。労働組合の全國的統一と、「無産黨」（實は社會民主諸黨）の合同とを、ゴツチャにしてゐる。共産主義と社會民主主義との二つの調和すべからざる陣營に分裂し、敵對してゐることを理解せず、自分自身が社會民主主義の尻馬に喰付いてゐることに氣附かぬのだ。

左翼社會民主主義者のデマゴグも厭す



×××攻撃の第一線に立つてゐる點に於て、確かに『勞農』一派は社會民主主義者の「前衛分子」である。水長、神兵の連中は彼等にとつて「舊新黨準備會の先進分子」であり、合法黨即時結成に「鬱勃たる舊準備會大衆」である。彼等は「可能なる部面より即時結成へ」とすゝめてゐる。言ひ換へれば、彼等の合法主義宣傳とデマゴグとで、手のついた所から舊準備會を切り崩して行け、水長、神兵に倣つて地方政黨をこしらへて、行く／＼社會民主黨派と合同させよと云ふのである。

「勞農黨を近出的に再建せよ」然り、それは唯一のプロレタリア×××の大衆化によつてのみ可能である。之のみが、資本家地主政府のテロルに對抗し、鈴木、松岡から『勞農』一派に至る社會民主主義者共を粉碎することが出来るのだ。

彼等は口を開けば「日常政治闘争」といふ。それでは、どういふ闘争をやつてゐるのだ？ 田中内閣を倒せと民政黨でも云ふことを繰り返してゐるだけではないか。なぜにこの死刑法議會の解散のために戦はぬのか！ なぜに、資本家地主の政府を××、労働者農民の政府××と云ひ得ないのか！ 「徹底普選」の運動とかは何處へ飛んで行つたのか？ 彼等は口を開けば「先進分子」を氣取つてゐるが、日本大衆黨の改良主義指導者共に對する闘争はなぜにやらないのか？ それが適正なる戦術なのか？

か？

## 六

「八重咲きの社會民主主義者共」の間にまじつて、その一輪『勞農新聞』の演ずる役割は大きい。革命的労働者を煙に巻き、×××の擴大と強化とを妨害するためにはさまざまな革命的言辭をも吐き散らす、その一切は大衆を合法主義の毒ガスで窒息させるためである。

最悪の日和見主義者『勞農』一派を叩き潰すことは、革命的プロレタリアの任務の一つだ。彼等の影響下にある若干の労働者を奪還すること、常に吾々の目的と方針とをその大衆に示し、下から共同の闘争を展開して、吾々の方針を理解させ、之に共鳴させること、彼等が踏臺にしてゐる若干の労働組合、農民組合、青年同盟等に×××のフラクションを組織し擴大してその基礎を覆へすこと、彼等の巧妙な分裂政策に對抗して、大衆團體の階級性を守り、彼等の日和見主義的團體をあらゆる場合に大衆の前に暴露すること、『無産者新聞』の配布網をより擴大し、『無産者新聞』發行禁止反對運動を通じて『勞農新聞』を撃破すること——これらがこの最悪の日和見主義者を掃蕩するためになすべきことである。

——無署名、『無産者新聞』一九二九・二・一〇 第二〇六號——

左翼社會民主主義者のデマゴグを駁す



産業合理化と労働組合の任務



- 一 産業合理化とは何か
  - 二 日本の経済状態と産業合理化
- 〔以下削除〕

### 一 産業合理化とは何か

一 昨年の金融恐慌を機会に、資本の集中化、トラスト化は急速に進み、金融資本はその王位を確立し、全資本家階級は、労働階級に對してヨリ一層の攻撃的態度に出てゐる。荒れ狂ふ白色テロルと労働組合の弾壓、その合法性の剝奪と大衆的逮捕——その上、彈壓と改良主義者の協同との故に、ストライキは連続的に敗北し、昨年中にはストライキ件數も減つた。しかもストライキ日數の延長してゐる事實は、如何に労働者が惡戰苦闘しつゝあるかを物語るものである。

この資本の攻撃の土台となり、労働者を犠牲にして進行してゐるものが、所謂産業の合理化である。合理化は今や着々と進んでゐる。そして用意のない労働者をどやしつけ、労働條件を惡化し、多數の労働者を街頭に放り出し、全労働階級の窮乏と負擔とを増大させてゐるのである。

一體、産業の合理化とは何か？

歐州戦後に、世界最大の富國たる米國の資本家は労働貴族を買収し、労働大衆の生活惡化をよそに、急速に資本の集中と新生産技術の應用とを行ひ、巨大な生産力の増大を實現した。次いで、資源と市場とを失ひ、その經濟生活を殆んど破壊されたドイツのブルジョアジーが、労働者の犠牲の上に、僅かの期間に生産の技術を革命化し、「合理化」した。没落しつゝある英國の資本主義は、總罷業

産業合理化と労働組合の任務



と炭坑夫罷業とを打ち負かし、改良主義の助けをかりて。「産業平和」を唱へて産業合理化をやり始めた。そして、全般的危機に陥つた世界各国の資本主義が必死になつて、今やその合理化によつてその危機を救ひ、「安定」を持続しようとして試みてゐる。

工場の経営法は、在來のテーラリズムから、もつと狡猾なフォード制度に移つた。英國ではモンデイズムと呼ばれてゐる。帝國化學工業會社々長アルフレッド・モンドといふ帝國主義者が主唱したから、その名を得たもので、彼は慘酷な合理化の過程を、徹底的に偽瞞的な勞資協調策で蔽ひかくしてゐるのである。

産業の合理化は、資本の集中と經營の集中的統制、組織化を意味する。それは、企業の間、生産規模の擴大、生産組織の單純化、機械の徹底的應用、商品の價格統一（スタンダード・デイゼイション）、工場の集中、管理の専門化、取引の單純化等を意味する。それは賃銀の引下げ、その他の勞働條件の悪化をもたらし、巨大な失業軍の増大をかます。さらに、産業合理化は、その重要な一要素として、改良主義者の協力による偽瞞的な「勞資協調」策をまつて初めて、遂行される。

實に、資本主義的な産業合理化とは、勞働者にとつて、堪え難いほどに心身を消耗し、疲勞させる能率増進制度の強行と、それに伴ふより多くの被搾取と勞働條件の悪化と、巨大な失業軍以外には、何ものをも意味しないのである。それは一層シボられること、ヨリひどいペテンにかゝることだ。そ

して、この産業合理化自體は、少しも資本主義の危機を除去するものではなく、かくして増大した生産力と、縮小した市場との矛盾を深め、大衆の一層の窮乏によつて、その反抗を促し、市場をめがけ利潤をめがけた帝國主義者をして、益々急速に一大戦争に追ひやるのだ。

## 二 日本の經濟狀態と産業合理化

大戦以來數次の恐慌を経験した日本の經濟狀態は、少しも改善されてゐない。所謂「不景氣」はつき、失業者は街頭に満ちてゐる。物價は國際的水準以上に高い。貿易は入超をつゞけてゐる（昨年の内地入超は二億二千四百萬圓、朝鮮、台灣を合して三億三千四百萬圓）。工業は狭少になつた市場難に苦しみ、就中、中小工業の狀態はひどい。

その間に資本の集中、經營の合同は着々と進み、金融資本はその地位を益々鞏固にした。工業資本と銀行資本の合成たる金融資本が如何に強大になつたかは、次の若干の數字からも知ることが出来る。金融恐慌の後に、五大銀行は一躍、六億四百萬圓の預金を吸収し、その預金合計は一九二七年末に二十八億二千八百萬圓に上り、實にその預金が全國組合銀行の總預金中に占める割合は、前年末の三八パーセント五から五一パーセント七に進んだ。郵便貯金も短期間に約三億圓を増大した。一九二七—八兩年度の銀行合同並びに合同、進行中のものは約二四〇行にのぼる。しかも之等の銀行資本の



多くは、コンツェルンの形で、大工業資本と結んでゐるのである。

生産力は増大してゐる。鐵網、鋼材、生絲、綿絲、織物、砂糖、人造肥料、洋紙等の工業生産額は何れも増大してゐる。農産物も總じて増加した。鑛産物は全く行詰り、又は減退ししゐる。

日本の資本主義の根本的な矛盾は、少しも緩和されてゐない。資源は枯渇してゐる。増大した生産力と狭少になつた市場との矛盾は、益々激しくなつた。發達した工業生産と農村における半封建的な生産搾取關係との矛盾も大きくなる。この危機（彼等は行詰りと思つてゐる）を切り抜けようとする資本家の努力は、労働者階級に對する一層の攻撃と海外における侵略政策となるのである。今、試みに各重要産業の状態を調べてみよう。

紡績業は拂込資本金と積立金と合して六億三千萬圓を擁し、一年二百六十萬圓の綿絲を生産する。彼等は生産過剩のために二割三分の操短をやつて、なほこれだけの生産額を示し、人爲的に價格を引上げ、平均二割三分の利益をせしめてゐるのである。ところが、支那革命その他の原因のために、綿絲輸出額は僅かの期間に激減した——一九二五年三一〇、八〇一圓、一九二六年二〇五、五五〇圓、一九二七年一一七、六五四圓。そこで彼等は、勞賃が高い、深夜業廢止は生産費を高める、税の負擔が重いなど、文句を云ひ出す（武藤山治）。在支紡績資本家は「労働争議の頻發は労働時間の短縮と勞の銀値上げを強ひられ、或は不當課税（一）の無制限的増率を餘儀なくさせる」と痛憤する\*。武藤山

治の實業同志會が營業税の撤廢に狂奔し、侵略政策の田中内閣を支持する所以もハッキリわかるではないか。今や彼等は一齊に叫ぶ、現状打破に産業合理化が必要だ、と。

\* 時事新報經濟部編『日本産業の合理化』武藤山治「合理化から見た我が紡績業」第三五六頁——編者。

\*\* 『エコノミスト』一九二九年一月十五日號「在支紡績の前途多事」なる廣告文、——著者。

製絲業は、拂込資本金約一億五千萬圓、酷惡な労働條件の下に女工を搾り上げ、一年八百萬貫の生絲を生産し、平和一割四分の利益をあげてゐる。これも人絹の壓迫等のために輸出が下り坂になり、昨年は一昨年に比して輸出額が八十五萬斤減つた。製絲戸數は年々減少し、五〇釜以下のやうな小製絲家は没落して、機械製絲工場が増加してゐる。その壓迫は女工のみならず、蠶を賣る農民にも向つてゐるのである。そして資本家は、「行詰りの對策には、蠶絲業の合理化あるのみ」といつてゐる（片倉製絲社長今井五介）。

\* 時事新報社經濟部編 前掲（今井五介『蠶絲業の悩みと其の合理化』）第三三三頁——編者。

機械工業では、一般機械、電氣機器、原動機の製造、造船、車輛、器具、金屬品の製造その他を合して、約六億三千萬圓の拂込資本を有し、年産額四、五萬圓、利益は五分から一割二分ほどである。大戦中は大盛況で、年産額八億二千萬圓、輸出一億圓を越え、輸入數千萬圓を減じたが、戦後の恐慌に最もひどい影響を受け、最近は一億一千萬圓、輸入は一億二千萬圓に上るに至つた。わが國の機械は

産業合理化と労働組合の任務



極めて基礎が弱く、本来大工場中心であるべきものが、かへつて中小工場、所謂町工場が多い。従つて一工場當りの年生産額は僅々十二萬圓ほどであり、平均職工数は五十三人である。工作機械製造の大きい所は、唐津、池貝、新潟、大隈、汽車會社、瓦斯、電氣等であるが、その産額は一時の一千六百萬圓から、八九百萬圓に減つた。

造船業は殊に惨めなもので、戰爭中五十七工場、年建造高六十萬噸、約四萬圓が、今では二十餘工場、年建造高約五、九萬噸に減じ、數千數萬の職工を減首し、全建造能力の一、二割を利用してゐる。海軍工廠を別にして、三菱、川崎、横濱ドック、浦賀ドック、三井造船等が主なところであるが、かたはら橋梁、鐵塔、車輛、原動機、航空機等を作つて維持してゐた。これに反して車輛は鐵道省をお得意に持つてゐるので、やゝ景氣がよく川崎、汽車會社、日本車輛、日立、田中車輛、梅鉢、新潟等は、平均して二割以上の利を上げてゐる。その他、電氣機器製造は發達中だが、紡績機械、鑛山、土木、建築、窯業用機械の製造は餘り振はない。恐慌で最も傷手を蒙り、現在も彼等の利益が他に比してあまり良くない所から、この産業の資本家は特に合理化の必要を感じてゐるのである。

資本家の番頭も一齊に合理化の必要を叫んでゐる。「何といふ性根のな、何んといふ知恵のな、そして何といふ誠意と勇氣とに缺けた社會だ」と痛憤し、「五里霧中の日本」、「心細いわが事業」の状態を嘆いて、産業合理化の必要を結論する。(時事經濟記者山崎靖純)。四條商工次官は、「わが國民も經

濟的國難の重大なる時局に目醒めて猛省一番、わが國産業の合理化に邁進せむことを切に希つて」ゐる。

\* 時事新報經濟部編 前掲(山崎靖純『日本財界の行詰と産業合理化の必要』) 第八、九頁、—編者。

\*\* 前掲(四條隆英『我が産業合理化の要諦』) 第八四頁—編者。

「産業の合理化」は、全資本家共通のスローガンとなつた。労働者階級は、それに對して、「その結果たる労働者の條件の悪化に絶對反對だ」と叫び返さねばならぬ。——つゞく——

〔以下缺除—編者〕

—署名「永田幸之助」、『労働新聞』一九二九・二・一〇、第五號—



支那革命の前途



- 一 支那革命は成就されたか
- 二 支那革命の三つの段階
- 三 国内の状勢
- 四 労働運動と農村の闘争
- 五 革命の前途と中國共産黨
- 六 日本プロレタリアートの任務

### 一 支那革命は成就されたか

張作霖と張宗相とに代表された北方軍閥が倒れてから、支那の形式的な統一が出来上つた。雙十節の「革命的意義」が鳴物入りで宣傳された。五院制度が樹立され、新政府の基礎成ると稱された。政府要人は各々その抱負と経綸とを述べた。昨日まで北伐の目標だつた張作霖の息、張學良がいつの間にか政府委員の一人に擧げられ、奉天その他でもこのほど、五色旗を引づり下して青天白日旗を掲げた。

國民黨は、これから「訓政期」に入るのだといつてゐる。もう革命的行動の時期は過ぎたのだと言つてゐる。現在の時期に國民群衆を訓練してだん／＼「政治」といふものが解るやうにして、次の「憲政期」の準備をするのだと言つてゐる。

それでは果して支那革命の目的は達せられたのか？ 否、斷じて否！ では少くともその一半でも達せられたのか？ 否、斷じて否！

帝國主義者と裏切的國民ブルジョアジーとは、相和して革命の任務は達成され、成就されつゝあるやうな偽りの宣傳をする。そして、社會民主主義者がその尻尾にくつついて太鼓を叩く（社會民衆黨）。此頃日本でも歐米でも盛んに出る「革命支那」とか、「支那は何處へ行く？」と言つた式の本には、



かういふのがなく少くない。帝國主義者の取る第二の見地は、支那は分らぬ、支那のことは朝夕その動きが計り難いといふ議論である。これは支那語が片言出来る位の凡俗無能な新聞記者の見地であり、支那各地に店を持つてゐる中小商人、小資本の企業家、大企業の雇員等の心理、戦亂毎に西に東に避難し歩く「居留民」「在支邦人」の心理状態を反映したものである。けれども、ほんとうには、帝國主義者は事實をより一層正確に認識してゐる。彼等は國民革命の任務が達成されて居らぬことを何よりも正確に知つてゐる。彼等こそ、支那民衆の土地を攻略し、略收し、占領して、數十萬の勞働者農民を×してゐる張本人なのである。彼等は十九世紀末及び二十世紀初頭以來その握つてゐる利權を決して離さないのである。

彼等は革命の敗北を歡呼してゐる。そして、革命は敗れたといふ代りに、革命は成就されたといつて勤勞大衆を誤魔化すか、或はもつと簡単な手管で、即ち月並な「支那は解らぬ」といふ言葉で、一體支那はどうなつてゐるのかも知らぬ大衆を、所謂「國民」を、偽瞞してゐるのである。

内部の矛盾、革命の主要問題は未解決で残されて居る許りか、寧ろ益々尖鋭になつてゐる。××は山東省一帯を占領して、斷じて撤兵しようとしなぬ。滿洲は日本の植民地同様だ。南支那では前よりも一層英國の支配權が確立した。帝國主義者は決して、その利權、不平等條約、關稅權等を撤回しようとはしてゐない。國民黨の南京政府は、二三諸國との條約改訂を得々と誇示してゐるが、それとて

もいたして支那に利權を持たぬ中小國との間か、又鐵道やその他利權を目掛けて帝國主義國が國民黨支那を自分の勢力下におかうとする企圖からの産物なのだ。否、かやうな改訂條約自體も屈辱條約として激しい反對に會つてゐるではないか。

昨秋雙十節の際、米國系の週刊誌『密勒氏時報』は、革命成功記念の特別號を出した。政府要人の虹のやうな氣焰や抱負、曰く財政改革、曰く裁兵案、曰く大借款、曰く瀧海鐵路の完成、曰く海州築港等々と、誠に國民黨治世の前途は洋々たるものゝやうに見える。

主筆ミユラー氏は、その巻頭の諸論文の冒頭に題して曰く「一九一一年と一九二八年」と。彼は洗練された新聞記者の筆致を以つて、支那國民運動の發達を叙し、一九一一年の不成功と一九二八年の成功を、今日の困難さと残された諸問題を論じてゐる。彼は一九二八年に於ける共和主義、デモクラシーの勝利を祝つてゐる。彼は、次の論文で、激しく日本の軍國主義を、日本の專制主義を痛撃してゐる。一九一一年に支那の共和制を誅り殺さうとした日本の陰謀を暴き、日本の×××を、將軍田中を罵つて、一九二八年に於けるその同様な陰謀、出東出兵を難じてゐる。彼に従へば、支那革命の目出度い大團圓を妨げてゐるのは、たゞ日本の山東占領とその滿洲に於ける利權のやうだ。

これもまた一個の偽瞞である。達筆なるミユラー氏は、結局、新銳の米國帝國主義のお先棒になつて弗の前進する道を描ひ清めてゐるに過ぎない。



今や日本の帝國主義者も正直に述べるやうになつた。少くとも、國民黨が、數十萬の労働者農民の革命家を刑殺し、サヴェート同盟に敵對し、「清黨」「討赤」の誠意を示すや、對支貿易業者や投資家はホットした。國民黨は一切の革命的勢力と絶縁した。今や彼等はさも物知顔に、但し自信を以つて言明する、「もとく三民主義なるものは温和なる自由主義ともいつてもよい位のもので何ら恐るべきものではない。」矢田總領事が、有田局長が、又近くは「田中の走狗」床次竹二郎が、各々繰返して、國民政府の信賴するに足ること、交渉の相手たるべきことを裏書してゐる。

\* 『エコノミスト』一月一日號—在支紡績委員長、谷口虎藤氏の文 『寧ろ樂觀すべき在支紡績業』—著者。

そして、その國民黨治下にあつて民衆の苦悶は言語に絶してゐる。一切の労働運動は禁壓され、白色恐怖が横行してゐる。

支那大革命の任務は斷じて成就されては居らぬ。

## 二 支那革命の三つの段階

それでは一九一一年と一九二八年との區別は何に存するか？

一九一一年の革命は、第一に滿洲族に對する漢族の國民革命であつた。第二に、封建的收奪と退嬰

的生活と頽廢との象徴であつた清の王朝に對する打撃であつた。それは、官僚政治と事大主義とを打破して、全國を社會的進歩に應じさせること、即ち自由なる資本主義の發展を遂げさせることを目的にした、一言にしていへば、封建制打破、全國統一を目的にしたブルジョア革命であつた。第三に、それは敗北したブルジョア革命であつた。孫逸仙に代表された若いブルジョアジエは、清朝治下に自國が刻々に列強帝國主義に蠶食され、その植民地化されるのに憤激して起つたものではあつたが、彼等はたゞにこの植民地化を防ぐことが出来なかつた許りか、實質上には封建的勢力に打ち敗かされてしまつた。革命は舊勢力に、官僚と軍閥とに奪奪された。ブルジョアジエはなほ弱かつた。大地主と買辦ブルジョアジエとが、また彼等を兼ねた軍閥と官僚とがなほ優越した。

この時代には、ブルジョアジエは未だ勤勞群衆なるものを知らなかつた。後者は未だ歴史の舞臺に登場してゐなかつた。

歐洲の大帝國主義戦争は、全世界に深大な震動と影響とを與へた。支那でも工業化が始まつた。この資本主義發達は、二つの階級を、即ち國民ブルジョアジエと、今まで下積みになつてゐた勞役——苦力の大衆を率ゐて起つべきプロレタリアートとを生んだ。それと同時に、中華民國の植民地化——列強帝國主義への隸屬化は加速度に進んで行つた。帝國主義の爪牙は益々延びて行き、支那の全經濟生活の鍵は帝國主義者に握られ、素亂した財政の尻ぬぐひのために労働者農民群衆の肩に一層の收奪



と誅求とがのし掛かつた。農村は窮乏化して土匪が横行するやうになつた。

封建的領有と土地財産とは、固く官僚及び軍閥(督軍)と結び、後者は帝國主義者の道具であり、また買辦共は帝國主義者とは切つても切れぬ腐れ縁でつながつてゐた。上海その他の新企業を中心に成長した國民ブルジョアジイは、この網の目にながれながらも、外國帝國主義とは鋭い利害の對立をしてゐた。彼等はヨリ多くの獨立を、ヨリ多くの自由を欲した。これが、日本の二十一ヶ條要求に端を發した排日運動から、パリ講和會議等を経て、一九二四年に至るまでの國民運動の基調をなしたものであつた。其は主として、學生の運動であり、ブルジョアジイの利益のためにする、小ブルジョアの運動であつた。

一九二五年の五卅事件は、まさに支那大革命に於ける「一月九日」であつた。今や初めてプロレタリアートが、勤勞群衆が、帝國主義に對する鬭争に、國民革命の舞臺に現れ出た。この時を期として、初めて國民運動は、大衆の鬭争、國民革命となつた。

大革命の第一期は、所謂「北伐」前進の時代である。支那革命は、支那に於ける封建殘物に對する鬭争であると共に、その半植民地的地位の故に反帝國主義の革命戦であり、また本質的に農業革命でなければならなかつた。それ故に、幾多の特殊性を持つて居り、また多種多様な經驗を提供した。全支那に波及した五卅事件と香港大罷工とは、革命の口火を切つた。數百萬、數千萬の群衆は刻々に政

治的に自覺し始め、大小のストライキは連続して起つた。廣東政府とは實に、この狀勢を背景にしたブルジョアジイ、小ブルジョアジイ、農民並びに勞働者のプロツクの政府であり、而もその指導權はブルジョアジイの手中にあつた。國民ブルジョアジイはこの機を逃せず、プロレタリアートとその前衛との準備を待たないで、「北伐」軍を興した。「打倒帝國主義」、「打倒北洋軍閥」がそのスローガンであつた。小ブルジョアの三民主義がその教理であつた。プロレタリアートの前衛——中國共產黨は、この北伐に反對せず、寧ろこれを支持し、これに参加して、大衆をゆり起し自覺させ、組織して革命の指導權を争はふとした。

この國の特殊性の一つとして、軍事行動の進展は、革命の進展を意味した。革命の前進は、同時に革命に於ける領導權を目標けた鬭争の發展、激化を意味した。一九二四年の國民黨改組以來、これに参加した中國共產黨は、内部にあつてブルジョアの右翼と争ひ、大衆の支持を得、小ブルジョア分子と結んで左派も形成した。一九二六年三月のクーデターは、將來に於ける國民ブルジョアジイの完全な裏切りを豫想させるに十分であつた。

この期間に革命の潮は南支那一帯に波及し、勞働者及び農民の大衆團體(勞働組合、農民協會等)が破竹の勢で増大した。けれどもプロレタリアートは未だ弱かつた。黨自體も急速に増大して行つたがその指導は決して充分でなかつた。その内部には革命の潮と共に、幾多の小ブルジョア分子が這入り



込み、日和見主義の影響を強くした。その政治的訓練は幼稚だった。従つて、群衆の眼にも、三民主義と××主義との區別が分らなかつた。黨は鐵火の試練を未だ経て居なかつた。それは武力を持たなかつた。

近い將來に於けるブルジョアジーとの絶縁を見込し、群衆にブルジョアジーの裏切的性質を警告しつゝ、鬭争の裡に群衆を克ち取る代りに、黨はたゞ國民黨内に於ける左右の鬭争に、驅引に、局限した。恐るべき日和見主義は、播居してゐた。

大革命の第二の時期は、蒋介石の裏切りから、武漢政府の没落に至る時期である。反帝國主義の「北伐」前進と共に、國際帝國主義の壓迫と脅威と干渉とは益々甚だしくなつた。五卅事件に於ける南京路の流血の比ではなかつた。大軍隊と大艦隊とが南支那の一帶を威嚇した。ブルジョアジーは益々動搖するやうになつた。プロレタリアートは、それにも屈せず、その英雄的××蜂起によつて上海を占領した。その勝利のちかどきの消えぬ間に、早くもブルジョアジーによるプロレタリアートの武装解除、赤色工會の閉鎖、革命家追求が始まつた。蒋介石が裏切つた。國民ブルジョアジーは決定的に革命を裏切つた。共產黨は、反帝國主義といふ一般的目标に見とれ、ブルジョアジーとの一時的同盟を出来るだけ引き延ばしておかうといふ顧慮に煩はされて逡巡した。労働者側は次々に退却した。

やがて、裏切つた國民ブルジョアジーに對抗して、國民ブルジョアジーの一部、小ブルジョア、

プロレタリアート及び農民の諸階級が同盟して、新政府をつくつた。これが南京政府に對する武漢政府であつた。二重権力の對立は、こゝでは、首府を別にした二つの政府の並立となつて現はれた。武漢政府は分裂した後の、左翼國民黨を背景にした。國民黨は、事實上、廣大な大衆の黨となつた。群衆は迫つて帝國主義から租界を奪還し、利権を奪ひ、ストライキは相續いて起り、農村では貧農の地主退治が始まつた。わけでも廣東、湖南、湖北、江西等の諸省は革命の坩堝のなかで、にえくり返つてゐた。

けれども、再び危機がやつて來た。労働者の力が強くなり、農民の一揆が波及するにつれて、小ブルジョアジーとの乖離が深くなつた。小ブルジョアジーは、平民的な農業革命の進行を最も恐しがつた。分裂は不可避であつた。そしてこの時期に、中國共產黨の日和見主義は、革命のために最も致命的な結果を招來した。ポロデーイン派の日和見主義は、あはれむべき終末に達した。共產黨は次々の退却によつて、武漢政府の小ブルジョア指導者との關係をつながうとしたが、それはたゞ革命を損ふのみであつた。勤勞群衆の底知れぬ力におびえて、左翼國民黨の「山岳黨」的英雄達は、逸早く刑殺者蒋介石に手をさし延べた。武漢政府の將軍達は、大刀會討伐、赤槍會討伐、農民一揆鎮壓の軍をはじめた。

かくして武漢政府は没落した。